

基本計画書

基本計画			
事項	記入欄	備考	
計画の区分	研究科の専攻（専門職大学院）の設置		
フリガナ 設置者	コクリツダイガクホウジン クマモトダイガク 国立大学法人 熊本大学		
フリガナ 大学の名称	クマモトダイガクダイガクイン 熊本大学大学院（Graduate School, Kumamoto University）		
大学本部の位置	熊本県熊本市中央区黒髪二丁目39番1号		
大学の目的	1. 教育 個性ある創造的人材を育成するために、学部から大学院まで一貫した理念のもとに総合的な教育を行う。学部では、幅広く深い教養、国際的対話力、情報化への対応能力及び主体的な課題探求能力を備えた人材を育成する。大学院では、学部教育を基盤に、人間と自然への深い洞察に基づく総合的判断力と国際的に通用する専門知識・技能とを身につけた高度専門職業人を育成する。また、社会に開かれた大学として、生涯を通じた学習の場を積極的に提供する。 2. 研究 高度な学術研究の中核としての機能を高め、最先端の創造的な学術研究を積極的に推進するとともに、人類の文化遺産の豊かな継承・発展に努める。また、総合大学の特徴を活かして、人間、社会、自然の諸科学を総合的に深化させ、学際的な研究を推進することにより、人間と環境の共生及び社会の持続可能な発展に寄与する。 3. 地域貢献・国際貢献 地方中核都市に位置する国立大学として地域との連携を強め、地域における研究中枢の機能及び指導的人材の養成機能を果たす。世界に開かれた情報拠点として、世界に向けた学術文化の発信に努めることにより、地域の産業の振興と文化の向上に寄与する。また、知的国際交流を積極的に推進するとともに留学生教育に努め、双方向的な国際交流の担い手を育成する。		
新設学部等の目的	【教育学研究科教職実践開発専攻（専門職学位課程）】 ◇本専攻で養成する人材像 学校教育の現場や教育委員会との密接な連携に基づき、学部からの進学者及び現職教員が理論と実践の往還を通して相互に刺激し合いながら教員としての力量を高めていく場を創出し、今後の初等・中等教育の牽引者となりうる人材（優れた新人教員及び中核の中堅教員）を養成する。変更後は特に、開設以来の理念である学部新卒学生と現職教員学生、研究者教員と実務家教員による「学び合い」や共通科目における総合的・統合的な力量形成を引き続き重視しながら、「生徒指導・教育相談」「学校経営」に重点を置く【学校教育実践高度化コース】、「授業実践開発」に重点を置く【教科教育実践高度化コース】及び「特別支援教育」に重点を置く【特別支援教育実践高度化コース】からなる3コース制を新たに導入し、今後の学校改革を牽引しうる優れた（現職教員の場合には高度な）力量を持つとともに、それぞれが学校現場において中心的に担う分野について特に優れた（現職教員の場合には特に高度な）資質・能力を有する教員を養成する。 ◇各コースで養成する人材の特色 【学校教育実践高度化コース】 （1）現職教員：高度な「授業力」「生徒指導力」「経営力」と、それらを基盤として支える「研究力」「開発力」（特に生徒指導（心身の健康に関する教育を含む）や学級経営・学校経営についての深い理解と高度な資質・能力）を有し、主幹教諭、研究主任、指導主事、管理職等として指導的立場から教育の質の向上に貢献し、学校改革をマネジメントしうる教員。 （2）学部からの進学者：優れた「授業力」「生徒指導力」「経営力」と、それらを基盤として支える「研究力」「開発力」（特に生徒指導（心身の健康に関する教育を含む）や学級経営・学校経営についての深い理解と優れた資質・能力）を有し、授業実践、生活指導、学級経営等の即戦力として学校教育の質の向上に貢献し、学校改革を牽引しうる教員。 【教科教育実践高度化コース】 （1）現職教員：高度な「授業力」「生徒指導力」「経営力」と、それらを基盤として支える「研究力」「開発力」（特に教科教育の授業実践開発についての深い理解と高度な資質・能力）を有し、主幹教諭、研究主任、指導主事、管理職等として指導的立場から学校教育の質の向上に貢献し、学校改革をマネジメントしうる教員。 （2）学部からの進学者：優れた「授業力」「生徒指導力」「経営力」と、それらを基盤として支える「研究力」「開発力」（特に教科教育の授業実践開発についての深い理解と優れた資質・能力）を有し、授業実践、生活指導、学校経営等の即戦力として学校教育の質の向上に貢献し、学校改革を牽引しうる教員。		

新設学部等の目的		【特別支援教育実践高度化コース】 （１）現職教員：特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒に対する「障害特性の理解」と「指導力」、校内支援体制の「コーディネーター力」、特別支援教育を推進するための「研究力」「開発力」、インクルーシブ教育システムに関する理解等において特に優れ、主幹教諭、研究主任、指導主事、管理職等として指導的立場から教育の質の向上に貢献し、学校改革をマネジメントしうる教員。 （２）学部からの進学者：特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒に対する「障害特性の理解」と「指導力」、校内支援体制の「コーディネーター力」、特別支援教育を推進するための「研究力」「開発力」、インクルーシブ教育システムに関する理解等において優れ、学校における特別支援教育推進の即戦力として教育の質の向上に貢献し、学校改革を牽引しうる教員。										
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 教育学部 14条特例の実施教職大学院			
	大学院教育学研究科 [Graduate School of Education] 教職実践開発専攻 [Professional Development Course in School Education]	2	30	—	60	教職修士（専門職） 【Master of Education(M. Ed.)】	令和2年4月 第1年次	熊本県熊本市中央区黒髪二丁目40番1号				
	計		30	—	60							
同一設置者内における変更状況 （定員の移行、名称の変更等）		医学部 医学科〔定員減〕（△5）（令和2年4月）										
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数						
		講義	演習	実験・実習	計							
	教育学研究科 教職実践開発専攻	0 科目	84 科目	11 科目	95 科目	48(50) 単位						
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等			
				教授	准教授	講師	助教	計			助手	
	新設分	大学院教育学研究科 （専門職学位課程） 教職実践開発専攻			人	人	人	人	人		人	人
					27 (27)	29 (29)	1 (1)	0 (0)	57 (57)		0 (0)	10 (10)
		計			27 (27)	29 (29)	1 (1)	0 (0)	57 (57)		0 (0)	— (—)
	既設	大学院社会文化科学教育部 （博士前期課程） 法政・紛争解決学専攻			20 (20)	19 (19)	4 (4)	0 (0)	43 (43)		0 (0)	23 (23)
		現代社会人間学専攻			12 (12)	11 (11)	0 (0)	0 (0)	23 (23)		0 (0)	6 (6)
		文化学専攻			18 (18)	26 (26)	1 (1)	0 (0)	45 (45)		0 (0)	5 (5)
		教授システム学専攻			5 (5)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	11 (11)		0 (0)	19 (19)
		（博士後期課程） 人間・社会科学専攻			31 (31)	22 (22)	4 (4)	0 (0)	57 (57)		0 (0)	0 (0)
		文化学専攻			18 (18)	23 (23)	0 (0)	0 (0)	41 (41)		0 (0)	2 (2)
		教授システム学専攻			5 (5)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	11 (11)		0 (0)	2 (2)
		大学院自然科学教育部 （博士前期課程） 理学専攻			35 (35)	31 (31)	0 (0)	10 (10)	76 (76)		0 (0)	46 (46)
		土木建築学専攻			14 (14)	19 (19)	0 (0)	6 (6)	39 (39)		0 (0)	44 (44)
		機械数理工学専攻			15 (15)	14 (14)	1 (1)	5 (5)	35 (35)		0 (0)	41 (41)
	概要分	情報電気工学専攻			19 (19)	17 (17)	0 (0)	8 (8)	44 (44)		0 (0)	45 (45)
		材料・応用化学専攻			15 (15)	18 (18)	0 (0)	8 (8)	41 (41)		0 (0)	46 (46)

教 員 組 織 の 概 要	既 設 分	(博士後期課程) 理学専攻	38 (38)	34 (34)	0 (0)	10 (10)	82 (82)	0 (0)	35 (35)	
		工学専攻	63 (63)	67 (67)	1 (1)	25 (25)	156 (156)	0 (0)	35 (35)	
		大学院医学教育部 (修士課程) 医科学専攻	64 (64)	45 (45)	27 (27)	37 (37)	173 (173)	0 (0)	8 (8)	
		(博士課程) 医学専攻	64 (64)	44 (44)	27 (27)	36 (36)	171 (171)	0 (0)	8 (8)	
		大学院保健学教育部 (博士前期課程) 保健学専攻	19 (19)	7 (7)	3 (3)	2 (2)	31 (31)	0 (0)	18 (18)	
		(博士後期課程) 保健学専攻	19 (19)	6 (6)	3 (3)	2 (2)	30 (30)	0 (0)	0 (0)	
		大学院薬学教育部 (博士前期課程) 創薬・生命薬科学専攻	19 (19)	14 (14)	3 (3)	13 (13)	49 (49)	0 (0)	54 (54)	
		(博士後期課程) 創薬・生命薬科学専攻	12 (12)	7 (7)	3 (3)	8 (8)	30 (30)	0 (0)	40 (40)	
		(博士課程) 医療薬学専攻	7 (7)	7 (7)	0 (0)	5 (5)	19 (19)	0 (0)	23 (23)	
		計	512 (512)	443 (443)	77 (77)	175 (175)	1,207 (1,207)	0 (0)	－ (－)	
合 計		539 (539)	472 (472)	78 (78)	175 (175)	1,264 (1,264)	0 (0)	－ (－)		
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計			
	事 務 職 員		399 人 (399)		557 人 (557)		956 人 (956)			
	技 術 職 員		105 (105)		293 (293)		398 (398)			
	図 書 館 専 門 職 員		8 (8)		0 (0)		8 (8)			
	そ の 他 の 職 員		1,147 (1,147)		610 (610)		1,757 (1,757)			
	計		1,659 (1,659)		1,460 (1,460)		3,119 (3,119)			
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計	放送大学熊本学習センターとの 共用623㎡ 地上権設定者： 財団法人熊本テクノポリス財団 地上権設定期 間：S62.9.1か ら30年間 (H29.9.1から延 長) 19,945㎡ 貸与者：熊本市 借用期間： H29.4.1から H30.3.31（以 降、毎年度更 新）494㎡ 貸与者：益城町 借用期間： H28.10.1から H30.9.30（以 降、毎年度更 新）331㎡
	校 舎 敷 地		475,024(20,770)㎡		623 ㎡		0 ㎡		475,647(20,770)㎡	
	運 動 場 用 地		39,752(0)㎡		0 ㎡		0 ㎡		39,752(0)㎡	
	小 計		514,776(20,770)㎡		623 ㎡		0 ㎡		515,399(20,770)㎡	
	そ の 他		144,293(0)㎡		0 ㎡		0 ㎡		144,293(0)㎡	
	合 計		659,069(20,770)㎡		623 ㎡		0 ㎡		659,692(20,770)㎡	
校 舎		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
		457,740 ㎡		0 ㎡		1,112 ㎡		458,852 ㎡		
		(457,740 ㎡)		(0 ㎡)		(1,112 ㎡)		(458,852 ㎡)		

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	122 室	90 室	1,206 室	9 室 (補助職員 6人)	13 室 (補助職員 3人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数					
		教育学研究科 教職実践開発専攻			57 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体		
		教育学研究科	84,938 [14,015] (84,938 [14,015])	1,263 [341] (1,263 [341])	17,345 [15,955] (17,345 [15,955])	566 566	4,723 4,723		24 24	
	計	84,938 [14,015] (84,938 [14,015])	1,263 [341] (1,263 [341])	17,345 [15,955] (17,345 [15,955])	566 566	4,723 4,723	24 24			
	図書館		面積 12,347 m ²	閲覧座席数 936	収 納 可 能 冊 数 1,035,084					
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体		
		8,244 m ²	陸 上 競 技 場 1 面 ラ グ ビ ー 場 1 面 サ ッ カ ー 場 1 面 テ ニ ス コ ー ト 14 面	プ ール 50 m 8 コ ー ス ア ー チェリ ー 場 1 基 弓 道 場 1 棟 他						
経 費 の 見 積 び 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		教員1人当り研究費等		227千円	227千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	
		共 同 研 究 費 等		2,570千円	2,570千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	
		図 書 購 入 費	4,353千円	4,353千円	4,353千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	
		設 備 購 入 費	5,654千円	5,654千円	5,654千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次 535千円	第2年次 535千円	第3年次 － 千円	第4年次 － 千円	第5年次 － 千円	第6年次 － 千円			
	学生納付金以外の維持方法の概要			該当なし						
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称		熊本大学							平成29年度より 学生募集停止
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	文学部	年	人	年次 人	人		倍		熊本市中央区黒髪 2丁目40-1	
	総合人間学科	4	55	－	220	学士（文学）	1.06	平成17年度		
	歴史学科	4	35	－	140	学士（文学）	1.07	平成17年度		
	文学科	4	50	－	200	学士（文学）	0.99	平成17年度		
	コミュニケーション情報学科	4	30	－	120	学士（文学）	1.20	平成17年度		
	（学部共通）			(3年次) 10	20	学士（文学）	－	平成11年度		
	教育学部								熊本市中央区黒髪 2丁目40-1	
	小学校教員養成課程	4	110	－	440	学士（教育学）	1.07	平成24年度		
	中学校教員養成課程	4	70	－	280	学士（教育学）	1.04	平成24年度		
	特別支援教育教員養成課程	4	20	－	80	学士（教育学）	1.13	平成19年度		
	養護教諭養成課程	4	30	－	120	学士（教育学）	1.10	昭和52年度		
	地域共生社会課程	4	－	－	－	学士（教育学）	1.05	平成12年度		
	生涯スポーツ福祉課程	4	－	－	－	学士（教育学）	－	平成9年度		
	法学部								熊本市中央区黒髪 2丁目40-1	
	法学科	4	210	－	840	学士（法学）	1.02	平成16年度		
	（学部共通）			(3年次) 10	20	学士（法学）	－	平成12年度		
	理学部								熊本市中央区黒髪 2丁目39-1	
	理学科	4	200	－	790	学士（理学）	1.02	平成16年度		
医学部										
医学科	6	115	－	690	学士（医学）	1.02	昭和24年度			
保健学科	4	144	－	576	学士（看護学）, 学士（保健学）	1.03	平成15年度			
（保健学科共通）			(3年次) 16	32	学士（看護学）, 学士（保健学）	－	平成18年度			

既設大学等の状況	情報電気電子工学専攻	2	—	—	—	修士（工学）， 修士（学術）	—	平成18年度	平成30年度より 学生募集停止
	社会環境工学専攻	2	—	—	—	修士（工学）， 修士（学術）	—	平成18年度	
	建築学専攻	2	—	—	—	修士（工学）， 修士（学術）	—	平成18年度	
	（博士後期課程） 理学専攻	3	—	—	—	博士（理学）， 博士（学術）	—	平成18年度	
	複合新領域科学専攻	3	—	—	—	博士（理学）， 博士（工学）， 博士（学術）	—	平成18年度	
	産業創造工学専攻	3	—	—	—	博士（工学）， 博士（学術）	—	平成18年度	
	情報電気電子工学専攻	3	—	—	—	博士（工学）， 博士（学術）	—	平成18年度	
	環境共生工学専攻	3	—	—	—	博士（工学）， 博士（学術）	—	平成18年度	
	大学院自然科学教育部 （博士前期課程） 理学専攻	2	110	—	220	修士（理学）， 修士（学術）	1.03 0.80	平成30年度	熊本市中央区黒髪 2丁目39-1
	土木建築学専攻	2	75	—	150	修士（工学）， 修士（学術）	1.15	平成30年度	
	機械数理工学専攻	2	65	—	130	修士（工学）， 修士（学術）	1.12	平成30年度	
	情報電気工学専攻	2	103	—	206	修士（工学）， 修士（学術）	1.11	平成30年度	
	材料・応用化学専攻	2	90	—	180	修士（工学）， 修士（学術）	1.05	平成30年度	熊本市中央区本荘 1丁目1-1
	（博士後期課程） 理学専攻	3	12	—	24	博士（理学）， 博士（学術）	0.55 0.74	平成30年度	
	工学専攻	3	46	—	92	博士（工学）， 博士（学術）	0.50	平成30年度	
	大学院医学教育部 （修士課程） 医科学専攻	2	20	—	40	修士（医科学）， 修士（健康生命科学）	0.85 0.85	平成15年度	
	（博士課程） 医学専攻	4	88	—	352	博士（医学）， 博士（生命科学）， 博士（健康生命科学）	0.82 0.82	平成20年度	熊本市中央区九品 寺4丁目24-1
	大学院保健学教育部 （博士前期課程） 保健学専攻	2	24	—	48	修士（保健学）， 修士（看護学）	0.83 0.83	平成22年度	
	（博士後期課程） 保健学専攻	3	6	—	18	博士（保健学）， 博士（看護学）	1.05 1.05	平成22年度	
	大学院薬学教育部 （博士前期課程） 創薬・生命薬科学専攻	2	35	—	70	修士（薬科学）， 修士（健康生命科学）	0.92 0.92	平成22年度	
	（博士後期課程） 創薬・生命薬科学専攻	3	10	—	30	博士（薬科学）， 博士（生命科学）， 博士（健康生命科学）	1.23 1.23	平成24年度	熊本市中央区大江 本町5-1
	（博士課程） 医療薬学専攻	4	8	—	32	博士（薬学）	0.93 0.93	平成24年度	

既設大学等の状況	大学院法曹養成研究科 (専門職学位課程) 法曹養成専攻	3	—	—	—	法務博士(専門職)	—	平成16年度	熊本市中央区黒髪 2丁目40-1	平成28年度より 学生募集停止
	名 称：教育学部附属幼稚園 目 的：附属学校は、教育基本法及び学校教育法に規定する教育又は保育を行うとともに、教育学部の教育計画に従って、次に掲げる事項を行うことを目的とする。 (1) 教育理論及び教育の実践に関する研究並びにその実証を行うこと。 (2) 教育学部学生の実習の実施及びその指導に当たること。 (3) 地方の教育に協力すること。 所 在 地：熊本県熊本市中央区城東町5番9号 設置年月：昭和24年5月 規 模 等：土地 4,632㎡ 建物 1,199㎡ 名 称：教育学部附属小学校 目 的：附属幼稚園に同じ 所 在 地：熊本県熊本市中央区京町本町5番12号 設置年月：昭和24年5月 規 模 等：土地 51,547㎡ 建物 7,282㎡ 名 称：教育学部附属中学校 目 的：附属幼稚園に同じ 所 在 地：熊本県熊本市中央区京町本町5番12号 設置年月：昭和24年5月 規 模 等：土地 51,547㎡ 建物 5,885㎡ 名 称：教育学部附属特別支援学校 目 的：附属幼稚園に同じ 所 在 地：熊本県熊本市中央区黒髪5丁目17番1号 設置年月：昭和40年4月 規 模 等：土地 26,375㎡ 建物 4,164㎡ 名 称：病院 目 的：診療を通して医学の教育及び研究に資することを目的とする。 所 在 地：熊本県熊本市中央区本荘1丁目1番1号 設置年月：昭和24年5月 規 模 等：土地 82,463㎡ 建物 111,388㎡ 名 称：大学院生命科学研究部附属グローバル天然物科学研究センター 目 的：薬用植物資源を活用した教育及び研究を行い、薬学の視点に立った環境問題への取組を通して、薬学の発展を図ることを目的とする。 所 在 地：熊本県熊本市中央区大江本町5番1号 設置年月：平成22年4月 規 模 等：土地 51,264㎡ 建物 340㎡ 名 称：発生医学研究所 目 的：発生学の視点から様々な生命現象を解明し、医学に貢献することを目指す発生医学の研究活動を、分子、細胞、組織、器官、個体へと連続する観点から、統合的に推進することを目的とする。 所 在 地：熊本県熊本市中央区本荘2丁目2番1号 設置年月：平成21年4月 規 模 等：土地 25,088㎡ 建物 6,293㎡ 名 称：パルスパワー科学研究所 目 的：パルスパワー科学に関する新しい学理を構築し、それに基づく多様な極限反応場を用いた生命科学や革新的物質科学の異分野融合研究を行うことにより、人類社会を持続的に発展させるための重要な課題の解決に資することを目的とする。 所 在 地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号 設置年月：平成25年4月 規 模 等：土地 115,176㎡ 建物 4,769㎡									

附属施設の概要

名 称：ヒトレトロウイルス学共同研究センター
目 的：世界的課題である難治性ウイルス（HIV-1、HTLV-1、HBV及びその他の関連するウイルスをいう。）感染症について、本学と鹿児島大学の強みを統合することで、両大学が有する資源を有効に活用し、感染病態の基礎研究を基に、感染予防と治療を目指した世界的・全学的な研究及び教育の総合的推進を図ることを目的とする。
所 在 地：熊本県熊本市中央区本荘2丁目2番1号
設置年月：平成31年4月
規 模 等：土地 25,088㎡ 建物 2,165㎡
名 称：大学院先導機構
目 的：基礎科学と応用科学の有機的連携のもと、生命科学、自然科学、人文社会科学及び学際・複合・新領域の学問分野において先端的・先導的研究等を推進することにより、若手研究者の育成、新しい研究拠点、新研究センター、新しい大学院教育システム等を創出することを目的とする。
所 在 地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号
設置年月：平成19年4月
規 模 等：土地 115,176㎡ 建物 3,767㎡
名 称：熊本創生推進機構
目 的：熊本における地域のニーズ及び課題に応じ、本学の有する知的・人的資源を最適化及び還元するとともに、県内の産業文化振興、雇用創出及び地域志向の人材育成を図り、熊本の地方創生に資することを目的とする。
所 在 地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号
設置年月：平成29年4月
規 模 等：土地 115,176㎡ 建物 5,362㎡
名 称：グローバル推進機構
目 的：グローバル戦略の企画立案を行い、教育研究における国際交流を推進するとともに、グローバル人材の育成及び地域社会のグローバル化に貢献することを目的とする。
所 在 地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号
設置年月：平成27年3月
規 模 等：土地 169,619㎡ 建物 2,078㎡
名 称：大学教育統括管理運営機構
目 的：教養教育を含む学士課程教育及び大学院課程教育の理念及び目的が達成されるよう、大学教育を統括するとともに教養教育の円滑な運営・実施及び戦略的な入学者選抜の企画・立案を行うことを目的とする。
所 在 地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号
設置年月：平成28年6月
規 模 等：土地 169,619㎡ 建物 427㎡
名 称：国際先端医学研究機構
目 的：国際的な先端医学研究、人材発掘及び人材育成を行い、本学の生命科学分野の基礎研究から臨床応用並びに国際レベルの研究力及び教育力の向上を図ることを目的とする。
所 在 地：熊本県熊本市中央区本荘2丁目2番1号
設置年月：平成27年4月
規 模 等：土地 25,088㎡ 建物 982㎡
名 称：国際先端科学技術研究機構
目 的：国際的な先端科学技術研究、人材発掘及び人材育成を行い、本学の自然科学分野の基礎研究から応用研究並びに国際レベルの研究力及び教育力の向上を図ることを目的とする。
所 在 地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号
設置年月：平成28年4月
規 模 等：土地 115,176㎡ 建物 779㎡
名 称：総合情報統括センター
目 的：熊本大学ICT戦略会議が定めたICT戦略の下、関連施策を実施するとともに、本学の情報教育、情報技術の研究開発及び部局等の情報化の支援を行うことを目的とする。
所 在 地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号
設置年月：平成26年5月
規 模 等：土地 115,176㎡ 建物 2,381㎡

附属施設の概要	名称：五高記念館 目的：本学及び旧制第五高等学校、旧制第五高等学校その他本学の沿革にある学校の発足以来の資料の充実を図るとともに、質の高い学芸員教育を行い、地域文化の発展・向上に寄与することを目的とする。 所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号 設置年月：平成18年12月 規模等：土地 169,619㎡ 建物 2,225㎡	
	名称：永青文庫研究センター 目的：永青文庫資料をはじめとする熊本藩関係資料の総合的な研究を通じて当該資料に立脚した拠点的研究を組織するとともに、文化行政機関等との連携によって地域文化振興に貢献することを目的とする。 所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号 設置年月：平成29年4月 規模等：土地 169,619㎡ 建物 117㎡	
	名称：教授システム学研究センター 目的：eラーニングによるeラーニング専門家養成を通じて、地域の人材育成、社会人の学び直しの充実を図ることを目的とする。 所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号 設置年月：平成29年4月 規模等：土地 169,619㎡ 建物 407㎡	
	名称：くまもと水循環・減災研究教育センター 目的：先進的な地下水循環、沿岸環境及び減災型社会システムに関する研究を推進することで、学生及び社会人の人材育成を行うとともに、その成果を国内外に発信・展開することを通じて地域と国際社会に貢献することを目的とする。 所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号 設置年月：平成29年4月 規模等：土地 115,176㎡ 建物 2,410㎡	
	名称：先進マグネシウム国際研究センター 目的：我が国のマグネシウム研究を牽引し、マグネシウム合金に関する世界的研究拠点として、地域のみならず、我が国さらには世界の科学技術の発展及び産業の活性化に貢献することを目的とする。 所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号 設置年月：平成23年12月 規模等：土地 115,176㎡ 建物 2,431㎡	
	名称：生命資源研究・支援センター 目的：遺伝子改変動物その他の研究資源及びこれらの研究資源情報の利用等をおして、諸科学分野の教育研究の総合的推進に資することを目的とする。 所在地：熊本県熊本市中央区本荘2丁目2番1号 設置年月：平成15年4月 規模等：土地 25,088㎡ 建物 15,322㎡	
	名称：環境安全センター 目的：環境管理及び安全管理に係る教育研究の推進及び啓発を図ることにより、良好な教育研究環境及び教育研究活動等における職員、学生等の安全を確保することを目的とする。 所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号 設置年月：平成18年4月 規模等：土地 169,619㎡ 建物 477㎡	
	名称：埋蔵文化財調査センター 目的：本学に所在する遺跡を発掘調査するとともに、出土した埋蔵文化財を記録、研究、保存及び活用することを目的とする。 所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号 設置年月：平成23年10月 規模等：土地 115,176㎡ 建物 514㎡	
	名称：保健センター 目的：学生及び職員の保健管理に関する専門的業務を一体的に行い、心身の健康の保持増進を図ることを目的とする。 所在地：熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号 設置年月：平成16年4月 規模等：土地 169,619㎡ 建物 579㎡	

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」，「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 6 空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(大学院教育学研究科 教職実践開発専攻)																	
科目 区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	共通5領域	教育課程の実施	「21世紀型能力（確かな学力）」を育成するカリキュラム・デザイン	1前	2				○		2	1					共同
			学校カリキュラム・授業の改善を図るためのマネジメント	1後		2			○		2	2					共同
		実践的な指導方法	「21世紀型能力（確かな学力）」を育成する協働的な学びの授業デザイン	1前	2				○		2	1					共同
			小学校英語活動の授業デザイン	1前		2			○		2	1					共同
			授業のユニバーサルデザイン論	1前		2			○			2					共同
			ICT教育実践論	1後・2前		2			○		1	1					共同・集中
		生徒指導・教育相談	生徒指導実践論	1前	2				○		3	1					共同
			教育相談実践論	1前	2				○		3	1					共同
		学級経営・学校経営	学級経営の実践と課題	1前		2			○		2	1					共同
			学校マネジメントと学校改善	1後		2			○		2						共同
			学校教育と集団心理療法	1後		2			○		1	2					共同
		学校の在り方	現代教員論	1前	2				○		3	2					共同
			学校と地域社会（地域と共にある学校づくり）	1後	2				○		4						共同
	小計（13科目）			—	12	14	0	—			9	7	0	0	0	0	—
	複合領域		インクルーシブ教育システム論	2前		2			○		2	3					オムニバス方式
			ネット教育コミュニケーション論	1後・2前		2			○			2					共同・集中
			小計（2科目）	—	0	4	0	—			2	5	0	0	0	0	—
教育実践研究科目		教育実践研究Ⅰ（幼・小）	1通	4					○	25	26					共同	
		教育実践研究Ⅰ（中・高）	1通	4					○	25	26					共同	
		教育実践研究Ⅰ（養護教諭）	1通	4					○	7	2	1				共同	
		教育実践研究Ⅱ（幼・小）	2前		4				○	23	23					共同	
		教育実践研究Ⅱ（中・高）	2前		4				○	23	23					共同	
		教育実践研究Ⅱ（養護教諭）	2前		4				○	7	2	1				共同	
		教育実践研究Ⅲ（幼・小）	2後		2				○	23	23					共同	
		教育実践研究Ⅲ（中・高）	2後		2				○	23	23					共同	
		教育実践研究Ⅲ（養護教諭）	2後		2				○	7	2	1				共同	
小計（9科目）			—	12	18	0	—			27	28	1	0	0	0	—	
専門科目	全コース共通	共通必修領域	教育研究方法論（幼・小・中・高）	2前		2			○		25	26					共同
			教育研究方法論（養護教諭）	2前		2			○		7	2	1				共同
			実践課題研究（幼・小・中・高）	2通		4			○		25	26					共同
			実践課題研究（養護教諭）	2通		4			○		7	2	1				共同
			小計（4科目）	—	0	12	0	—			27	28	1	0	0	0	—
	×学校教職課程コース教育実践開発高度化コース共通	重点領域A 授業実践開発	学習科学・授業研究方法と授業開発・実践研究	1後		2			○		2	1					共同
			教科等の授業開発・実践研究Ⅰ（国語）	1前		2			○			1					
			教科等の授業開発・実践研究Ⅰ（社会）	1前		2			○			1				兼2	共同

[illegible]

専門科目	教科教育実践高度化コース	重点領域A	授業実践開発	教科等の授業開発・実践研究Ⅲ（音楽）	2前		2			○		1	1					兼2	共同		
				教科等の授業開発・実践研究Ⅲ（美術）	2前		2			○			2				共同				
				教科等の授業開発・実践研究Ⅲ（保健体育）	2前		2			○		1	1				共同				
				教科等の授業開発・実践研究Ⅲ（技術）	2前		2			○		2					共同				
				教科等の授業開発・実践研究Ⅲ（家庭）	2前		2			○		1	1				共同				
				教科等の授業開発・実践研究Ⅲ（英語）	2前		2			○		1	1				共同				
				教科等の授業開発・実践研究Ⅳ（国語）	2後		2			○			1								
				教科等の授業開発・実践研究Ⅳ（社会）	2後		2			○			1				共同				
				教科等の授業開発・実践研究Ⅳ（数学）	2後		2			○			1								
				教科等の授業開発・実践研究Ⅳ（理科）	2後		2			○		1	2				共同				
				教科等の授業開発・実践研究Ⅳ（音楽）	2後		2			○		1	1				共同				
				教科等の授業開発・実践研究Ⅳ（美術）	2後		2			○		2					共同				
				教科等の授業開発・実践研究Ⅳ（保健体育）	2後		2			○		2	1				共同				
				教科等の授業開発・実践研究Ⅳ（技術）	2後		2			○		1	1				共同				
				教科等の授業開発・実践研究Ⅳ（家庭）	2後		2			○		2					共同				
				教科等の授業開発・実践研究Ⅳ（英語）	2後		2			○		1	1				共同				
				小計（20科目）	—	0	40	0		—		14	16	0	0	0	兼4		—		
	特別支援教育実践高度化コース	実践教育研究	科目	特別支援教育実践研究Ⅰ	2前		4				○		2	4				兼1	共同		
				特別支援教育実践研究Ⅱ	2後		2					○		2	4				兼1	共同	
				小計（2科目）	—	0	6	0		—		2	4	0	0	0	兼1	—			
		重点領域C	特別支援教育シス テムと障害理解	特別支援教育論	1前		2				○		1								
				発達障害児の理解と支援	1後		2					○			1						
				コミュニケーション障害児の理解と支援	2前		2					○		1							
				重度・重複障害児の理解と支援	2後		2					○			1						
		重点領域D	特別支援教育指導法	特別支援学校カリキュラム・マネジメント論	1前		2				○			1					兼1	共同	
				特別支援教育教科指導演習	1後		2					○			1					兼1	共同
				自立活動指導演習	2前		2					○		1	1					共同	
			特別支援教育コーディネート	心理教育アセスメントの理論と実践	2前		2					○			2					兼1	共同
				教育支援計画作成演習	1後		2						○		1						共同
				通級指導教室・特別支援学級の運営演習	2後		2					○		1	1					共同	
		小計（12科目）	—	0	20	0		—		2	3	0	0	0	兼3	—					
合計（95科目）					—	24	184	0		—		27	29	1	0	0	兼10	—			
学位又は称号		教職修士（専門職）				学位又は学科の分野				教員養成関係											

卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法	授業期間等	
共通科目については、各コースとも、共通5領域の各領域と複合領域からそれぞれ2単位以上、計20単位以上を修得すること。その他の授業科目については、以下のとおり履修し、修了要件を満たすこと。 ◆学校教育実践高度化コース 教育実践研究科目については、教育実践研究Ⅰ～Ⅲを履修し、計10単位を修得すること。専門科目については、共通必修領域の6単位に加え、重点領域Aから4単位以上（選択必修）、重点領域Bから8単位以上（選択必修）、計18単位以上を修得すること。修了要件としては、共通科目を含め、合計48単位以上を修得すること。 ◆教科教育実践高度化コース 教育実践研究科目については、教育実践研究Ⅰ～Ⅲを履修し、計10単位を修得すること。専門科目については、共通必修領域の6単位に加え、重点領域Aから8単位以上（選択必修）、重点領域Bから4単位以上（選択必修）、計18単位以上を修得すること。修了要件としては、共通科目を含め、合計48単位以上を修得すること。 ◆特別支援教育実践高度化コース 教育実践研究科目については、教育実践研究Ⅰ及び特別支援教育実践研究Ⅰ・Ⅱを履修し、計10単位を修得すること。専門科目については、共通必修領域の6単位に加え、重点領域Cから6単位以上（選択必修）、重点領域Dから8単位以上（選択必修）、計20単位以上を修得すること。修了要件としては、共通科目を含め、合計50単位以上を修得すること。 *教育実践研究Ⅰ～Ⅲについては（幼・小）、（中・高）、（養護教諭）のいずれか1つを履修できるものとする。 *教育研究方法論及び実践課題研究については教育実践研究Ⅰ～Ⅲに対応させて、（幼・小・中・高）、（養護教諭）のいずれか1つを履修できるものとする。 *教科等の授業開発・実践研究Ⅰ～Ⅳについては、いずれか1つの教科のみ履修できるものとする。	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	15週
	1 時限の授業時間	90分

（注）

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要																
（大学院教育学研究科 教職実践開発専攻 学校教育実践高度化コース）																
科目 区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
共通 科目	共通5 領域	教育課程の編 成・実施の 論	「21世紀型能力（確かな学力）」を育 成するカリキュラム・デザイン	1前	2			○		2	1					共同
		学校カリキュラム・授業の改 善を図るためのマネジメント	1後		2			○		2	2					共同
		実践的 な指導方 法	「21世紀型能力（確かな学力）」を育 成する協働的な学びの授業デザイン	1前	2			○		2	1					共同
			小学校英語活動の授業デザイン	1前	2			○		2	1					共同
			授業のユニバーサルデザイン論	1前	2			○			2					共同
			ICT教育実践論	1後・2前	2			○		1	1					共同・集中
		生徒指導・教 育相談	生徒指導実践論	1前	2			○		3	1					共同
			教育相談実践論	1前	2			○		3	1					共同
		学級経営・学 校経営	学級経営の実践と課題	1前		2		○		2	1					共同
			学校マネジメントと学校改善	1後		2		○		2						共同
			学校教育と集団心理療法	1後		2		○		1	2					共同
		学校の在り方 と教育	現代教員論	1前	2			○		3	2					共同
			学校と地域社会（地域と共に ある学校づくり）	1後	2			○		4						共同
		小計（13科目）	—	12	14	0	—			9	9	0	0	0	0	—
	複合 領域	インクルーシブ教育システム論	2前		2			○		2	3					オムニバス 方式
		ネット教育コミュニケーション論	1後・2前		2			○			2					共同・集中
		小計（2科目）	—	0	4	0	—			2	5	0	0	0	0	—
専 門 科 目	全 コ ー ス 共 通	共通必修 領域	教育実践研究Ⅰ（幼・小）	1通	4				○	25	26					共同
			教育実践研究Ⅰ（中・高）	1通	4				○	25	26					共同
			教育実践研究Ⅰ（養護教諭）	1通	4				○	7	2	1				共同
			教育実践研究Ⅱ（幼・小）	2前	4				○	23	23					共同
			教育実践研究Ⅱ（中・高）	2前	4				○	23	23					共同
			教育実践研究Ⅱ（養護教諭）	2前	4				○	7	2	1				共同
			教育実践研究Ⅲ（幼・小）	2後	2				○	23	23					共同
			教育実践研究Ⅲ（中・高）	2後	2				○	23	23					共同
			教育実践研究Ⅲ（養護教諭）	2後	2				○	7	2	1				共同
			小計（9科目）	—	30	0	0	—		27	28	1	0	0	0	—
専 門 科 目	全 コ ー ス 共 通	共通必修 領域	教育研究方法論（幼・小・ 中・高）	2前		2			○	25	26					共同
			教育研究方法論（養護教諭）	2前		2			○	7	2	1				共同
			実践課題研究（幼・小・中・ 高）	2通		4			○	25	26					共同
			実践課題研究（養護教諭）	2通		4			○	7	2	1				共同
			小計（4科目）	—	0	12	0	—		27	28	1	0	0	0	—

専門科目	学校教育実践高度化コース	重点領域 A	授業実践開発	学習科学・授業研究方法と授業開発・実践研究	1後		2			○		2	1					兼2	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅰ（国語）	1前		2			○			1						共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅰ（社会）	1前		2			○			1						共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅰ（数学）	1前		2			○			1						共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅰ（理科）	1前		2			○		1	2						共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅰ（音楽）	1前		2			○			2						共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅰ（美術）	1前		2			○		1	1						共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅰ（保健体育）	1前		2			○		2	1						共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅰ（技術）	1前		2			○		1	1						共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅰ（家庭）	1前		2			○		1	1						共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅰ（英語）	1前		2			○		1						兼1	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅱ（国語）	1後		2			○			2						共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅱ（社会）	1後		2			○			1					兼2	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅱ（数学）	1後		2			○			1						共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅱ（理科）	1後		2			○		1	2						共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅱ（音楽）	1後		2			○			2						共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅱ（美術）	1後		2			○		1	1						共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅱ（保健体育）	1後		2			○		1	1						共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅱ（技術）	1後		2			○		2							共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅱ（家庭）	1後		2			○		2							共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅱ（英語）	1後		2			○		1						兼1	共同
				教科と教科外活動の関連的な学習の授業開発・実践研究Ⅰ	1前		2			○		5	1						共同
				教科と教科外活動の関連的な学習の授業開発・実践研究Ⅱ	1後		2			○		5	1						共同
				教科と教科外活動の関連的な学習の授業開発・実践研究Ⅲ	2前		2			○		5	1						共同
				教科と教科外活動の関連的な学習の授業開発・実践研究Ⅳ	2後		2			○		5	1						共同
				「豊かな心」を育む授業実践の開発	2前		2			○		3	1						共同
		重点領域 B	生徒指導・教育相談	生徒指導問題解決方法Ⅰ	1後		2			○		3	1						共同
				生徒指導問題解決方法Ⅱ	1後		2			○		3	1						共同
				道徳教育と生徒指導	2前		2			○		3	2						共同
				健康教育の実践研究Ⅰ	1前		2					2	2	1					共同
				健康教育の実践研究Ⅱ	1後		2					2	2	1					共同
				学校保健の理論と実践	2前		2			○		2	2	1					共同

専 門 科 目	学校 教育 実践 高度 化 コース	重点 領域 B	学 校 経 営	学校と家庭・地域の連携構築	1後		2			○		2	2				共同	
				学校の危機管理の理論と実践	1後		2			○		3	1				共同	
				教育コミュニケーションデザイン特論	2前		2			○			2				共同	
				小計（ 35 科目）			—	0	70	0	—	23	23	1	0	0	兼5	—
				合計（ 63 科目）			—	42	100	0	—	27	28	1	0	0	兼5	—
学位又は称号		教職修士（専門職）				学位又は学科の分野				教員養成関係								
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法											授業期間等							
共通科目については、共通5領域の各領域と複合領域からそれぞれ2単位以上、計20単位以上を修得すること。 教育実践研究科目については、教育実践研究Ⅰ～Ⅲを履修し、計10単位を修得すること。専門科目については、共通必修領域の6単位に加え、重点領域Aから4単位以上（選択必修）、重点領域Bから8単位以上（選択必修）、計18単位以上を修得すること。 修了要件としては、共通科目を含め、合計48単位以上を修得すること。 ＊教育実践研究Ⅰ～Ⅲについては（幼・小）、（中・高）、（養護教諭）のいずれか1つを履修できるものとする。 ＊教育研究方法論及び実践課題研究については教育実践研究Ⅰ～Ⅲに対応させて、（幼・小・中・高）、（養護教諭）のいずれか1つを履修できるものとする。 ＊教科等の授業開発・実践研究Ⅰ～Ⅱについては、いずれか1つの教科のみ履修できるものとする。											1 学年の学期区分			2 期				
											1 学期の授業期間			15週				
											1 時限の授業時間			90分				

tu

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(大学院教育学研究科 教職実践開発専攻 教科教育実践高度化コース)																	
科目 区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
共通科目	共通5 領域	教育課程の編成・実施	「21世紀型能力（確かな学力）」を育成するカリキュラム・デザイン	1前	2				○		2	1				共同	
			学校カリキュラム・授業の改善を図るためのマネジメント	1後		2			○		2	2				共同	
		実践的な指導方法	「21世紀型能力（確かな学力）」を育成する協働的な学びの授業デザイン	1前	2				○		2	1				共同	
			小学校英語活動の授業デザイン	1前		2			○		2	1				共同	
			授業のユニバーサルデザイン論	1前		2			○			2				共同	
			ICT教育実践論	1後・2前		2			○		1	1				共同・集中	
		生徒指導・教育相談	生徒指導実践論	1前	2				○		3	1				共同	
			教育相談実践論	1前	2				○		3	1				共同	
		学級経営・学校経営・学校の在り方	学級経営の実践と課題	1前		2			○		2	1				共同	
			学校マネジメントと学校改善	1後		2			○		2					共同	
			学校教育と集団心理療法	1後		2			○		1	2				共同	
		学校の在り方と教育	現代教員論	1前	2				○		3	2				共同	
			学校と地域社会（地域と共にある学校づくり）	1後	2				○		4					共同	
		小計（13科目）			—	12	14	0	—			9	9	0	0	0	0
	複合領域	インクルーシブ教育システム論		2前		2				○		2	3				オムニバス方式
		ネット教育コミュニケーション論		1後・2前		2				○			2				共同・集中
		小計（2科目）			—	0	4	0	—			2	5	0	0	0	0
教育実践研究科目	教育実践研究Ⅰ（幼・小）		1通	4						○	25	26				共同	
	教育実践研究Ⅰ（中・高）		1通	4						○	25	26				共同	
	教育実践研究Ⅰ（養護教諭）		1通	4						○	7	2	1			共同	
	教育実践研究Ⅱ（幼・小）		2前	4						○	23	23				共同	
	教育実践研究Ⅱ（中・高）		2前	4						○	23	23				共同	
	教育実践研究Ⅱ（養護教諭）		2前	4						○	7	2	1			共同	
	教育実践研究Ⅲ（幼・小）		2後	2						○	23	23				共同	
	教育実践研究Ⅲ（中・高）		2後	2						○	23	23				共同	
	教育実践研究Ⅲ（養護教諭）		2後	2						○	7	2	1			共同	
	小計（9科目）			—	30	0	0	—			27	28	1	0	0	0	—
専門科目	全コース共通	共通必修領域	教育研究方法論（幼・小・中・高）	2前		2				○	25	26				共同	
			教育研究方法論（養護教諭）	2前		2				○	7	2	1			共同	
			実践課題研究（幼・小・中・高）	2通		4				○	25	26				共同	
			実践課題研究（養護教諭）	2通		4				○	7	2	1			共同	
			小計（4科目）			—	0	12	0	—			27	28	1	0	0

専門科目	教科教育実践高度化コース	重点領域A	授業実践開発	学習科学・授業研究方法と授業開発・実践研究	1後	2			○		2	1				兼2	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅰ（国語）	1前	2			○			1					
				教科等の授業開発・実践研究Ⅰ（社会）	1前	2			○			1					
				教科等の授業開発・実践研究Ⅰ（数学）	1前	2			○			1					
				教科等の授業開発・実践研究Ⅰ（理科）	1前	2			○		1	2					共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅰ（音楽）	1前	2			○			2					共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅰ（美術）	1前	2			○		1	1					共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅰ（保健体育）	1前	2			○		2	1					共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅰ（技術）	1前	2			○		1	1					共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅰ（家庭）	1前	2			○		1	1					共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅰ（英語）	1前	2			○		1					兼1	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅱ（国語）	1後	2			○			2					共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅱ（社会）	1後	2			○			1				兼2	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅱ（数学）	1後	2			○			1					
				教科等の授業開発・実践研究Ⅱ（理科）	1後	2			○		1	2					共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅱ（音楽）	1後	2			○			2					共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅱ（美術）	1後	2			○		1	1					共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅱ（保健体育）	1後	2			○		1	1					共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅱ（技術）	1後	2			○		2						共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅱ（家庭）	1後	2			○		2						共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅱ（英語）	1後	2			○		1					兼1	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅲ（国語）	2前	2			○			2					
				教科等の授業開発・実践研究Ⅲ（社会）	2前	2			○			1				兼2	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅲ（数学）	2前	2			○			1					
				教科等の授業開発・実践研究Ⅲ（理科）	2前	2			○		1	2					共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅲ（音楽）	2前	2			○		1	1					共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅲ（美術）	2前	2			○			2					共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅲ（保健体育）	2前	2			○		1	1					共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅲ（技術）	2前	2			○		2						共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅲ（家庭）	2前	2			○		1	1					共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅲ（英語）	2前	2			○		1	1					共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅳ（国語）	2後	2			○			1					
				教科等の授業開発・実践研究Ⅳ（社会）	2後	2			○			1				兼2	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅳ（数学）	2後	2			○			1					

専 門 科 目	教科教育実践高度化コース	重点領域A	授業実践開発	教科等の授業開発・実践研究Ⅳ（理科）	2後		2			○		1	2				共同		
				教科等の授業開発・実践研究Ⅳ（音楽）	2後		2			○		1	1				共同		
				教科等の授業開発・実践研究Ⅳ（美術）	2後		2			○		2						共同	
				教科等の授業開発・実践研究Ⅳ（保健体育）	2後		2			○		2	1					共同	
				教科等の授業開発・実践研究Ⅳ（技術）	2後		2			○		1	1					共同	
				教科等の授業開発・実践研究Ⅳ（家庭）	2後		2			○		2						共同	
				教科等の授業開発・実践研究Ⅳ（英語）	2後		2			○		1	1					共同	
				教科と教科外活動の関連的な学習の授業開発・実践研究Ⅰ	1前		2			○		5	1					共同	
				教科と教科外活動の関連的な学習の授業開発・実践研究Ⅱ	1後		2			○		5	1					共同	
				教科と教科外活動の関連的な学習の授業開発・実践研究Ⅲ	2前		2			○		5	1					共同	
				教科と教科外活動の関連的な学習の授業開発・実践研究Ⅳ	2後		2			○		5	1					共同	
				「豊かな心」を育む授業実践の開発	2前		2			○		3	1					共同	
		重点領域B	生徒指導・教育相談	生徒指導問題解決方法Ⅰ	1後		2			○		3	1					共同	
				道徳教育と生徒指導	2前		2			○		3	2					共同	
				健康教育の実践研究Ⅰ	1前		2			○		2	2	1				共同	
				健康教育の実践研究Ⅱ	1後		2			○		2	2	1				共同	
				学校保健の理論と実践	2前		2			○		2	2	1				共同	
		重点領域B	学校経営	学校と家庭・地域の連携構築	1後		2			○		2	2					共同	
				学校の危機管理の理論と実践	1後		2			○		3	1					共同	
				教育コミュニケーションデザイン特論	2前		2			○			2					共同	
		小計（54科目）				—	0	108	0		—		24	24	1	0	0	兼6	—
		合計（82科目）				—	42	138	0		—		27	28	1	0	0	兼6	—
学位又は称号		教職修士（専門職）				学位又は学科の分野				教員養成関係									
卒業要件及び履修方法										授業期間等									
共通科目については、共通5領域の各領域と複合領域からそれぞれ2単位以上、計20単位以上を修得すること。 教育実践研究科目については、教育実践研究Ⅰ～Ⅲを履修し、計10単位を修得すること。専門科目については、共通必修領域の6単位に加え、重点領域Aから8単位以上（選択必修）、重点領域Bから4単位以上（選択必修）、計18単位以上を修得すること。 修了要件としては、共通科目を含め、合計48単位以上を修得すること。 ＊教育実践研究Ⅰ～Ⅲについては（幼・小）、（中・高）、（養護教諭）のいずれか1つを履修できるものとする。 ＊教育研究方法論及び実践課題研究については教育実践研究Ⅰ～Ⅲに対応させて、（幼・小・中・高）、（養護教諭）のいずれか1つを履修できるものとする。 ＊教科等の授業開発・実践研究Ⅰ～Ⅳについては、いずれか1つの教科のみ履修できるものとする。										1学年の学期区分				2期					
										1学期の授業期間				15週					
										1時限の授業時間				90分					

（注）

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(大学院教育学研究科 教職実践開発専攻 特別支援教育実践高度化コース)															
科目 区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	共通5領域	教育課程の編成・実施	「21世紀型能力（確かな学力）」を育成するカリキュラム・デザイン	1前	2			○		2	1				共同
			学校カリキュラム・授業の改善を図るためのマネジメント	1後	2			○		2	2				共同
		実践的な指導方法	「21世紀型能力（確かな学力）」を育成する協働的な学びの授業デザイン	1前	2			○		2	1				共同
			小学校英語活動の授業デザイン	1前	2			○		2	1				共同
			授業のユニバーサルデザイン論	1前	2			○		2	2				共同
			ICT教育実践論	1後・2前	2			○		1	1				共同・集中
		生徒指導・教育相談	生徒指導実践論	1前	2			○		3	1				共同
			教育相談実践論	1前	2			○		3	1				共同
		学級経営・学校経営	学級経営の実践と課題	1前	2			○		2	1				共同
			学校マネジメントと学校改善	1後	2			○		2					共同
			学校教育と集団心理療法	1後	2			○		1	2				共同
		学校の教育と教員の在り方	現代教員論	1前	2			○		3	2				共同
			学校と地域社会（地域と共にある学校づくり）	1後	2			○		4					共同
			小計（13科目）	—	12	14	0	—		9	9	0	0	0	—
	複合領域		インクルーシブ教育システム論	2前	2			○		2	3				オムニバス方式
			ネット教育コミュニケーション論	1後・2前	2			○			2				共同・集中
			小計（2科目）	—	0	4	0	—		2	5	0	0	0	—
	教育実践研究		教育実践研究Ⅰ（幼・小）	1通	4				○	25	26				共同
			教育実践研究Ⅰ（中・高）	1通	4				○	25	26				共同
			特別支援教育実践研究Ⅰ	2前	4				○	2	4				兼1 共同
			特別支援教育実践研究Ⅱ	2後	2				○	2	4				兼1 共同
			小計（4科目）	—	14	0	0	—		25	26	0	0	0	兼1 —
特別支援教育実践高度化コース	全コース共通	共通必修領域	教育研究方法論（幼・小・中・高）	2前	2			○		25	26				共同
			実践課題研究（幼・小・中・高）	2通	4			○		25	26				共同
			小計（2科目）	—	0	6	0	—		25	26	0	0	0	—
	重点領域C	特別支援教育システムと障害理解	特別支援教育論	1前	2			○		1					
			発達障害児の理解と支援	1後	2			○			1				
			コミュニケーション障害児の理解と支援	2前	2			○		1					
			重度・重複障害児の理解と支援	2後	2			○			1				
	重点領域D	特別支援教育指導	特別支援学校カリキュラム・マネジメント論	1前	2			○			1				兼1 共同
			特別支援教育教科指導演習	1後	2			○			1				兼1 共同
			自立活動指導演習	2前	2			○		1	1				共同

専 門 科 目	特別支援教育実践高度化コース	重点領域D	特別支援教育コース ディネート	心理教育アセスメントの理論と実践	2前		2			○			2					共同			
				教育支援計画作成演習	1後		2			○		1					兼1	共同			
				通級指導教室・特別支援学級の運営演習	2後		2			○		1	1					共同			
				小計（ 10 科目）				—	0	20	0	—			2	3	0	0	0	兼3	—
				合計（ 31 科目）				—	26	44	0	—			25	27	0	0	0	兼4	—
学位又は称号		教職修士（専門職）				学位又は学科の分野				教員養成関係											
卒業要件及び履修方法										授業期間等											
共通科目については、共通5領域の各領域と複合領域からそれぞれ2単位以上、計20単位以上を修得すること。 教育実践研究科目については、教育実践研究Ⅰ及び特別支援教育実践研究Ⅰ・Ⅱを履修し、計10単位を修得すること。専門科目については、共通必修領域の6単位に加え、重点領域Cから6単位以上（選択必修）、重点領域Dから8単位以上（選択必修）、計20単位以上を修得すること。 修了要件としては、共通科目を含め、合計50単位以上を修得すること。 ＊教育実践研究Ⅰについては（幼・小）、（中・高）のいずれか1つを履修できるものとする。										1 学年の学期区分					2 期						
										1 学期の授業期間					15週						
										1 時限の授業時間					90分						

（注）

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(大学院教育学研究科 教職実践開発専攻) 【既設分】																		
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手				
共通科目	共通5領域	編成・課程の 実施の	「21世紀型能力（確かな学力）」を 育成するカリキュラム・デザイン	1前	2				○		1	3				兼2	共同	
			学校カリキュラム・授業の改善 を図るためのマネジメント	1後	2				○		1	4				兼2	共同	
		実践的 な指導方 法	「21世紀型能力（確かな学力）」を育成する 協働的な学びの授業デザイン	1前	2				○		1	3				兼2	共同	
			小学校英語活動の授業デザイン	1前		2			○		1	3				兼1	共同	
			ICT教育実践論	1後・2前		2			○			1				兼1	共同・集中	
		生徒指導・ 教育相談	生徒指導実践論	1前	2				○		3	1					共同	
			教育相談実践論	1前	2				○		3	1					共同	
		学級経営・ 学校経営	学級経営の実践と課題	1前		2			○		3	1					共同	
			学校マネジメントと学校改善	1後		2			○		4						共同	
			学校教育と集団心理療法	1前		2			○		3	1					共同	
	員の 在り方	現代教員論	1前	2				○		3	1					共同		
		学校と地域社会（地域と共にある 学校づくり）	1後	2				○		3					兼1	共同		
	小計（ 12 科目）			—	14	10	0	—			10	5	0	0	0	兼5	—	
	複合 領域	特別支援教育実践研究論	1後・2前		2				○		2						兼3	共同・集中
		ネット教育コミュニケーション論	1後・2前		2				○			2						共同・集中
		小計（ 2 科目）			—	0	4	0	—			2	2	0	0	0	兼3	—
教育実践 研究		教育実践研究Ⅰ	1通	4					○	10	5					兼16	共同	
		教育実践研究Ⅱ	2前	4					○	10	5					兼16	共同	
		教育実践研究Ⅲ	2後	2					○	10	5					兼16	共同	
		小計（ 3 科目）			—	10	0	0	—			10	5	0	0	0	兼16	—
専門科目	共通必修 領域	教育研究方法論	2前	2					○		10	5				兼16	共同	
		実践課題研究	2通	4					○		10	5				兼16	共同	
	授業実践 開発	学習科学・授業研究方法と授業 開発・実践研究	1後		2				○		1	3				兼2	共同	
		小学校英語活動の授業開発・実 践研究	1後		2				○		1	3				兼1	共同	
		「豊かな心」を育む授業実践の 開発	2前		2				○		3	1					共同	
	生徒指導・ 教育相談	生徒指導問題解決方法（Ⅰ）	1後		2				○		3	1					共同	
		生徒指導問題解決方法（Ⅱ）	1後		2				○		3	1					共同	
		道徳教育と生徒指導	2前		2				○		3	1				兼1	共同	
	学校経営	学校と家庭・地域の連携構築	1後		2				○		4					兼1	共同	
		学校の危機管理の理論と実践	1後		2				○		3	1					共同	
教育コミュニケーションデザイン 特論		2前		2				○		3	1					共同		
小計（ 11 科目）			—	6	18	0	—			10	5	0	0	0	兼18	—		
合計（ 28 科目）			—	30	32	0	—			10	5	0	0	0	兼22	—		

学位又は称号	教職修士（専門職）	学位又は学科の分野	教員養成関係
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法			授業期間等
教育実践研究科目（10単位）の他に、共通科目については、共通5領域の各領域から4単位以上、複合領域から2単位以上修得し、合計22単位以上を修得すること。専門科目の専門3領域については、専門3領域の中から、1つの核となる領域を選択して、その領域の3科目（6単位）を全て履修し、その他の領域から各2単位ずつ計4単位を履修して、10単位以上を修得すること。それに、共通必修領域の必修6単位を合わせて、合計16単位以上を専門科目として修得すること。修了要件としては、合計48単位以上を修得すること。			1 学年の学期区分
			2 期
			1 学期の授業期間
			15週
			1 時限の授業時間
			90分

（注）

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本工業規格A4縦型）

教育課程等 の 概 要 （教育学部） 【基礎となる学部分】														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養教育	リベラルアーツ科目	文系のための数学入門(A)（未開講）	1・2後	2		○								兼1
		文系のための数学入門(C)	2後	2		○								兼1
		数学の世界(A)	1・2前	2		○								兼1
		数学の世界(a)（未開講）	1・2②	1		○								兼1
		数学の世界(b)	1・2①・②	1		○								兼1
		物理学入門(A)（未開講）	1・2後	2		○								兼2
		物理学入門(B)	1・2①	2		○								兼1
		物理学入門(a)	1・2③	1		○								兼1
		物理学入門(b)	1・2④	1		○								兼1
		物理学入門(c)	1・2③	1		○								兼1
		物理学入門(d)	1・2④	1		○								兼1
		物理学入門(e)	1・2③	1		○								兼1
		物理学入門(f)	1・2①・②	1		○								兼1
		物理学入門(g)	1・2①	1		○								兼1
		物理学入門(h)	1・2③	1		○								兼1
		物理学入門(i)（未開講）	1・2後	1		○								兼1
		物理学入門(j)	1・2④	1		○								兼1
		教養の化学(A)	1・2前	2		○								兼1
		教養の化学(B)	1・2①	2		○								兼1
		教養の化学(a)（未開講）	1・2①	1		○								兼1
		教養の化学(b)（未開講）	1・2②	1		○								兼1
		教養の化学(c)	1・2①	1		○								兼1
		教養の化学(d)	1・2②	1		○								兼1
		生物の世界(A)	1・2後	2		○								兼1
		生物の世界(B)	1・2③	2		○								兼1
		生物の世界(C)	1・2後	2		○								兼1
		生物の世界(D)	1・2③	2		○								兼1
		生物の世界(a)	1・2②	1		○								兼1
		生物の世界(b)	1・2③	1		○								兼1
		生物の世界(c)	1・2①	1		○								兼1
		生物の世界(d)	1・2③	1		○								兼1
		生物の世界(e)	1・2①	1		○								兼1
		生物の世界(f)	1・2③	1		○								兼1
		生物の世界(g)	1・2②	1		○								兼1
		生物の世界(h)	1・2③	1		○								兼1
		地球環境の現状と人類(A)（未開講）	1・2前	2		○								兼1
		地球環境の現状と人類(a)	1・2①	1		○								兼1
		地球環境の現状と人類(b)	1・2②	1		○								兼1
		持続可能な都市と地域づくり(A)	1・2前	2		○								兼1
		持続可能な都市と地域づくり(B)	1・2後	2		○								兼1
		豊かさを持続させるものづくり(A)	1・2②	2		○								兼1
		豊かさを持続させるものづくり(B)	1・2②	2		○								兼1
		豊かさを持続させるものづくり(C)	1・2③	2		○								兼1
		日々の生活に垣間見る情報と通信(A)	1・2②	2		○								兼1
		日々の生活に垣間見る情報と通信(B)	1・2①	2		○								兼1

教養教育	リベラルアーツ科目	倫理学入門(A)	1・2後	2	○								兼1
		倫理学入門(B) (未開講)	1・2後	2	○								兼1
		倫理学入門(C) (未開講)	1・2後	2	○								兼1
		倫理学入門(D)	1・2後	2	○								兼1
		倫理学入門(E)	1・2後	2	○								兼1
		倫理学入門(a)	1・2②	1	○								兼1
		倫理学入門(b)	1・2④	1	○								兼1
		倫理学入門(c) (未開講)	1・2①	1	○								兼1
		倫理学入門(d) (未開講)	1・2②	1	○								兼1
		倫理学入門(e) (未開講)	1・2①	1	○			1					
		倫理学入門(f) (未開講)	1・2②	1	○			1					
		倫理学入門(g) (未開講)	1・2①	1	○								兼1
		倫理学入門(h) (未開講)	1・2②	1	○								兼1
		倫理学入門(i)	1・2①	1	○			1					
		倫理学入門(j)	1・2②	1	○			1					
		心と世界(A)	1・2後	2	○								兼1
		心と世界(B) (未開講)	1・2前	2	○								兼1
		思考と論理(A)	1・2後	2	○								兼1
		思考と論理(B) (未開講)	1・2前	2	○								兼1
		現代心理行動学(a)	1・2①	1	○			1					
		現代心理行動学(b)	1・2④	1	○					1			
		現代心理行動学(c) (未開講)	1・2④	1	○					1			
		現代心理行動学(d) (未開講)	1・2③	1	○					1			
		現代心理行動学(e)	1・2①	1	○								兼1
		現代心理行動学(f)	1・2②	1	○								兼1
		こころの科学(A)	1・2後	2	○								兼1
		芸術文化論(A)	1・2前	2	○								兼1
		芸術文化論(B)	1・2後	2	○								兼1
		言語の諸相(a)	1・2①	1	○								兼1
		言語の諸相(b)	1・2④	1	○								兼1
		言語の諸相(c)	1・2③	1	○								兼1
		言語の諸相(d)	1・2④	1	○								兼1
		文学の諸相(a)	1・2①	1	○								兼1
		文学の諸相(b)	1・2②	1	○								兼1
		文学の諸相(c)	1・2③	1	○								兼1
		文学の諸相(d)	1・2④	1	○								兼1
		モノが語る歴史(a) (未開講)	1・2前	1	○								兼1
		モノが語る歴史(b) (未開講)	1・2前	1	○								兼1
		モノが語る歴史(c) (未開講)	1・2後	1	○								兼1
		モノが語る歴史(d) (未開講)	1・2後	1	○								兼1
		モノが語る歴史(e)	1・2③	1	○								兼1
		モノが語る歴史(f)	1・2④	1	○								兼1
		地域の世界史(A)	1・2後	2	○								兼1
		地域の世界史(a)	1・2①	1	○								兼1
		地域の世界史(b)	1・2②	1	○								兼1
		地域の世界史(c)	1・2①	1	○								兼1
		地域の世界史(d)	1・2②	1	○								兼1
		地域の世界史(e) (未開講)	1・2①	1	○								兼1
		地域の世界史(f) (未開講)	1・2後	1	○								兼1
		地域の世界史(g) (未開講)	1・2①	1	○								兼1
		地域の世界史(h) (未開講)	1・2前	1	○								兼1
		地域の世界史(i) (未開講)	1・2②	1	○								兼1

教養教育	リベラルアーツ科目	日本社会の歴史(a) (未開講)	1・2④	1	○								兼1
		日本社会の歴史(b) (未開講)	1・2④	1	○								兼1
		日本社会の歴史(c)	1・2④	1	○								兼1
		日本社会の歴史(d)	1・2③	1	○								兼1
		日本社会の歴史(e)	1・2①	1	○								兼1
		日本社会の歴史(f)	1・2②	1	○								兼1
		法学の基礎(A) (未開講)	1・2後	2	○								兼1
		法学の基礎(B) (未開講)	1・2後	2	○								兼1
		法学の基礎(C) (未開講)	1・2前	2	○								兼1
		法学の基礎(D) (未開講)	1・2前	2	○								兼1
		法学の基礎(E) (未開講)	1・2前	2	○								兼1
		法学の基礎(F) (未開講)	1・2前	2	○								兼1
		法学の基礎(G)	1・2前	2	○								兼1
		現代経済問題の諸相(a) (未開講)	1・2前	1	○								兼1
		現代政治の諸相(A)	1・2後	2	○								兼1
		現代政治の諸相(a)	1・2②	1	○								兼1
		現代政治の諸相(b)	1・2②	1	○								兼1
		現代政治の諸相(c)	1・2①	1	○								兼1
		現代政治の諸相(d)	1・2③	1	○								兼1
		現代政治の諸相(e)	1・2④	1	○								兼1
		現代政治の諸相(g) (未開講)	1・2③	1	○								兼1
		最前線の社会文化研究(A) (未開講)	1・2前	2	○								兼1
		最前線の社会文化研究(B) (未開講)	1・2前	2	○								兼1
		最前線の社会文化研究(D)	1・2前	2	○								兼1
		最前線の社会文化研究(a)	1・2①	1	○								兼1
		最前線の社会文化研究(b) (未開講)	1・2前	1	○								兼1
		最前線の社会文化研究(c) (未開講)	1・2①	1	○								兼1
		最前線の社会文化研究(d) (未開講)	1・2②	1	○								兼1
		最前線の社会文化研究(e) (未開講)	1・2③	1	○								兼1
		最前線の社会文化研究(f) (未開講)	1・2④	1	○								兼1
		最前線の社会文化研究(g) (未開講)	1・2①	1	○								兼1
		最前線の社会文化研究(h) (未開講)	1・2前	1	○								兼1
		最前線の社会文化研究(i)	1・2①	1	○								兼1
		最前線の社会文化研究(j)	1・2②	1	○								兼1
		最前線の社会文化研究(k)	1・2③	1	○								兼1
		現代社会の解説(a)	1・2③	1	○								兼1
		現代社会の解説(b)	1・2④	1	○								兼1
		現代社会の解説(c) (未開講)	1・2①	1	○								兼1
		現代社会の解説(d)	1・2③	1	○								兼1
		現代社会の解説(e) (未開講)	1・2③	1	○								兼1
		現代社会の解説(f) (未開講)	1・2④	1	○								兼1
		現代社会の解説(g)	1・2③	1	○								兼1
		現代社会の解説(h)	1・2④	1	○								兼1
		自然と人間の地理学(A) (未開講)	1・2前	2	○								兼1
		自然と人間の地理学(B) (未開講)	1・2前	2	○								兼1
		自然と人間の地理学(C) (未開講)	1・2前	2	○								兼1
		自然と人間の地理学(a)	1・2①	1	○								兼1
		自然と人間の地理学(b) (未開講)	1・2②	1	○								兼1
		自然と人間の地理学(c) (未開講)	1・2①	1	○								兼1
		自然と人間の地理学(d)	1・2④	1	○								兼1
		自然と人間の地理学(e)	1・2④	1	○								兼1
		自然と人間の地理学(f)	1・2③・④	1	○								兼1
小計 (149科目)			—	0	195	0	—	2	3	0	0	0	兼87

教養教育	現代教養科目	数学と文化(a) (未開講)	1・2前	1	○								兼1
		数学と文化(b) (未開講)	1・2前	1	○								兼1
		数学と文化(c)	1・2①	1	○								兼1
		数学と文化(d)	1・2②	1	○								兼1
		物理学の世界(A)	1・2④	2	○								兼1
		物理学の世界(a)	1・2①・②	1	○								兼1
		暮らしと化学(A) (未開講)	1・2後	2	○								兼1
		暮らしと化学(B)	1・2④	2	○								兼1
		暮らしと化学(C)	1・2④	2	○			1					
		暮らしと化学(D) (未開講)	1・2前	2	○								兼1
		暮らしと化学(E) (未開講)	1・2後	2	○								兼1
		暮らしと化学(F)	1・2後	2	○								兼1
		暮らしと化学(G)	1・2前	2	○								兼1
		暮らしと化学(a) (未開講)	1・2前	1	○								兼1
		暮らしと化学(b) (未開講)	1・2前	1	○								兼1
		暮らしと化学(c)	1・2①	1	○								兼1
		暮らしと化学(d)	1・2②	1	○								兼1
		化学と環境(A) (未開講)	1・2後	2	○								兼1
		化学と環境(B) (未開講)	1・2前	2	○								兼1
		化学と環境(C) (未開講)	1・2後	2	○								兼1
		化学と環境(a)	1・2①・③	1	○								兼1
		化学と環境(b)	1・2②・④	1	○								兼1
		最先端の生命科学(A) (未開講)	1・2後	2	○								兼5
		最先端の生命科学(a)	1・2③	1	○								兼1
		最先端の生命科学(b)	1・2④	1	○								兼1
		最先端の生命科学(c)	1・2③	1	○								兼1
		最先端の生命科学(d)	1・2③	1	○								兼1
		最先端の生命科学(e)	1・2②	1	○								兼1
		最先端の生命科学(f) (未開講)	1・2②	1	○								兼1
		地球環境科学の最前線(A)	1・2②	2	○								兼1
		地球環境科学の最前線(a)	1・2③	1	○								兼1
		地球環境科学の最前線(b)	1・2④	1	○								兼1
		地球環境科学の最前線(c)	1・2③	1	○								兼1
		地球環境科学の最前線(d)	1・2④	1	○								兼1
		地球環境科学の最前線(e)	1・2③	1	○								兼1
		地球環境科学の最前線(f)	1・2④	1	○								兼1
		地球環境科学の最前線(g)	1・2②	1	○								兼1
		地球環境科学の最前線(h) (未開講)	1・2②	1	○								兼4
		地域づくりと科学技術(A)	1・2②	2	○								兼1
		地域づくりと科学技術(B) (未開講)	1・2①	2	○								兼1
		地域づくりと科学技術(C)	1・2後	2	○								兼1
		地域づくりと科学技術(D)	1・2③	2	○								兼1
		地域づくりと科学技術(E)	1・2②	2	○								兼1
		地域づくりと科学技術(F)	1・2前	2	○								兼1
		ものづくりの科学と技術(A)	1・2①	2	○								兼1
		ものづくりの科学と技術(B)	1・2①	2	○								兼1
		ものづくりの科学と技術(C)	1・2②	2	○								兼1
		ものづくりの科学と技術(D)	1・2②	2	○								兼1
		ものづくりの科学と技術(E)	1・2②	2	○								兼1
		ものづくりの科学と技術(F)	1・2③	2	○								兼1
		ものづくりの科学と技術(G)	1・2②	2	○								兼1
		ものづくりの科学と技術(H)	1・2③	2	○								兼1
		暮らしと情報・通信技術(a)	1・2③	1	○								兼1
		暮らしと情報・通信技術(b)	1・2④	1	○								兼1

教養教育	現代教養科目	暮らしと情報・通信技術(c)	1・2③	1	○							兼1
		健康の科学(A) (未開講)	1・2前	2	○							兼1
		健康の科学(B)	1・2後	2	○			1				
		健康の科学(C) (未開講)	1・2後	2	○		2	1				兼1
		健康の科学(D)	1・2後	2	○			1	1			兼2
		健康の科学(a)	1・2①	1	○							兼1
		健康の科学(b)	1・2②	1	○							兼1
		病気の医科学(A)	1・2前	2	○							兼1
		病気の医科学(B) (未開講)	1・2後	2	○							兼1
		病気の医科学(C) (未開講)	1・2後	2	○							兼1
		臨床医学の最前線(A)	1・2後	2	○							兼1
		臨床医学の最前線(B) (未開講)	1・2後	2	○							兼1
		現代社会と医学(A)	1・2後	2	○							兼1
		現代社会と医学(B)	1・2前	2	○							兼1
		現代社会と医学(C) (未開講)	1・2後	2	○							兼1
		心身の健康と看護(A)	1・2①	2	○							兼1
		心身の健康と看護(B) (未開講)	1・2前	2	○							兼2
		心身の健康と看護(C) (未開講)	1・2後	2	○							兼1
		心身の健康と看護(D) (未開講)	1・2①	2	○							兼2
		心身の健康と看護(E) (未開講)	1・2前	2	○							兼2
		心身の健康と看護(F)	1・2前	2	○							兼1
		医療における理工学(a)	1・2③	1	○							兼1
		医療における理工学(b)	1・2②	1	○							兼1
		医療における理工学(c)	1・2③	1	○							兼1
		医療における理工学(d)	1・2④	1	○							兼1
		医療における理工学(e) (未開講)	1・2④	1	○							兼3
		現代の医学検査(a)	1・2①	1	○							兼1
		現代の医学検査(b)	1・2②	1	○							兼1
		現代医療と生命科学(a)	1・2②	1	○							兼1
		現代医療と生命科学(b)	1・2②	1	○							兼1
		現代医療と生命科学(c) (未開講)	1・2④	1	○							兼2
		薬科学入門(A)	1・2②	2	○							兼1
		薬科学入門(B)	1・2前	2	○							兼1
		薬科学入門(a) (未開講)	1・2①	1	○							兼1
		薬科学入門(b) (未開講)	1・2②	1	○							兼1
		現代社会と薬学(A)	1・2前	2	○							兼1
		現代教育について考える(A)	1・2前	2	○			1				
		現代教育について考える(B) (未開講)	1・2後	2	○		2					兼2
		現代教育について考える(C) (未開講)	1・2後	2	○		1	1				兼1
		現代教育について考える(D)	1・2前	2	○			1				
		現代教育について考える(E)	1・2前	2	○							兼1
		現代教育について考える(a)	1・2④	1	○		1					
		現代教育について考える(b) (未開講)	1・2④	1	○		1					
		現代教育について考える(c)	1・2③	1	○							兼1
		現代教育について考える(d)	1・2④	1	○							兼1
		現代教育について考える(e)	1・2④	1	○			1				
		心理学の探求(A)	1・2前	2	○							兼1
		心理学の探求(B)	1・2後	2	○							兼1
		芸術への招待(A)	1・2前	2	○			1				
		芸術への招待(B)	1・2後	2	○			1				
		芸術への招待(C)	1・2後	2	○			1				
		現代と言語(a)	1・2②	1	○							兼1
		現代と言語(b)	1・2④	1	○							兼1

教養教育	M u l t i d i s c i p l i n a r y S t u d i e s	Visual Media (A)	1・2前・後	2		○							兼1	
		Music and Humanity(a) (未開講)	1・2前	1		○							兼1	
		World History(a)	1・2①・②・③・④	1		○							兼1	
		World History(b)	1・2①・②・③・④	1		○							兼1	
		World History(c) (未開講)	1・2①・②・④	1		○							兼1	
		Academic Foundations(a)	1・2前・後	1		○							兼1	
		Area Studies(a)	1・2①・②・④	1		○							兼1	
		Area Studies(b)	1・2①・③	1		○							兼1	
		Area Studies(c) (未開講)	1・2前	1		○							兼1	
		Area Studies(d) (未開講)	1・2前	1		○							兼1	
		Area Studies(E) (未開講)	1・2前・後	2		○							兼3	
		Area Studies(e) (未開講)	1・2前・後	1		○							兼1	
		Area Studies(f)	1・2①・②・③・④	1		○							兼1	
		Area Studies(g)	1・2①・②・③・④	1		○							兼1	
		Area Studies(h)	1・2①・②・③・④	1		○							兼1	
		Area Studies(i)	1・2①・④	1		○							兼1	
		Comprehensive English Communication (a)	1・2①・②・③・④	1		○							兼1	
		Technical English Communication(a) (未開講)	1・2①・④	1		○							兼1	
		Technical English Communication(b) (未開講)	1・2③	1		○							兼1	
		Technical English Communication(c) (未開講)	1・2前・後	1		○							兼1	
		Technical English Communication(d) (未開講)	1・2前・後	1		○							兼1	
		Technical English Communication(e) (未開講)	1・2①	1		○							兼1	
		Technical English Communication(E) (未開講)	1・2前	2		○							兼1	
		Technical English Communication(f) (未開講)	1・2②・③	1		○							兼1	
		Technical English Communication(g) (未開講)	1・2①	1		○							兼1	
		Technical English Communication(h)	1・2①・②・③・④	1		○							兼1	
Global Career Development(a)	1・2①・②・③	1		○							兼1			
Global Career Development(b)	1・2④	1		○							兼1			
小計 (49科目)			—	0	54	—			0	0	0	0	0	兼15
基礎科目	外国語科目	英語A-1	1前・後	1			○			1			兼12	
		英語A-2	1前・後	1			○						兼22	
		英語B-1	1前・後	1			○		1				兼18	
		英語B-2	1前・後	1			○		1				兼13	
		英語C-1	2前	1			○						兼16	
		英語C-2	2後	1			○						兼16	
		英語D-1 (未開講)	2前	1			○						兼4	
		英語D-2 (未開講)	2後	1			○						兼4	
		ドイツ語A-1	1前	1			○						兼5	
		ドイツ語A-2	1後	1			○						兼5	
		ドイツ語B-1	1前	1			○						兼4	
		ドイツ語B-2	1後	1			○						兼4	
		ドイツ語C-1	2前	1			○						兼5	
		ドイツ語C-2	2後	1			○						兼5	
		ドイツ語D-1 (未開講)	2前	1			○						兼1	
		ドイツ語D-2 (未開講)	2後	1			○						兼1	
		ドイツ語a-1	1前	1			○						兼2	
		ドイツ語a-2	1後	1			○						兼2	
		フランス語A-1	1前	1			○						兼3	
		フランス語A-2	1後	1			○						兼3	
		フランス語B-1	1前	1			○						兼3	
		フランス語B-2	1後	1			○						兼3	
		フランス語C-1	2前	1			○						兼3	
		フランス語C-2	2後	1			○						兼3	

教養教育	基礎科目	外国語科目	フランス語D-1（未開講）	2前	1	○														兼1
			フランス語D-2（未開講）	2後	1	○														兼1
			フランス語a-1	1前	1	○														兼1
			フランス語a-2	1後	1	○														兼1
			中国語A-1	1前	1	○														兼7
			中国語A-2	1後	1	○														兼7
			中国語B-1	1前	1	○														兼7
			中国語B-2	1後	1	○														兼7
			中国語C-1	2前	1	○														兼4
			中国語C-2	2後	1	○														兼4
			中国語D-1（未開講）	2前	1	○														兼1
			中国語D-2（未開講）	2後	1	○														兼1
			中国語a-1	1前	1	○														兼2
			中国語a-2	1後	1	○														兼2
			コリア語A-1	1前	1	○														兼4
			コリア語A-2	1後	1	○														兼4
			コリア語B-1	1前	1	○														兼3
			コリア語B-2	1後	1	○														兼3
			コリア語C-1	2前	1	○														兼2
			コリア語C-2	2後	1	○														兼2
			コリア語D-1（未開講）	2前	1	○														兼1
			コリア語D-2（未開講）	2後	1	○														兼1
			コリア語a-1（未開講）	1前	1	○														兼1
			コリア語a-2（未開講）	1後	1	○														兼1
			日本語A-1	1・2前	1	○														兼1
			日本語A-2	1・2前・後	1	○														兼2
			日本語B-1	1・2前	1	○														兼2
			日本語B-2	1・2後	1	○														兼2
			日本語C-1	1・2前	1	○														兼1
			日本語C-2	1・2前・後	1	○														兼4
			日本語D-1	1・2前	1	○														兼2
			日本語D-2	1・2後	1	○														兼2
			英語Ⅰ-1	1前	1	○														兼4
			英語Ⅰ-2	1後	1	○														兼1
			英語Ⅱ-1（未開講）	2前	1	○														兼1
			ドイツ語Ⅰ-1	1前	1	○														兼2
			ドイツ語Ⅰ-2	1後	1	○														兼2
			ドイツ語Ⅱ-1	2前	1	○														兼1
			ドイツ語Ⅱ-2	2後	1	○														兼1
			ドイツ語Ⅲ-1（未開講）	2前	1	○														兼1
			ドイツ語Ⅲ-2（未開講）	2後	1	○														兼1
			フランス語Ⅰ-1	1前	1	○														兼2
			フランス語Ⅰ-2	1後	1	○														兼2
			フランス語Ⅱ-1（未開講）	1・2前	1	○														兼1
			フランス語Ⅱ-2（未開講）	1・2後	1	○														兼1
			フランス語Ⅲ-1	2前	1	○														兼1
			フランス語Ⅲ-2	2後	1	○														兼1
			中国語Ⅰ-1	1前	1	○														兼2
			中国語Ⅰ-2	1後	1	○														兼2
			中国語Ⅱ-1	2前	1	○														兼1
			中国語Ⅱ-2	2後	1	○														兼1
			中国語Ⅲ-1（未開講）	2前	1	○														兼1
			中国語Ⅲ-2（未開講）	2後	1	○														兼1

教養教育	基礎科目	外国語科目	コリア語Ⅰ-1	1前	1			○								兼2	
			コリア語Ⅰ-2	1後	1			○								兼2	
			コリア語Ⅱ-1	2前	1			○								兼1	
			コリア語Ⅱ-2	2後	1			○								兼1	
			コリア語Ⅲ-1（未開講）	2前	1			○								兼1	
			コリア語Ⅲ-2（未開講）	2後	1			○								兼1	
			ロシア語Ⅰ-1	1前	1			○								兼1	
			ロシア語Ⅰ-2	1後	1			○								兼1	
			ロシア語Ⅱ-1（未開講）	2前	1			○								兼1	
			ロシア語Ⅱ-2（未開講）	2後	1			○								兼1	
			スペイン語Ⅰ-1	1前	1			○								兼1	
			スペイン語Ⅰ-2	1後	1			○								兼1	
			スペイン語Ⅱ-1	2前	1			○								兼1	
			スペイン語Ⅱ-2	2後	1			○								兼1	
			イタリア語Ⅰ-1	1前	1			○								兼1	
			イタリア語Ⅰ-2	1後	1			○								兼1	
			ラテン語Ⅰ-1	1前	1			○								兼1	
			ラテン語Ⅰ-2	1後	1			○								兼1	
			ヘブライ語Ⅰ-1	1前	1			○								兼1	
			ヘブライ語Ⅰ-2	1後	1			○								兼1	
			日本語Ⅰ-1（未開講）	2前	1			○								兼1	
			日本語Ⅰ-2	1・2前・後	1			○								兼3	
			日本語Ⅱ-1（未開講）	2前	1			○								兼1	
			日本語Ⅱ-2	1・2前・後	1			○								兼2	
			日本語Ⅲ-1	1・2前	1			○								兼7	
			日本語Ⅲ-2	1・2前・後	1			○								兼7	
			日本語Ⅳ-1	1前	1			○								兼7	
			日本語Ⅳ-2	1・2前・後	1			○								兼7	
			小計（105科目）	—	8	97	0	—		1	1	0	0	0	0	兼109	
		情報科目	情報基礎A	1前	1			○								兼10	
			情報基礎B	1後	1			○								兼10	
			情報処理概論	2後	1			○								兼8	
			小計（3科目）	—	3	0	0	—		0	0	0	0	0	0	兼10	
		肥後熊本学		1①・②・③・④	1			○			1					兼11	
	理系基礎科目	微分積分Ⅰ	1前	2				○								兼10	
		微分積分Ⅱ	1後	2				○								兼10	
		微分積分概論（未開講）	1前		2			○								兼1	
		線形代数Ⅰ	1前	2				○								兼11	
		線形代数Ⅱ	1後	2				○								兼11	
		線形代数概論（未開講）	1後		2			○								兼1	
		数学概論	1前		2			○								兼2	
		統計学Ⅰ	2前		2			○								兼2	
		統計学Ⅱ	2後		2			○								兼1	
		統計学概論	1・2前・後		2			○								兼2	
		物理学Ⅰ	1前		2			○								兼4	
		物理学Ⅱ	1後		2			○								兼4	
		物理学	1前		2			○								兼1	
		物理学基盤実験	1・2①・②・③・④		1				○							兼1	
		化学Ⅰ	1前		2			○								兼2	
		化学Ⅱ	1後		2			○								兼2	
		化学基盤実験	1・2①・②・③・④		1				○							兼1	
		生物学Ⅰ	1前		2			○								兼2	

教養教育	基礎科目	理系基礎科目	生物学II	1後	2		○									兼2	
			生物学基盤実験	1・2①・②・③・④	1				○						兼1		
			地学I	1前	2		○								兼2		
			地学II	1後	2		○								兼2		
			地学基盤実験	1・2①・②・③・④	1				○						兼1		
			小計（23科目）	—	8	34	0	—			0	0	0	0	0	兼43	
		体育・スポーツ科学科目		1前・後		2		○			2	2				兼6	
		小計（133科目）		—	20	133	0	—			3	4	0	0	0	兼178	
		キャリア科目	キャリア科目 1	1・2前	2		○									兼1	
	キャリア科目 2		1・2後	2		○									兼1		
	キャリア科目 3		1・2後	2		○			1								
	キャリア科目 4（未開講）		1・2後	2		○									兼1		
	キャリア科目 5		1・2後	2		○									兼1		
	キャリア科目 6		1・2前	2		○			1								
	キャリア科目 7		1・2後	2		○			1								
	キャリア科目 8（未開講）		1・2前	2		○									兼1		
	キャリア科目 9（未開講）		1・2前	2		○									兼9		
	キャリア科目 10		1・2前・後	2		○									兼1		
	キャリア科目 11		1・2前	2		○									兼1		
	キャリア科目 12		1・2後	2		○									兼1		
	キャリア科目 13		1・2前	2		○									兼1		
	キャリア科目 14		1・2後	2		○									兼1		
	キャリア科目 15		1・2前	2		○									兼1		
	キャリア科目 16		1・2後	2		○									兼1		
	キャリア科目 51		1・2前・後	1		○									兼1		
	キャリア科目 52		1・2①	1		○									兼1		
	キャリア科目 53		1・2前・後	1		○									兼1		
	キャリア科目 54		1・2②	1		○									兼1		
	キャリア科目 55		1・2③	1		○									兼1		
	キャリア科目 56		1・2②	1		○									兼1		
	キャリア科目 57		1・2③	1		○									兼1		
	キャリア科目 58（未開講）		1・2前	1		○									兼1		
	キャリア科目 59	1・2②	1		○									兼1			
	キャリア科目 60	1・2③	1		○									兼1			
	キャリア科目 61	1・2③	1		○									兼1			
		小計（27科目）		—	0	43	0	—			2	0	0	0	0	兼25	
		開放科目	開放科目 1（未開講）	1・2前	2		○			1							
	開放科目 2（未開講）		1・2前	2		○									兼1		
	開放科目 3（未開講）		1・2後	2		○									兼1		
	開放科目 4（未開講）		1・2後	2		○									兼1		
	開放科目 5（未開講）		1・2前	2		○									兼1		
	開放科目 6（未開講）		1・2後	2		○									兼1		
	開放科目 7（未開講）		1・2前	1		○									兼1		
	開放科目 8（未開講）		1・2前	2		○									兼1		
	開放科目 9		1・2後	1		○									兼1		
	開放科目 10（未開講）		1・2前	1		○									兼1		
	開放科目 11		1・2後	2		○									兼1		
	開放科目 12（未開講）		1・2後	2		○									兼1		
	開放科目 13		1・2前	1		○				1							
	開放科目 14		1・2後	1		○				1							
	開放科目 15（未開講）		1・2後	2		○									兼1		
	開放科目 16		1・2後	2		○									兼1		
	開放科目 17		1・2後	2		○									兼1		
		小計（17科目）		—	0	29	0	—			1	2	0	0	0	兼12	
		小計（513科目）		—	20	657	0	—			13	16	1	0	0	0	兼393

専門教育	専門基礎科目	英語	英語コミュニケーションⅠ	1前	2				○			1					兼1		
			英語コミュニケーションⅡ	2後	2				○										
			小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	1	0	0	0	兼1			
	小学校課程の「教科及び教科の指導法に関する科目」	教科に関する専門的事項	国語	2前・後	2				○									兼1	
			社会	2前・後	2				○			1						兼3	
			算数	2前・後	2				○									兼1	
			理科	2前	2				○			1						兼2	
			生活	1後	2				○			3	1					兼1	
			小学校音楽	1前	2				○				1						
			図画工作	1前	2				○				2					兼1	
			家庭	2前・後	2				○			2	1						
			体育	1後	2				○			3	2						
			小学校英語	4前	2				○				1						
			小計（10科目）	—	20	0	0	—			9	8	0	0	0	兼11			
		教科の指導法	初等国語科教育	3前	2				○				1						
			初等社会科教育	2後3前	2				○				2						
			算数科教育	3前	2				○				1					兼1	
			初等理科教育法	2後3前	2				○				2						
			生活科教育	3後	2				○			2	3					兼5	
			初等音楽科教育	2後3前	2				○				1						
			図画工作科教育	2後3前	2				○				1						
			体育科教育	2後	2				○			3	2					兼1	
			初等家庭科教育	2後3前	2				○			1						兼1	
			初等英語科教育	3前・後	2				○			1						兼1	
			小計（10科目）	—	20	0	0	—			6	11	0	0	0	兼9			
	小計（20科目）		—	40	0	0	—			12	16	0	0	0	兼18				
	専門科目	小学校課程の「教育の基礎的理解に関する科目等」	教職入門	1後	2				○				2						
			教育学概論	1前	2				○			1	1						
			教育心理学	1前	2				○			1	1						
			教育思想	3前		2			○				1						
			教育史	3前・後		2			○									兼1	
			人権教育論	3後		2			○				1						
			教職保健	4後		2			○			1	1	1				兼1	
			教育社会学	3後		2			○				1						
			学校経営学	3前		2			○									兼1	
			学校教育と生涯学習			2			○			1							
			特別支援教育原理			2			○				2						
			教育課程基礎論（特別活動及び総合的な学習の時間の指導を含む）	2後		2			○			1	2						
			道徳教育の理論と実践	3後		2			○				2						
			教育方法・技術	1前2前		2			○									兼2	
			教育評価	3後		2		2	○									兼1	
			生徒指導の理論と方法	2前		2			○			1							
			教育相談とキャリア教育			2			○									兼1	
			教育実践研究指導法演習	2後3後4後		2				○		1							
			教育臨床体験演習	3前		2				○		1							
			教職実践基礎セミナー	1通		2				○		3	11					兼9	
			事前・事後指導		1						○	5	7	1				兼5	
			初等教育実習Ⅰ		2					○		5	7	1				兼5	
			初等教育実習Ⅱ		2					○		5	7	1				兼5	
			教職実践演習（幼・小）	4通		2				○		6	4					兼6	
			幼稚園教育課程論	2後		2		2		○								兼1	
			保育内容（概論）の理論と方法	3前		2		2		○								兼1	
			保育内容（人間関係）の理論と方法	3後		2		2		○								兼1	
			保育内容（環境）の理論と方法	3前		2		2		○		1							

専門教育	専門科目	中学校課程の「教科及び教科の指導法に関する科目」	国語	教科に関する専門的事項	小学校課程の「教育の基礎的理解に関する科目等」	保育内容(言葉)の理論と方法	3後		2		○						兼1		
					幼児教育指導法	2前		2		○						兼2			
					小計(30科目)	—	27	32	0	—		12	16	1	0	0	兼19		
				国語学	国語学概説Ⅰ	2前	1			○							兼1		
					国語学概説Ⅱ	2後		1		○							兼1		
					国語学概説Ⅲ	3前		1		○							兼1		
					国語学概説Ⅳ	3前		1		○							兼1		
					国語学概説Ⅴ	3後	1			○							兼1		
					国語学演習Ⅰ	2後		1			○						兼1		
					国語学演習Ⅱ	2前		1			○						兼1		
					国語学演習Ⅲ	3前		1			○						兼1		
					国語学演習Ⅳ			1			○						兼1		
					小計(9科目)	—	2	7	0	—		0	0	0	0	0	兼1		
				国文学	国文学概説Ⅰ	2後	1			○							兼1		
					国文学概説Ⅱ	2前	1			○							兼1		
					国文学講義Ⅲ	3前		1		○							兼1		
					国文学講義Ⅳ	3前		1		○							兼1		
					国文学演習Ⅳ	2前		1			○						兼1		
					国文学演習Ⅴ	3後		2			○						兼1		
					国文学演習Ⅵ	4後		2			○						兼1		
					小計(7科目)	—	2	7	0	—		0	0	0	0	0	兼2		
				漢文学	漢文学概説Ⅰ	3後	1			○							兼1		
					漢文学概説Ⅱ	3後	1			○							兼1		
					漢文学講読Ⅰ	3前		1		○							兼1		
					漢文学講読Ⅱ	3前		1		○							兼1		
					漢文学演習Ⅰ	2前		1			○						兼1		
					漢文学演習Ⅱ	2前		1			○						兼1		
					小計(6科目)	—	2	4	0	—		0	0	0	0	0	兼1		
				書道	書写	2前	2										兼1		
				教科の指導法	中等国語科教育Ⅰ	2前	2			○						1			
					中等国語科教育Ⅱ	3前	2			○						1			
					中等国語科教育Ⅲ	2後	2			○						1			
					中等国語科教育Ⅳ	3後	2			○						1			
					国語教育特殊講義Ⅰ	2前		2		○						1			
					国語教育特殊講義Ⅱ	2後		2		○						1			
					国語教育演習Ⅰ	3前		1			○					1			
					国語教育演習Ⅱ	3後		1			○					1			
					小計(8科目)	—	8	6	0	—		0	2	0	0	0	0	0	
					卒業論文		6								2			兼4	
				小計(32科目)	—	22	24	0			0	2	0	0	0	兼5			
			社会	歴史学	教科に関する専門的事項	日本史概説Ⅰ	2後	1			○						兼1		
						日本史概説Ⅱ	2後	1			○						兼1		
						日本史特講Ⅰ	3前		1		○						兼1		
						日本史特講Ⅱ	3前		1		○						兼1		
						日本史演習Ⅰ	3前		2			○					兼1		
						日本史演習Ⅱ	3後		2			○					兼1		
						日本史演習Ⅲ	3前		2			○					兼1		
						日本史演習Ⅳ	3後		2			○					兼1		
						日本史調査実習	2前3前		2				○				兼1		
						世界史概説Ⅰ	2後	1			○						兼1		
						世界史概説Ⅱ	2後	1			○						兼1		
						世界史特講Ⅰ	3後		1		○						兼1		
						世界史特講Ⅱ	3後		1		○						兼1		
						世界史演習Ⅰ	3前		2			○					兼1		
						世界史演習Ⅱ	3後		2			○					兼1		
						世界史演習Ⅲ	3前		2			○					兼1		

専 門 教 育	専 門 科 目	中 学 校 課 程 の「教科及び教科の指導法に関する科目」	社会	教科に関する専門的事項	歴史学	世界史演習Ⅳ	3後		2			○					兼1			
						小計（17科目）	—	4	22	0		—		0	0	0	0	0	兼2	
					地理学	人文地理学概説Ⅰ	3前	1			○							兼1		
						人文地理学概説Ⅱ	3前	1			○							兼1		
自然地理学概説	2前	2				○							兼1							
人文地理学特講Ⅰ	2前		1			○							兼1							
人文地理学特講Ⅱ	2前		1			○							兼1							
自然地理学特講			2			○							兼1							
人文地理学演習Ⅰ	3前		2				○						兼1							
人文地理学演習Ⅱ	3後		2				○	○					兼1							
人文地理学演習Ⅲ	3前		2				○	○					兼1							
人文地理学演習Ⅳ	3後		2				○	○					兼1							
法学・政治学	地理学調査実習	3前		2					○				兼1							
	地誌Ⅰ	2後	1			○							兼1							
	地誌Ⅱ	2後	1			○							兼1							
	小計（13科目）	—	6	14	0		—		0	0	0	0	0	兼2						
	法学概説Ⅰ	2前		1		○							兼1							
	法学概説Ⅱ	2前		1		○							兼1							
	政治学概説	2前		2		○							兼1							
	法学特講Ⅰ	3後		1		○							兼1							
	法学特講Ⅱ	3後		1		○							兼1							
	政治学特講			2		○							兼1							
社会学・経済学	法学演習Ⅰ	3前		2			○						兼1							
	法学演習Ⅱ	3後		2			○	○					兼1							
	法学演習Ⅲ	3前		2			○	○					兼1							
	法学演習Ⅳ	3後		2			○	○					兼1							
	小計（10科目）	—	0	16	0		—		0	0	0	0	0	兼2						
	社会学概説	3後		2		○							兼1							
	経済学概説Ⅰ	2前		1		○							兼1							
	経済学概説Ⅱ	2前		1		○							兼1							
	社会学特講			2		○							兼1							
	経済学特講Ⅰ	3後		1		○							兼1							
哲学・倫理学	経済学特講Ⅱ	3後		1		○							兼1							
	経済学演習Ⅰ	3前		2			○	○					兼1							
	経済学演習Ⅱ	3後		2			○	○					兼1							
	経済学演習Ⅲ	3前		2			○	○					兼1							
	経済学演習Ⅳ	3後		2			○	○					兼1							
	地域調査実習	3後		2				○					兼1							
	小計（11科目）	—	0	18	0		—		0	0	0	0	0	兼2						
	哲学概説Ⅰ	2後		1		○				1										
	哲学概説Ⅱ	2後		1		○			1											
	倫理学概説Ⅰ	2前		1		○			1											
倫理学概説Ⅱ	2前		1		○			1												
教科の指導法	哲学特講Ⅰ	2後		1		○			1											
	哲学特講Ⅱ	2後		1		○			1											
	倫理学特講Ⅰ	3後		1		○			1											
	倫理学特講Ⅱ	3後		1		○			1											
	倫理学演習Ⅰ	3前		2			○		1											
	倫理学演習Ⅱ	3後		2			○	○	1											
	倫理学演習Ⅲ	3前		2			○	○	1											
	倫理学演習Ⅳ	3後		2			○	○	1											
	小計（12科目）	—	0	16	0		—		1	0	0	0	0	0						
	中学校社会科教育Ⅰ	2前	2			○				1										
中学校社会科教育Ⅱ	2後	2			○				1											
中学校社会科教育Ⅲ	3前	2			○				1											
中学校社会科教育Ⅳ	3後	2			○				1											
地理歴史科教育Ⅰ	3前		2		○				1											

専門教育	専門科目	中学校課程の「教科及び教科の指導法に関する科目」	社会	教科の指導法	地理歴史科教育Ⅱ	3後		2		○					1				
					公民科教育Ⅰ	3前		2		○				1					
					公民科教育Ⅱ	3後		2		○				1					
				小計（8科目）	—	8	8	0	—		0	2	0	0	0	0			
				関連科目	社会科教育演習Ⅰ	3前		2			○			1					
					社会科教育演習Ⅱ	3後		2			○			1					
					社会科教育演習Ⅲ	3前		2			○			1					
					社会科教育演習Ⅳ	3後		2			○			1					
					社会科教育演習Ⅴ	3前		2			○			1					
					社会科教育演習Ⅵ	3後		2			○			1					
			社会科教育演習Ⅶ		3前		2			○			1						
			関連科目	社会科教育演習Ⅷ	3後		2			○			1						
				小計（8科目）	—	0	16	0	—		0	2	0	0	0	0			
				卒業論文		6					1	2					兼3		
			小計（80科目）	—	24	110	0	—		1	2	0	0	0		兼7			
			数学	教科に関する専門的事項	代数学	代数学序論A	2前		1		○						兼1		
						代数学序論B	2前		1		○					兼1			
						代数学概論A	2後		1		○					兼1			
						代数学概論B	2後		1		○					兼1			
						代数学講義A	3前		1		○					兼1			
						代数学講義B	3前		1		○					兼1			
						代数学特論	3後		2		○					兼1			
						代数学演習	3後		2			○				兼1			
					小計（8科目）	—	0	10	0	—		0	0	0	0	0	兼1		
					幾何学	幾何学序論A	2前		1		○							兼1	
				幾何学序論B		2前		1		○							兼1		
幾何学概論A	2後			1			○							兼1					
幾何学概論B	2後			1			○							兼1					
幾何学講義A	3前			1			○							兼1					
幾何学講義B	3前			1			○							兼1					
幾何学特論	3後			2			○							兼1					
小計（7科目）	—	0		8		0	—		0	0	0	0	0	兼1					
解析学	解析学序論A	2前			1		○							兼1					
	解析学序論B	2前			1		○							兼1					
	解析学概論A	2後			1		○							兼1					
	解析学概論B	2後			1		○							兼1					
	解析学講義A	3前			1		○							兼1					
	解析学講義B	3前			1		○							兼1					
小計（6科目）	—	0		6	0	—		0	0	0	0	0	兼1						
確率論・統計学	確率統計学A	2後			1									兼1					
	確率統計学B	2後			1									兼1					
	小計（2科目）	—		0	2	0	—		0	0	0	0	0	兼1					
コンピュータ	計算機概論A	3前			1		○							兼1					
	計算機概論B	3前			1		○							兼1					
	情報数学A	3前			1		○							兼1					
	情報数学B	3前		1		○							兼1						
	応用数学特論	3後		2		○							兼1						
	応用数学演習	3後		2			○						兼1						
	小計（6科目）	—	0	8	0	—		0	0	0	0	0	兼1						
教科の指導法	数学科教育Ⅰ	2前	2			○				1									
	数学科教育Ⅱ	2後	2			○				1									
	数学科教育Ⅲ	3前	2			○				1									
	数学科教育Ⅳ	3前	2			○				1									
	数学科教育特論A	3後	2			○				1									
	小計（5科目）	—	8	2	0	—		0	1	0	0	0	0						
	卒業論文		6						1				兼3						
小計（35科目）	—	14	36	0	—		0	1	0	0	0		兼4						

専門教育	専門科目	中学校課程の「教科及び教科の指導法に関する科目」	理科	教科に関する専門的事項	基礎物理学A	2前	1				○							兼1	
					基礎物理学B	2前	1				○							兼1	
					基礎物理学演習	2前	1					○						兼1	
					物理学 I	2後		2			○							兼1	
					物理学II	2後		2			○							兼1	
					物理学基礎研究	3後		2				○						兼1	
					物理学実験	3前	2						○					兼1	
					小計 (7科目)	—	5	6	0		—			0	0	0	0	0	兼1
					基礎化学A	2後	1				○				1				
					基礎化学B	2後	1				○								兼1
					基礎化学演習	2後	1					○			1				兼1
					化学 I	2前		2			○				1				
					化学II	2前		2			○								兼1
					化学基礎研究	3後		2				○			1				兼1
					化学実験	3前	2						○		1				兼1
					小計 (7科目)	—	5	6	0		—			1	0	0	0	0	兼1
					基礎生物学A	2後	1				○								兼1
					基礎生物学B	2後	1				○								兼1
					基礎生物学演習	2後	1					○							兼1
					生物学 I	2前		2			○								兼1
					生物学II	3前		2			○								兼1
					生物学基礎研究	3後		2				○							兼1
					生物学実験	3前	2						○						兼1
					小計 (7科目)	—	5	6	0		—			0	0	0	0	0	兼1
					基礎地学A	2後	1				○								兼1
					基礎地学B	2後	1				○								兼1
					基礎地学演習	2後	1					○							兼1
					地学実験	3前	2						○						兼1
					小計 (4科目)	—	5	0	0		—			0	0	0	0	0	兼1
					中等理科教育法 I	2前	2				○				1				
					中等理科教育法 II	2後	2				○				2				
					中等理科教育法 III	3前	2				○				1				
					中等理科教育法 IV	3後	2				○				2				
					理科教育基礎研究	3後		2				○			2				
					理科教育実践入門	1後		2			○				2				
					小計 (6科目)	—	8	4	0		—			0	2	0	0	0	0
					卒業論文		6							1	2				兼3
					小計 (32科目)	—	34	22	0		—			1	2	0	0	0	兼5
					ソルフェージュ I	2前	1						○						兼1
					ソルフェージュ II	2後		1					○						兼1
					小計 (2科目)	—	1	1	0		—			0	0	0	0	0	兼1
					声楽演習 I	1前2前	2					○			1				兼1
					声楽演習 II	1後2後	2					○			1				
					声楽演習 III	2前		2				○			1				
					声楽演習 IV	2後		2				○			1				
					声楽実技 I	3前		1					○		1				
					声楽実技 II	3後		1					○		1				
					合唱 I	2前	1						○		1				兼1
					合唱 II	2後		1					○		1				兼1
					合唱 III	3前	1						○		1				兼1
					合唱 IV	3後		1					○		1				兼1
					小計 (10科目)	—	6	8	0		—			0	1	0	0	0	兼3
					器楽演習 A I	1前2前	2					○			1				
					器楽演習 A II	1後2後	2					○			1				
					器楽演習 A III	2前		2				○			1				
					器楽演習 A IV	2後		2				○			1				
					器楽実技 A I	3前		1					○		1				
					器楽実技 A II	3後		1					○		1				

専門教育	中学校課程の「教科及び教科の指導法に関する科目」	専門科目	音楽	教科に関する専門的事項	器楽	器楽演習BⅠ	1前2前	2				○						兼1		
						器楽演習BⅡ	1後2後	2			○									
						合奏Ⅰ	2前	1												
						合奏Ⅱ	2前		1											
						合奏Ⅲ	3前		1											
						伴奏法演習	3後		2			○					兼1			
						小計（12科目）	—	7	12	0	—		1	2	0	0	0	兼2		
						指揮法	指揮法	3前	2				○						兼1	
					音楽理論A		2前	2				○						兼1		
					音楽理論・作曲法・音楽史	音楽理論BⅠ	1前	2				○						兼1		
						音楽理論BⅡ	2後		2			○						兼1		
						音楽史Ⅰ	1後	2				○						兼2		
				音楽史Ⅱ		2前		2			○						兼1			
				作曲法		2前	2				○						兼1			
				音楽学演習Ⅰ		3前		2			○						兼1			
				音楽学演習Ⅱ		3後		2			○						兼1			
				作曲演習Ⅰ		3前		2			○						兼1			
				作曲演習Ⅱ		3後		2			○						兼1			
				小計（10科目）		—	8	12	0	—		0	0	0	0	0	兼4			
				教科の指導法	音楽科教育法Ⅰ	1後	2				○									
					音楽科教育法Ⅱ	2前	2				○									
					音楽科教育法Ⅲ	3前	2				○									
					音楽科教育法Ⅳ	3後	2				○									
					小計（4科目）	—	8	0	0	—		0	2	0	0	0	0			
					卒業論文		6					1	3				兼2			
				小計（40科目）		—	38	33	0	—		1	3	0	0	0	兼6			
				美術	教科に関する専門的事項	絵画	絵画基礎Ⅰ	1後	2					○						
							絵画基礎Ⅱ	2前	2					○						
							絵画演習Ⅰ	2後		2				○						
							絵画演習Ⅱ	2・3集中		2				○						
							絵画演習Ⅲ	3後		2				○						
							小計（5科目）	—	4	6	0	—		0	1	0	0	0	0	
						彫刻	彫刻基礎Ⅰ	1前	2						○					兼1
							彫刻基礎Ⅱ	2前		2					○					兼1
							彫刻演習Ⅰ	2後		2					○					兼1
							彫刻演習Ⅱ	2・3集中		2					○					兼1
							彫刻演習Ⅲ	3前		2					○					兼1
							小計（5科目）	—	2	8	0	—		0	0	0	0	0	兼1	
					デザイン	デザイン基礎Ⅰ	1前	2						○						
						デザイン基礎Ⅱ	2前		2					○						
デザイン演習Ⅰ	2後		2							○										
デザイン演習Ⅱ	2前3前		2							○										
デザイン演習Ⅲ	3前		2							○										
小計（5科目）	—	2	8		0	—		1	0	0	0	0	0							
工芸	工芸基礎	1後	2							○										
	工芸演習Ⅰ	2後			2					○										
	工芸演習Ⅱ	2・3集中			2					○										
	小計（3科目）	—	2		4	0	—		1	0	0	0	0	0						
美術理論・美術史	美術概論	2前	1						○											
	美術史	2前	1						○											
	小計（2科目）	—	2		0	0	—		0	1	0	0	0	0						
教科の指導法	美術科教育法Ⅰ	2前	2					○												
	美術科教育法Ⅱ	3前	2					○												
	美術科教育演習Ⅰ	3後	2						○											
	美術科教育演習Ⅱ	3後	2						○											
	小計（4科目）	—	8	0	0	—		1	1	0	0	0	0							
	卒業論文		6					2	2					兼1						
小計（25科目）		—	26	26	0			2	2	0	0	0	兼1							

専門教育	専門科目	学校課程の「教科及び教科の指導法に関する科目」	保健体育	教科に関する専門的事項	体育実技Ⅰ	2前	1					○	1	1											
					体育実技Ⅱ	3前	1					○													兼1
					体育実技Ⅲ	2前	1					○	1												
					体育実技Ⅳ	3前	1					○	2	1											兼1
					体育実技Ⅴ	2前3前		1				○		1											
					体育実技Ⅵ	2後3後		1				○	1												
					体育実技Ⅶ	2前	1					○		1											
					体育実技Ⅷ	3前	1					○	1												
					体育実技Ⅸ	4後	1					○	3	2											
					野外活動	1・2・3集中		1				○	1	1											
					小計（10科目）	—	7	3	0			—	3	2	0	0	0							兼2	
					体育原理	3前		2				○													兼1
					体育経営管理学	2前		2				○													兼1
					体育社会学	3前		2				○													兼1
					運動学	3後	2					○		1											
					保健体育科課題研究Ⅰ			2				○	1	1											
					保健体育科課題研究Ⅱ			2				○	1	1											
					小計（6科目）	—	2	10	0			—	1	1	0	0	0							兼3	
					生理学(運動生理学を含む。)	2前	2					○	1	1											
					生理学実験・演習	2後		2				○	1	1											
					衛生学(公衆衛生学を含む。)	2後	1					○													兼1
					保健体育科課題研究Ⅲ			2					1	1											
					保健体育科課題研究Ⅳ			2					1	1											
					小計（5科目）	—	3	6	0			—	1	1	0	0	0								兼1
					学校保健Ⅰ	2前	2					○	1												兼1
					学校保健Ⅱ	3後		2				○	1												
					保健体育科課題研究Ⅴ			2					1												兼1
					保健体育科課題研究Ⅵ			2					1												兼1
					小計（4科目）	—	2	6	0			—	2	0	0	0	0								兼1
					保健体育科教育Ⅰ	2前	2					○	1												
					保健体育科教育Ⅱ	2後	2					○	1												兼1
					保健体育科教育Ⅲ	3前	2					○	1	2											
					保健体育科教育Ⅳ	3後	2					○	2												
					小計（4科目）	—	8	0	0			—	3	2	0	0	0								兼1
					卒業論文		6						3	2											兼1
					小計（30科目）	—	28	25	0			—	3	2	0	0	0								兼4
					木材加工Ⅰ	3前	1					○	1												
					木材加工Ⅱ	3前	1					○	1												
					木材加工Ⅲ	2後		1				○	1												
					木材加工Ⅳ	2後		1				○	1												
					木材加工実習Ⅰ	3前	1						1												
					木材加工実習Ⅱ	3前	1						1												
					製図Ⅰ	3前		1						1											
					製図Ⅱ	3前		1						1											
					小計（8科目）	—	4	4	0			—	1	1	0	0	0	0							
					金属加工Ⅰ	2前	1					○	1												
					金属加工Ⅱ	2前	1					○	1												
					小計（2科目）	—	2	0	0			—	1		0	0	0	0							
					機械Ⅰ	2前	1					○		1											
					機械Ⅱ	2前	1					○		1											
					機械実験実習Ⅰ	3後	1							1											
					機械実験実習Ⅱ	3後	1							1											
					小計（4科目）	—	4	0	0			—	0	1	0	0	0	0							
					電気Ⅰ	2前3前	1					○													兼1
					電気Ⅱ	2前3前	1					○													兼1
					小計（2科目）	—	2	0	0			—	0	0	0	0	0	0							兼1

専 門 教 育	専 門 科 目	中 学 校 課 程 の 「 教 科 及 び 教 科 の 指 導 法 に 関 する 科 目 」	教 科 に 関 する 専 門 的 事 項	栽培	栽培Ⅰ	2後	1			○			1						
				栽培	栽培Ⅱ	2後	1			○			1						
				栽培	栽培実習Ⅰ	2前	1					○	1						
				栽培	栽培実習Ⅱ	2前	1					○	1						
専 門 教 育	専 門 科 目	中 学 校 課 程 の 「 教 科 及 び 教 科 の 指 導 法 に 関 する 科 目 」	技 術	情報とコンピュータ	情報とコンピュータⅠ	2前	1			○			1						
				情報とコンピュータ	情報とコンピュータ実習Ⅰ	2前	1					○	1						
				職業指導	職業指導	3後		2		○				1					
				技術の指導法	技術科教育Ⅰ	2後	2				○		1						
専 門 教 育	専 門 科 目	中 学 校 課 程 の 「 教 科 及 び 教 科 の 指 導 法 に 関 する 科 目 」	技 術	技術の指導法	技術科教育Ⅱ	3後	2				○		3	1					
				技術の指導法	技術科教育Ⅲ	3後	2				○		1						
				技術の指導法	技術科教育Ⅳ	3前	2				○		1						
				技術の指導法	工業科教育法Ⅰ	3後		2			○							兼1	
専 門 教 育	専 門 科 目	中 学 校 課 程 の 「 教 科 及 び 教 科 の 指 導 法 に 関 する 科 目 」	技 術	技術の指導法	工業科教育法Ⅱ	4後		2			○			1					
				技術の指導法	小計（6科目）	—	8	4	0	—			3	1	0	0	0	兼1	
				関連科目	技術基礎実習	1前		1				○	3	1					
				関連科目	プレゼンテーション演習Ⅰ	1後		2			○		1						
専 門 教 育	専 門 科 目	中 学 校 課 程 の 「 教 科 及 び 教 科 の 指 導 法 に 関 する 科 目 」	技 術	関連科目	プレゼンテーション演習Ⅱ	3後		2			○		1					兼1	
				関連科目	小計（3科目）	—	0	5	0	—			3	0	0	0	0	兼1	
				卒業論文	卒業論文		6						3	1					
				小計（33科目）	小計（33科目）	—	32	13	0	—			3	1	0	0	0	兼2	
専 門 教 育	専 門 科 目	中 学 校 課 程 の 「 教 科 及 び 教 科 の 指 導 法 に 関 する 科 目 」	家 庭	家庭経営学	家庭経営学Ⅰ	3前	1			○			1						
				家庭経営学	家庭経営学Ⅱ	3前	1			○			1						
				家庭経営学	家庭経営学演習	4後		1			○		1						
				家庭経営学	家政学原論Ⅰ	2前	1			○			1						
専 門 教 育	専 門 科 目	中 学 校 課 程 の 「 教 科 及 び 教 科 の 指 導 法 に 関 する 科 目 」	家 庭	家庭経営学	家政学原論Ⅱ	2前		1		○			1						
				家庭経営学	家庭経済学	3後		1		○			1						
				家庭経営学	家庭経済学演習	3後		1			○		1						
				家庭経営学	家族関係学	2前	2			○			1						
専 門 教 育	専 門 科 目	中 学 校 課 程 の 「 教 科 及 び 教 科 の 指 導 法 に 関 する 科 目 」	家 庭	被服学	被服科学実験	3後		1				○						兼1	
				被服学	被服学概論Ⅰ	3前	1			○								兼1	
				被服学	被服学概論Ⅱ	3前	1			○								兼1	
				被服学	被服構成実習	2前	1					○						兼1	
専 門 教 育	専 門 科 目	中 学 校 課 程 の 「 教 科 及 び 教 科 の 指 導 法 に 関 する 科 目 」	家 庭	被服学	小計（4科目）	—	3	1	0	—			0	0	0	0	0	兼1	
				食物学	食物学概論Ⅰ	3後	1			○			1						
				食物学	食物学概論Ⅱ	3後	1			○			1						
				食物学	食品学・栄養学	2前		2		○			1						
専 門 教 育	専 門 科 目	中 学 校 課 程 の 「 教 科 及 び 教 科 の 指 導 法 に 関 する 科 目 」	家 庭	食物学	食物学実験	3前	1					○	1						
				食物学	調理学Ⅰ	2前		1		○			1						
				食物学	調理学Ⅱ	2前		1		○			1						
				食物学	調理実習Ⅰ	2後	1					○	1						
専 門 教 育	専 門 科 目	中 学 校 課 程 の 「 教 科 及 び 教 科 の 指 導 法 に 関 する 科 目 」	家 庭	食物学	調理実習Ⅱ	3前		1				○	1						
				食物学	小計（8科目）	—	4	5	0	—			1	0	0	0	0	0	
				住居学	住居学Ⅰa	2前	1			○				1					
				住居学	住居学Ⅰb	2前	1			○				1					
専 門 教 育	専 門 科 目	中 学 校 課 程 の 「 教 科 及 び 教 科 の 指 導 法 に 関 する 科 目 」	家 庭	住居学	住居学Ⅱa	1後		1		○				1					
				住居学	住居学Ⅱb	1後		1		○				1					
				住居学	住居学Ⅲa	3後		1		○				1					
				住居学	住居学Ⅲb	3後		1		○				1					
専 門 教 育	専 門 科 目	中 学 校 課 程 の 「 教 科 及 び 教 科 の 指 導 法 に 関 する 科 目 」	家 庭	住居学	住居計画学	3後	2			○				1					
				住居学	小計（7科目）	—	4	4	0	—			0	1	0	0	0	0	
				保育学	保育学Ⅰ	2前3前	2			○								兼1	
				保育学	保育学Ⅱa	2前3前		1		○								兼1	
専 門 教 育	専 門 科 目	中 学 校 課 程 の 「 教 科 及 び 教 科 の 指 導 法 に 関 する 科 目 」	家 庭	保育学	保育学Ⅱb	2前3前		1		○								兼1	
				保育学	保育学演習Ⅰ	3後	1				○							兼1	
				保育学	保育学演習Ⅱ	3後	1				○							兼1	
				保育学	小計（5科目）	—	4	2	0	—			0	0	0	0	0	兼2	
専 門 教 育	専 門 科 目	中 学 校 課 程 の 「 教 科 及 び 教 科 の 指 導 法 に 関 する 科 目 」	家 庭	家庭電気・機械	家庭電気・機械及び情報処理	2前3前		2			○							兼1	

専 門 教 育	専 門 科 目	中 学 校 課 程 の 「 教 科 及 び 教 科 の 指 導 法 に 関 する 科 目 」	家 庭	教科の指導法	家庭科教育概論	1後	2			○				1						兼1		
					中等家庭科教育Ⅰ	2前	2			○												
					中等家庭科教育Ⅱ	2後	2			○												
					中等家庭科教育Ⅲ	3前	2			○												
			小計（4科目）	—	8	0	0	—		3	0	0	0	0	0	兼1						
			卒業論文		6					3	1					兼1						
			小計（38科目）	—	34	16	0	—		3	1	0	0	0	0	兼3						
			英 語	教科に関する専門的事項	英語学	英語学Ⅰ	2前	2			○								兼1			
						英語学Ⅱ	2後	2			○							兼1				
						英語音声学	2前	2			○							兼1				
		英語学講読				3後		2		○							兼1					
		英語学演習		2後			2			○						兼1						
		英語学課題研究		3後			2			○						兼2						
		小計（6科目）		—	6	6	0	—		0	0	0	0	0	0	兼3						
		英語文学		英語文学	3前	2			○								兼1					
				英語文学演習Ⅰ	3後	2				○							兼1					
				英語文学演習Ⅱ	3前	2				○							兼1					
			英語文学課題研究	3後		2			○						兼2							
		小計（4科目）	—	6	2	0	—		0	0	0	0	0	0	兼2							
		英語コミュニケーション	英会話	2前	2				○							兼1						
			英作文Ⅰ	2前	2				○			1										
			英作文Ⅱ	2後	2				○							兼1						
			小計（3科目）	—	6	0	0	—		0	1	0	0	0	0	兼1						
		異文化理解	異文化理解	3後	2			○									兼1					
			教科の指導法	英語科教育Ⅰ	2前	2			○				1									
				英語科教育Ⅱ	2後	2			○									兼1				
				英語科教育Ⅲ	3前	2			○									兼1				
		英語科教育Ⅳ		3後	2			○				1										
		英語科教育課題研究		3後		2		○				1					兼1					
		小計（5科目）		—	8	2	0	—		1	0	0	0	0	0	兼1						
		卒業論文		6						1						兼3						
		小計（20科目）	—	32	10	0	—		1	1	0	0	0	0	兼4							
		小計（365科目）	—	284	315	0	—		15	16	0	0	0	0								
		中 学 校 課 程 の 「 教 育 の 基 礎 的 理 解 に 関 する 科 目 等 」	中 学 校 課 程 の 「 教 育 の 基 礎 的 理 解 に 関 する 科 目 等 」	教職入門	1後	2			○						2							
				教育学概論	1前	2			○				1	1								
				教育心理学	1前	2			○				1	1								
				教育思想	3前		2		○					1								
				教育史	3前・後		2		○												兼1	
				人権教育論	3後		2		○					1								
				教職保健	4後		2		○				1	1	1						兼1	
教育社会学	3後				2		○					1										
学校経営学	3前				2		○												兼1			
学校教育と生涯学習					2		○				1											
特別支援教育原理				2			○					2										
教育課程基礎論（特別活動及び総合的な学習の時間の指導を含む）	2後			2			○				1	2										
道德教育の理論と実践	3後			2			○					2										
教育方法・技術	1前2前			2			○												兼2			
教育評価	3後				2		○												兼1			
生徒指導の理論と方法	2前			2			○				1											
教育相談とキャリア教育				2			○													兼1		
教育実践研究指導法演習	2後3後4後				2			○			1											
教育臨床体験演習	3前				2			○			1											
教職実践基礎セミナー	1通				2			○			3	11							兼9			
事前・事後指導				1					○		5	7	1						兼5			
中等教育実習Ⅰ				2					○		5	7	1						兼5			
中等教育実習Ⅱ				2						○	5	7	1						兼5			
教職実践演習（中・高）	4通			2				○			5	4							兼5			
小計（24科目）	—	25	22	0	—			11	20	1	0	0	0	兼17								
課 程 の 教 科 に 関 する 科 目	特別支援教育の基礎理論に関する科目	特別支援教育概論	1前	2			○			1	1											
		特別支援教育史	1後		2		○			1												
		特別支援教育研究法	3前		2		○			2	3											
		小計（3科目）	—	2	4	0	—		2	3	0	0	0	0	0							

7	特別支援教育課程の教科に関する科目	特別支援教育領域に関する科目	知的障害児教育総論	1前	2			○				2							
			知的障害児心理学	1後	2			○				1							
			知的障害児教育課程論	3前		2		○				1							
			知的障害児指導法Ⅰ	1前・後		2			○		2	3							
			知的障害児指導法Ⅱ	2前・後		2			○		2	3							
			知的障害児指導法Ⅲ	3前		2			○			2							
			肢体不自由児教育総論	1後	2			○			1								
			肢体不自由児指導法	2前	2			○			1								
			病弱児教育総論	2前	2			○				1							
			病弱児指導法	3後	2			○				2							
			知的障害児発達評価法	3後		2		○				1							
		小計（11科目）	—	12	10	0	—			2	3	0	0	0	0				
		免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	聴覚障害児教育総論	2前		2			○			1							
			重複障害児教育総論	2後	2				○				1						
	学習障害児支援論		2後		2			○			1								
	発達障害児支援論		2前		2			○				1							
	障害児教材開発論		3前		2			○				1							
	障害児臨床基礎演習				2				○		1								
	障害児臨床応用演習Ⅰ		3前・後		2				○	○	1								
	障害児臨床応用演習Ⅱ		3前・後		2					○		1							
	障害児臨床応用演習Ⅲ		3前・後		2					○			1						
	障害児臨床応用演習Ⅳ	3前・後		2					○			1							
	障害児臨床応用演習Ⅴ	3前・後		2					○		1								
	小計（11科目）	—	2	20	0	—			2	3	0	0	0	0					
		卒業論文		6						2	3								
	小計（26科目）		22	34	0	—			2	3	0	0	0	0					
	専門科目	特別支援教育課程の「教育の基礎的理解に関する科目等」及び「教科及び教科の指導法に関する科目」	教育の基礎的理解に関する科目等	教職入門	1後	2			○				2						
				教育学概論	1前	2			○			1	1						
				教育心理学	1前	2			○			1	1						
				教育思想	3前		2		○				1						
教育史				3前・後		2		○										兼1	
人権教育論				3後		2		○				1							
教職保健				4後		2		○			1	1	1					兼1	
教育社会学				3後		2		○				1							
学校経営学				3前		2		○										兼1	
学校教育と生涯学習						2		○			1								
特別支援教育原理					2		○					2							
教育課程基礎論（特別活動及び総合的な学習の時間の指導を含む）				2後	2		○			1	2								
道徳教育の理論と実践				3後	2		○				2								
教育方法・技術				1前2前	2		○											兼2	
教育評価				3後		2		○										兼1	
生徒指導の理論と方法				2前	2		○			1									
教育相談とキャリア教育					2		○											兼1	
教育実践研究指導法演習				2後3後4後		2			○		1								
教育臨床体験演習				3前		2			○		1								
教職実践基礎セミナー				1通		2			○		3	12						兼10	
事前・事後指導					1					○	5	7	1					兼5	
初等教育実習Ⅰ					2					○	5	7	1					兼5	
初等教育実習Ⅱ					2					○	5	7	1					兼5	
中等教育実習Ⅰ					2					○	5	7	1					兼5	
中等教育実習Ⅱ					2					○	5	7	1					兼5	
障害児教育実習					3					○	5	7	1					兼5	
教職実践演習（幼・小）				4通	2					○	6	4						兼6	
教職実践演習（中・高）				4通	2					○	5	4						兼5	
小計（28科目）	—	34	22	0	—			16	18	1	0	0	0	0	兼21				
専門基礎科目	養護教諭課程の専門基礎科目	化学		1			○				1								
		小計（1科目）	—	1	0	0	—			0	1	0	0	0	0				

専門教育	専門科目	養護教諭課程の「養護に関する科目」及び「教科の指導法」	基礎医科学	解剖学	1前	2			○							兼1	
				生理学	1後	2			○						兼2		
				生理学実習	2前		2				○		1		兼2		
				微生物学・免疫学	2前	2			○					兼1			
				薬理学	2後	2			○					兼1			
				病理学	2前		2		○					兼1			
				生化学	1後		2		○					兼1			
				栄養学(食品学を含む。)	2前	2			○			1					
				小計(8科目)	—	10	6	0	—		1	0	1	0	0	兼4	
				臨床医科学・看護学	看護学概説Ⅰ	2後	2			○							兼1
看護学概説Ⅱ	3前	1				○				1							
看護学概説Ⅲ	3前		1			○				1							
看護学実習Ⅰ	3前	1						○		1			兼1				
看護学実習Ⅱ	3前	1						○		1			兼1				
内科学	2後		2			○							兼2				
皮膚科学	2後		1			○							兼6				
小児科学	3前		2			○							兼1				
外科学	2前	1				○							兼1				
整形外科	2後		1			○							兼4				
教育保健	眼科学	2後		1		○							兼1				
	歯科学	2前		1		○							兼1				
	耳鼻咽喉科学	2後		1		○							兼1				
	産婦人科学	2前		1		○							兼1				
	精神保健学	3前	2			○							兼1				
	臨床実習Ⅰ	3後	3					○		1			兼2				
	臨床実習Ⅱ	3後		1				○		1			兼2				
	小計(17科目)	—	11	12	0	—		0	0	1	0	0	兼19				
	教科の指導法	学校保健Ⅰ(小児保健を含む。)	2前	2			○							兼1			
		学校保健Ⅱ	2後		1		○							兼1			
学校保健Ⅲ		4前		1			○		1								
養護概論Ⅰ		1通	2			○			1								
養護概論Ⅱ		2通	2			○			1								
養護概論Ⅲ		3後		1			○		1								
衛生学		1前	2			○				1							
公衆衛生学Ⅰ		1後	2			○				1							
公衆衛生学Ⅱ		2後		1		○				1							
公衆衛生学実習		2通		2				○		1			兼1				
養護教諭課程の「教育の基礎的理解に関する科目等」	予防医学	3後	1			○							兼1				
	学校救急処置Ⅰ	3前	1			○					1						
	学校救急処置Ⅱ	3前	1			○					1						
	学校安全	3後	1			○					1			兼1			
	健康相談	3前	2			○			1								
	健康相談活動演習	3前		2			○		1								
	小計(16科目)	—	16	8	0	—		1	1	1	0	0	0				
	卒業論文	保健科教育法Ⅰ	2後	2				○		1							
		保健科教育法Ⅱ	3前	2				○		1							
		保健科教育法Ⅲ	3前		2			○		1				兼1			
保健科教育法Ⅳ		3後		2			○		1				兼1				
性に関する指導		4後		1			○						兼1				
小計(47科目)	—	47	31	0	—		2	2	1	0	0	兼3					

専門教育	専門科目	養護教諭課程の「教育の基礎的理解に関する科目等」	教育の基礎的理解に関する科目等	教育課程基礎論（特別活動及び総合的な学習の時間の指導を含む）	2後	2			○			1	2							
				道徳教育の理論と実践	3後	2			○				2							
				教育方法・技術	1前2前	2			○										兼2	
				教育評価	3後		2		○										兼1	
				生徒指導の理論と方法	2前	2			○											
				教育相談とキャリア教育		2			○				1						兼1	
				教育実践研究指導法演習	2後3後4後		2			○			1							
				教育臨床体験演習	3前		2				○		1							
				事前・事後指導			1					○	5	7	1				兼1	
				中等教育実習Ⅰ			2				○	5	7	1					兼1	
				中等教育実習Ⅱ			2				○	5	7	1					兼1	
				養護実習		5					○	5	7	1					兼1	
				教職実践演習（中・高）	4通	2				○		5	4						兼1	
				教職実践演習（養護教諭）	4通	2				○		1								
				小計（25科目）	—	27	25	0	—	—	10	16	1	0	0	0	0	0	兼13	
			教育学	教育方法学	教育方法学特殊講義Ⅰ	3前		2		○					1					
					教育方法学演習Ⅰ	3後		2			○			1						
					小計（2科目）	—	0	4	0	—	—	0	1	0	0	0	0	0	0	
				教育制度	教育制度	2前		2		○										兼1
					教育制度特殊講義Ⅱ	3後		2		○										兼1
					教育制度演習Ⅰ	3前		2			○									兼1
					小計（3科目）	—	0	6	0	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1
				教育社会学	学校社会学	2後		2		○					1					
					教育社会学特殊講義	3前		2		○					1					
					教育社会学演習	3後		2			○				1					
					小計（3科目）	—	0	6	0	—	—	0	1	0	0	0	0	0	0	
				社会教育	地域社会教育	2前		2		○				1						
					青少年社会教育	4前		2		○				1						
					社会教育特殊講義	3前		2		○				1						
					社会教育演習	3後		2			○			1						
					小計（4科目）	—	0	8	0	—	—	1	0	0	0	0	0	0	0	
				教育哲学	教育哲学Ⅰ	3前		2		○					1					
					教育哲学特殊講義	3後		2		○					1					
					教育哲学演習	2後		2			○				1					
					小計（3科目）	—	0	6	0	—	—	0	1	0	0	0	0	0	0	
				道徳教育	道徳教育原論	2前		2		○					1					
					道徳教育方法論Ⅰ	3前		2		○					1					
					道徳教育方法論Ⅱ	3後		2		○					1					
					道徳教育特殊講義	2前		2		○					1					
					小計（4科目）	—	0	8	0	—	—	0	1	0	0	0	0	0	0	
					卒業論文		6						1	2						兼1
				小計（20科目）	—	6	38	0	—	—	1	2	0	0	0	0	0	0		
			心理学	心理学基礎	心理学研究法	2前3前		2		○									兼1	
					心理統計法Ⅰ	2前3前		2		○									兼1	
					心理統計法Ⅱ	2後3後		2		○									兼1	
					心理学実験Ⅰ	2後	1												兼1	
					心理学実験Ⅱ	3前	1												兼1	
					心理学実験Ⅲ	3後	1												兼1	
					小計（6科目）	—	3	6	0	—	—	0	0	0	0	0	0	0	兼3	
				教育心理学	教育心理学特殊講義Ⅰ	3後4後		2		○										兼1
					教育心理学特殊講義Ⅱ	3前4前		2		○										兼1
					教育心理学演習Ⅰ	2前3前		2			○									兼1
			教育心理学演習Ⅱ	2前3前		2			○									兼1		
			小計（4科目）	—	0	8	0	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1		

専門教育	専門科目	養護教諭課程の「教育の基礎的理解に関する科目等」	発達心理学	発達心理学特殊講義Ⅱ	3後4後	2	○									兼1					
				発達心理学演習Ⅰ	2前3前	2		○							兼1						
				発達心理学演習Ⅱ	2前3前	2		○							兼1						
				小計（3科目）	—	0	6	0	—		0	0	0	0	0	兼1					
			臨床心理学	臨床心理学演習Ⅰ	2後3後	2		○								兼1					
				臨床心理学演習Ⅱ	2後3後	2		○								兼1					
				小計（2科目）	—	0	4	0	—		0	0	0	0	0	兼1					
				卒業論文		6										兼3					
			小計（16科目）		—	9	24	0	—		0	0	0	0	0	兼3					
			小計（36科目）		—	42	87	0	—		10	16	1	0	0	兼13					
小計（606科目）		—	553	568	0	—		22	27	1	0	0	兼45								
合計（1,119科目）					—	538	1,196	0	—		22	27	1	0	0	兼399					
学位又は称号			学士			学位又は学科の分野			教育学・保育学関係												
卒業要件及び履修方法																		授業期間等			
4年以上在学し、課程別（小学校課程、中学校課程、特別支援教育課程、養護教諭課程）履修単位表（熊本大学教育学部規則第19条別表第2）の単位（教養教育、専門教育、自由選択科目の合計125単位）を修得すること。												1学年の学期区分				2期					
												1学期の授業期間				15週					
												1時限の授業時間				90分					

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要				
（大学院教育学研究科 教職実践開発専攻）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	共通5領域	教育課程の編成・実施	「21世紀型能力（確かな学力）」を育成するカリキュラム・デザイン 教科等で身につけた「確かな学力」を基盤とする汎用可能な資質・能力、いわゆる「21世紀型能力」形成を目的の中心に据え、教科・領域を横断するカリキュラムをデザインできるような教育実践力・研究開発力（授業力）の基礎を培う。 「21世紀型能力」を基礎力、思考力・判断力・表現力、実践力の視点から捉え、教科・領域を横断するカリキュラム・デザインを実践事例をもとに探究・構想する。 「確かな学力」を基礎・基本、活用・応用、学ぶ意欲の学力3要素の視点から捉え、優れたマスタープランの開発・実践の事例をもとに、その特色と成功の鍵について分析・考察する。 小学校英語活動の中核として、「表現力・コミュニケーション力」を育成するための体験型カリキュラムの開発・実践の事例をもとに、その特色と成功の鍵について分析・考察する。	共同
		学校カリキュラム・授業の改善を図るためのマネジメント	学校においてカリキュラムおよび授業の計画・実施・評価・改善（PDCA）を行うための校内研修会や授業研究会のあり方、人材育成やチームとしての学校のあり方などに関するマネジメント・スキル（経営力）の基礎を培う。 カリキュラム・マネジメントの教育課程編成に関わる側面を中心に、教育課程全体と教科課程・教科外活動の内容を往還させる営みについて、実践事例をもとに探究する。 中学校でのICTを効果的に活用した授業および英語活動の実践事例をもとに、PDCAサイクルに沿った授業研究の方法を学ぶ。 教員以外の専門スタッフの活用や、教員一人一人が授業を工夫して効果的に実践できるようになるための人材育成、チームとしての学校のあり方を考える。 教育方法論の立場から、校内研修会や授業研究会のあり方、人的資源の活用やチームとしての学校のあり方を総括的に考察する。	共同
		実践的な指導方法	「21世紀型能力（確かな学力）」を育成する協働的な学びの授業デザイン 「確かな学力」「21世紀型能力」を育成するため協働的な学びの学習環境・授業をデザインできるような教育実践力・研究開発力（授業力）の基礎を培う。 子どもはどのように学ぶのか（アクティブ・ラーニング）、協働的な学びによる創造的な問題解決力の育成という視点から、学習環境・授業デザインのあり方について探究・構想する。 グループ・ダイナミクス（集団力学）の視点から、協働的な学びを基礎づける理論と実践を検討し、個と集団の相互作用から生じる学びの本質的価値を探究する。 「確かな学力」および「表現力・コミュニケーション力」を育成する授業の実践事例をもとに、協働的な学びの学習環境・授業デザインの特色と成功の鍵について分析・考察する。	共同
		小学校英語活動の授業デザイン	教室内での英会話（単語の発音を含む）、ICT・教育メディアの活用、協働的な学びなど、小学校英語活動を効果的に展開するための授業や学習指導法に関する教育実践力・研究開発力の基礎を培う。各単元は実践的な実演から始め、その後にディスカッションと小講義を行う。そして、実際に英語を教えるのに役立つ課題プロジェクトとして学習内容を仕上げる。 先生の指導のための英語と英語力を高める方法、新しい言葉の紹介方法、基礎的な発音を学ぶ。 教師の発話・質問やICT・教育メディアを用いたインプットを踏まえながら、リスニング活動の実施や開発を取り扱う。 スピーキング活動を勉強する。コミュニケーション能力育成のため、場面作りやゲーム、インタビュー形式、協働的な学びの活動等のスピーキング活動の実施と開発を学ぶ。	共同

共通科目	共通5領域	実践的な指導方法	授業のユニバーサルデザイン論	本科目では、小・中学校における各教科の授業をユニバーサルデザインの視点から改善し、全ての児童生徒が「わかる・できる」ことを目指した授業づくり演習を行う。受講者はそれぞれユニバーサルデザインの視点を活かした授業案の作成と模擬授業演習を行い、授業改善のポイントについてディスカッションを行うことで、教科横断的な授業力の向上を目指す。	共同
			ICT教育実践論	各種情報機器と電子教材を利用した授業設計を行い、実際に実行することができる。また、このような授業で利用する電子教材を新たに作成することができる。しかも、グループ活動によるICTによる協働学習に関する知見と経験を修得することができるということを目的とする。最近では情報端末などを利用したICT教育や教員によるプレゼンテーションの機会が多くなっている。そこで、本授業では、ICTに関する各種機器を効果的に活用した授業のあり方について学習するとともに、協働学習を体験しながら、児童生徒の情報活用能力を高めるための授業設計について学修する。	共同・集中
		生徒指導・教育相談	生徒指導実践論	生徒指導は、普段の教育活動を充実させ、問題を未然に防いだり最小限で食い止めたりすることを目指す、積極的な生徒指導と、起こった問題に対処する消極的な生徒指導がある。積極的な生徒指導がうまくいってこそ、消極的な生徒指導も成果を挙げる。従って、どのように普段の教育活動を充実させるかを考え、いじめ、不登校、学級崩壊、非行などにどう対処するかを考える。授業のテーマを実現させるために、積極的な生徒指導と消極的な生徒指導の概念を深く理解させる。その後、生徒指導上の個別の問題に対する深い知識・見識を持たせる。ディスカッションやロールプレイなども取り入れ、研究者教員と実務家教員が、チームで関わり、受講生の考え方や概念の変化をファシリテートする。 生徒指導の理論、学級経営、非行・不登校等について考察する。 学校におけるよい授業、学級崩壊、いじめ等について考察する。	共同
			教育相談実践論	教育相談と生徒指導は、密接に関連しているので、生徒指導と教育相談の知識を得て、両者の関連を理解し、両方が実践できる能力を高める。教育相談は積極的な生徒指導としてなされるものと、消極的な生徒指導としてなされるものがあり、原則は共通しているが、個別性もある。従って、積極的な生徒指導の一貫としての生徒理解のための教育相談と、消極的な生徒指導の一貫としての、問題に対処する教育相談を、ロールプレイや実践を交えて知識を得ることを目的とする。また、獲得した生徒指導に関する知識・見識を他者に伝えるための演習として、受講生が、テキストを使って生徒指導の授業をすることも考えている。 生徒指導と教育相談、セラピストの三条件、教育相談ロールプレイ体験について考究する。 教育相談事例研究〔不登校、いじめ、非行〕について考究する。	共同
		学級経営・学校経営	学級経営の実践と課題	学級を管理とコントロールの対象ではなく、絶え間なくコミュニケーションが生成する学びの共同体と位置づけ、そのダイナミックな成長を促していくための、マネジメントの視点を持った学級経営の実践的な方法と課題を検討していく。あわせて、「いじめ」をはじめとする集団的トラブルの発生メカニズムと前兆現象、未然防止の具体的な方法を考察する。集団力学とコミュニケーション心理学の理論的な知見をベースに、小グループで実践記録や対話事例を分析し討議する。院生のもを含む実践事例を対象としたケーススタディを実施し討議するメソッドを行うとともに、未然に終わったトラブル事例や修正介入などの実践的知見を共有する。 マネジメントの視点を持った学級経営の実践的な方法と課題、事例（いじめ）等を考究する。 学級集団への視点、学級経営の実際と可能性について考究する。	共同

共通科目	学級経営・学校経営	学校マネジメントと学校改善	学校が自律した組織として経営されていく諸条件や、教職員の協働性を構築していく具体的な方法を取り上げていくとともに、その背後にある経営理論や組織マネジメントの具体についても言及する。また、学校改善の要とも言われる校長・教頭のリーダーシップに関する理論と実際についても取り上げる。はじめに学校経営のあり方に影響を与えた教育改革の動向について簡単に触れる。その後、学校経営改革の柱として、①アカウンタビリティと学校評価について、②学校組織の特性と学校マネジメントの理論・手法、学校活性化への方策、③学校と家庭・地域の連携構築の理論と事例の考察について、④学校におけるリーダーシップの理論と管理職・中堅教員のリーダーシップの実践例の検討を行う。 なお、「南九州プラットフォーム」を通じ、本学と鹿児島大学及び独立行政法人教職員支援機構が実施する「ミドルリーダーのマネジメント能力育成プログラム」の修了者（入学前及び在学中）については、同プログラムの修了証書を提出の上、所定の内容・時間数の補講（同プログラムと本科目「学校マネジメントと学校改善」との差分）を受講（入学後及び在学中）した場合には、本科目を履修したものとして扱う。	共同
		学校教育と集団心理療法	学校教育の場における適切な人間関係を構築するための集団心理療法の基礎理論と実践について学ぶ。特に、児童・生徒に適用できる集団心理療法の実際、教員研修において児童・生徒の理解を深める集団心理療法の実際を体験的に学び、教職員としての学級経営力・教育実践力の向上を狙う。 学校教育と集団心理療法に関する基礎理論を講義形式で学ぶ。 集団心理療法の実践〔心理劇の実践、コミュニケーション・リーダーシップのスキルアップ、構成的グループエンカウンター〕を行う。 学校での実践事例の論文による事例検討を行う。	共同
		現代教員論	教育の現代的課題を理解するとともに、教育基本法・公教育の目標を追求する教員のあり方について、その本質および、さまざまな領域・側面での指導のあり方について理解することが授業の目的である。 現代社会の変化と課題に対応し、教育基本法・公教育の目標を追求する教員のあり方について、その本質から学ぶとともに、さまざまな領域・側面での指導のあり方について研究・考察する。 学習指導（教科指導、授業）と生活指導（生徒指導、特別教育活動）の関係とそれぞれの指導の特質、学校教育における道徳教育のあり方、学校内の協働と教師間の連携、学校と保護者との連携、福祉・医療など学外の諸機関との連携、教師の指導観・使命感・倫理感と暴力の問題など、学校教育の根本問題と最新問題とをリンクさせて論究する。	共同
	学校教育と教員の在り方	学校と地域社会（地域と共にある学校づくり）	学校が地域社会から期待されている役割は、教科指導と生徒指導であろう。これらの学びは、学校でしか出来ないことであり、人が成長するためには、大切ではある。しかし、地域社会の中でしか学べないこともあり、成長のためにはそれも重要である。本講義では、まず、社会教育、学校教育の役割を確認し、両者が連携して人材を育成していくためには、どのように考えて、何を実践してゆけばいいのかを考究し、最終的には、地域と共にある学校を作る力を養成する。授業のテーマを実現させるために、学校の役割、地域の役割、子どもを育てることの意味、等の情報提供をしてゆきながら、地域と学校で連携して子どもを育ててゆくことの知識・見識を深める。 学校の役割、地域の役割、子どもを育てることの意味を考究する。 コミュニティスクールについて考究する。	共同

共通科目	複合領域	インクルーシブ教育システム論	特別なニーズのある子どもやマイノリティ、貧困等により不利な状況にある全ての児童・生徒を包摂するインクルーシブ教育について、その理論的背景や社会的・制度的仕組みを理解し、具体的な実践へとつなげるための多角的な講義を行う。 (オムニバス方式／全15回) (13 古田弘子／3回) 第1回オリエンテーション-授業のねらい、評価方法、役割分担など- 第2回インクルーシブ教育理論の萌芽 第3回インクルーシブ教育理論の展開 (40 本吉大介／3回) 第4回インクルーシブ教育システムの制度 第5回様々な背景のある児童が在籍する小学校におけるインクルーシブ教育の展開 第6回様々な背景のある生徒が在籍する中学校におけるインクルーシブ教育の展開 (38 藤原志帆／3回) 第7回多様性を包括する音楽授業づくり (1) 授業内容の選定 第8回多様性を包括する音楽授業づくり (2) 授業計画の策定 第9回多様性を包括する音楽授業づくり (3) 授業計画の改善 (47 菊池哲平／3回) 第10回行動上の困難を示す児童生徒へのアプローチ (1) アセスメント 第11回行動上の困難を示す児童生徒へのアプローチ (2) 介入計画の策定 (14 干川 隆／3回) 第13回インクルージョンの手立てとしての個別の指導計画の策定 (1) 指導内容 第14回インクルージョンの手立てとしての個別の指導計画の策定 (2) 指導方法 第15回まとめ・総括	オムニバス方式
		ネット教育コミュニケーション論	「ネットいじめ」等のトラブル事案とメディア教育の実践事例について、事例報告集や報道事案等を講読検討しその構造を分析する。あわせて青少年心理、メディア心理学の知見を共有しネット時代の児童生徒理解の基盤を固める。児童生徒におけるメディア使用の実情と実態、ネット依存の現状等を、実践経験と教育実習体験等も踏まえて共有するとともにコミュニケーション特性にあわせた指導方法や教育プログラムの作成試行を視野に検討と討議を行う。	共同・集中
	教育実践研究科目	教育実践研究Ⅰ（幼・小）	「教育実践研究Ⅰ（課題発見・分析）」は、週1回型と集中型を合わせたカリキュラムである。〔現職教員学生〕と〔学部新卒学生〕の履修形態が異なる。〔学部新卒学生〕は、学校現場の経験が不足しているため、「授業実践開発」「生徒指導・生徒相談」「学級経営・学校経営」の3領域を4/3単位ずつ計4単位を履修する。〔現職教員学生〕は、各自の領域で4単位履修しつつ、メンターとしての指導を行う。大学院生一人ひとりの問題意識に即して「課題発見・分析」を行う。 ①「授業実践開発」領域では、週に一度の形式と集中型を交えて、合計〔学部新卒学生〕4/3単位、〔現職教員学生〕4単位を、現任校及び公立小・中学校、附属学校園で実施する。(a) 小学校での英語活動、(b) 小学校あるいは中学校での道徳教育、(c) 小学校あるいは中学校での協働的な学びと21世紀型能力形成等を、〔学部新卒学生〕全員の共通の観点として、比較的短いスパンでの授業観察と授業記録の分析・評価によって、課題の発見・分析を行うことで授業実践開発に関する基盤的能力を培う。 ②「生徒指導・教育相談」領域では、不登校児童・生徒に関わることで、不登校の対象理解と不登校児童・生徒に関わる方法技術の理解を深めることを目的として、大学院1年次9月～12月中に熊本市教育センター適応指導教室（フレンドリー）において、週1回型と集中的な教育実践研究を実施する。 ③「学級経営・学校経営」領域では、〔学部新卒学生〕は、配属された連携協力校のクラスの授業、生徒指導、学級経営などを観察（参与観察）することを通して、教育実践の基礎を理解するとともに各自の課題を研究者教員と実務家教員との協議の上、設定する。公立小・中学校、附属学校園で実施する。 〔現職教員学生〕は現任校でクラスの授業、生徒指導、学級経営などを観察（参与観察）することを通して各自の課題を深化し進展させる。	共同

教育実践研究Ⅰ（中・高）	「教育実践研究Ⅰ（課題発見・分析）」は、週1回型と集中型を合わせたカリキュラムである。現職教員学生と学部新卒学生の履修形態が異なる。 ○学部新卒学生は、学校現場の経験が不足しているので、3領域「授業実践開発」「生徒指導・生徒相談」「学級経営・学校経営」にそれぞれ対応する内容の「教育実践研究Ⅰ」を計160h履修し、4単位を履修する。 ○現職教員学生は、各自の領域で4単位履修しつつ、メンターとしての指導を行う。大学院生一人ひとりの問題意識に即して「課題発見・分析」を行う。 ①「授業実践開発」領域では、週に一度の形式と集中型を交え、合計で学部新卒学生4/3単位、現職教員学生4単位を実施する。(a) 中高での教科、(b) 中高での道徳教育、(c) 中高での協働的な学びと21世紀型能力形成等を、学部新卒学生全員の共通の観点として、比較的短い時間スパンでの授業観察と授業記録の分析・評価によって、課題の発見・分析を行うことで授業実践開発に関する基盤的能力を培う。 ②「生徒指導・教育相談」領域では、不登校児童・生徒と関わることで、不登校の対象理解と不登校児童・生徒に関わる方法技術の理解を深めることを目的として、大学院1年次中に熊本市教育センター適応指導教室（フレンドリー）において、週1回型と集中的な教育実践研究を実施する。 ③「学級経営・学校経営」領域では、〔学部新卒学生〕は、配属された連携協力校のクラスの授業、生徒指導、学級経営などを観察（参与観察）することを通して、教育実践の基礎を理解するとともに各自の課題を研究者教員と実務家教員との協議の上、設定する。公立中高・附属学校園で実施する。 〔現職教員学生〕は現任校でクラスの授業、生徒指導、学級経営などを観察（参与観察）することを通して各自の課題を深化し進展させる。	共同
教育実践研究Ⅰ（養護教諭）	「教育実践研究Ⅰ（課題発見・分析）」は、週1回型と集中型を合わせたカリキュラムである。現職教員学生と学部新卒学生の履修形態が異なる。 ○学部新卒学生は、学校現場の経験が不足しているので、3領域「授業実践開発」「生徒指導・生徒相談」「学級経営・学校経営」にそれぞれ対応する内容の「教育実践研究Ⅰ」を計160h履修し、4単位を履修する。 ○現職教員学生は、各自の領域で4単位履修しつつ、メンターとしての指導を行う。大学院生一人ひとりの問題意識に即して「課題発見・分析」を行う。 ①「授業実践開発」領域では、週に一度の形式と集中型を交え、合計で学部新卒学生4/3単位、現職教員学生4単位を実施する。(a) 小中高での教科（保健）、(b) 中高での道徳教育、(c) 小中高での保健室で学び、学部新卒学生全員の共通の観点として、課題の発見・分析を行うことで授業実践開発に関する基盤的能力を培う。 ②「生徒指導・教育相談」領域では、不登校児童・生徒と関わることで、不登校の対象理解と不登校児童・生徒に関わる方法技術の理解を深めることを目的として、大学院1年次中に熊本市教育センター適応指導教室（フレンドリー）において、週1回型と集中的な教育実践研究を実施する。 ③「学級経営・学校経営」領域では、〔学部新卒学生〕は、配属された連携協力校のクラスの授業、生徒指導、学級経営・保健室経営などを観察（参与観察）することを通して、教育実践の基礎を理解するとともに各自の課題を研究者教員と実務家教員との協議の上、設定する。 〔現職教員学生〕は現任校でクラスの授業、生徒指導、学級経営などを観察（参与観察）することを通して各自の課題を深化し進展させる。	共同

教育実践研究Ⅱ（幼・小）	「教育実践研究Ⅱ」は課題の分析と解決を行う。 ①「授業実践開発」領域では、〔学部新卒学生・現職教員学生〕ともに、(a) 小学校での英語活動、(b) 小学校あるいは中学校での道徳教育、(c) 小学校あるいは中学校での協働的な学びと21世紀型能力形成の中から、大学院生（学部新卒学生および現職教員学生）の興味・関心や学校現場のニーズに応じた課題に重点を置いて、授業観察・授業記録の分析・解決（授業改善・再計画）を行うことで、研究開発力の高度化を図る。 ②「生徒指導・教育相談」領域では、〔学部新卒学生・現職教員学生〕ともに、清水が丘学園やこどもLECセンターの毎日の活動の補助を行い、非行少年や様々なタイプの不登校児童・生徒と関わることで、非行少年や様々なタイプの不登校児童・生徒の対象理解と、関わる方法技術の理解を深める。 ③「学級経営・学校経営」領域では、教員チームへの報告と指導に基づいて課題を分析し、その解決に必要な調査を行う。〔学部新卒学生〕は、1年次後期の教育実践研究Ⅰを通じて設定した課題（特に学級経営の観点）について、同じ連携協力校において課題の解決に向けて、担当教員の指導の下に実践を展開する。 〔現職教員学生〕は、2年次前期に現任校の直面している課題を教職員と討議を通して洗い出し、その課題がいかなる原因で生じているのかを考察する。	共同
教育実践研究Ⅱ（中・高）	「教育実践研究Ⅱ」は課題の分析と解決を行う。 ①「授業実践開発」領域では、〔学部新卒学生・現職教員学生〕ともに、(a) 中高での教科、(b) 中高での道徳教育、(c) 中高での協働的な学びと21世紀型能力形成の中から、大学院生（学部新卒学生および現職教員学生）の興味・関心や学校現場のニーズに応じた課題に重点を置いて、授業観察・授業記録の分析・解決（授業改善・再計画）を行うことで、研究開発力の高度化を図る。 ②「生徒指導・教育相談」領域では、〔学部新卒学生・現職教員学生〕ともに、清水が丘学園やこどもLECセンターの毎日の活動の補助を行い、非行少年や様々なタイプの不登校児童・生徒と関わることで、非行少年や様々なタイプの不登校児童・生徒の対象理解と、関わる方法技術の理解を深める。 ③「学級経営・学校経営」領域では、教員チームへの報告と指導に基づいて課題を分析し、その解決に必要な調査を行う。〔学部新卒学生〕は、1年次後期の教育実践研究Ⅰを通じて設定した課題（特に学級経営の観点）について、同じ連携協力校において課題の解決に向けて、担当教員の指導の下に実践を展開する。 〔現職教員学生〕は、2年次前期に現任校の直面している課題を教職員と討議を通して洗い出し、その課題がいかなる原因で生じているのかを考察する。	共同
教育実践研究Ⅱ（養護教諭）	「教育実践研究Ⅱ」は課題の分析と解決を行う。 ①「授業実践開発」領域では、〔学部新卒学生・現職教員学生〕ともに、(a) 中高での教科、(b) 中高での道徳教育、(c) 中高での協働的な学びと21世紀型能力形成の中から、大学院生（学部新卒学生および現職教員学生）の興味・関心や学校現場のニーズに応じた課題に重点を置いて、授業観察・授業記録の分析・解決（授業改善・再計画）を行うことで、研究開発力の高度化を図る。 ②「生徒指導・教育相談」領域では、〔学部新卒学生・現職教員学生〕ともに、清水が丘学園やこどもLECセンターの毎日の活動の補助を行い、非行少年や様々なタイプの不登校児童・生徒と関わることで、非行少年や様々なタイプの不登校児童・生徒の対象理解と、関わる方法技術の理解を深める。 ③「学級経営・学校経営」領域では、教員チームへの報告と指導に基づいて課題を分析し、その解決に必要な調査を行う。〔学部新卒学生〕は、1年次後期の教育実践研究Ⅰを通じて設定した課題（特に学級経営の観点）について、同じ連携協力校において課題の解決に向けて、担当教員の指導の下に実践を展開する。 〔現職教員学生〕は、2年次前期に現任校の直面している課題を教職員と討議を通して洗い出し、その課題がいかなる原因で生じているのかを考察する。	共同

教育実践研究Ⅲ（幼・小）	「教育実践研究Ⅲ」では検証、評価を行う。 ①「授業実践開発」領域では、〔学部新卒学生・現職教員学生〕ともに、「教育実践研究Ⅱ」（４単位）の成果を基盤とし、引き続き、(a) 小学校での英語活動、(b) 小学校あるいは中学校での道徳教育、(c) 小学校あるいは中学校での協働的な学びと21世紀型能力形成の中から、大学院生（学部新卒学生および現職教員学生）の興味・関心や学校現場のニーズに応じた課題に重点を置いて、課題の解決に向けた授業実践と評価、ならびに理論と実践を統合した考察を行うことで、研究開発力を基盤とする教育実践力の習熟化を図る。 ②「生徒指導・教育相談」領域では、〔学部新卒学生・現職教員学生〕ともに、生徒指導が必要な児童・生徒理解を深め、生徒指導担当の教員としての実践力を高めることを目的として、連携協力校における生徒指導担当教員の補助、生徒指導をテーマとする研究指定校における研究活動の補助、京陵中学校における生徒指導業務の補助、ケース検討会の参加を行う。 ③「学級経営・学校経営」領域では、解決策を提案・試行し、研究者教員及び実務家教員とともにその有効性を検証して、評価することを目的として、〔学部新卒学生〕は、継続して連携協力校で、2年次後期に、授業や学級経営から少し視野を広げて、学校がいかなるダイナミクスのもとで経営されているのか基礎的理解を図る。〔現職教員学生〕は、現任校に導入した問題解決のプログラムを微調整しながら、更なる実践を展開する。院生は随時現任校に出向き、プログラムの進行状況を確認するとともに、指導教員とプログラムの効果の検証方法についての検討を行う。	共同
教育実践研究Ⅲ（中・高）	①「授業実践開発」領域では、〔学部新卒学生・現職教員学生〕ともに、「教育実践研究Ⅱ」（４単位）の成果を基盤とし、引き続き、(a) 中学あるいは高校での教科指導、(b) 中学校あるいは高校での道徳教育、(c) 中学校あるいは高校での協働的な学びと21世紀型能力形成の中から、大学院生（学部新卒学生および現職教員学生）の興味・関心や学校現場のニーズに応じた課題に重点を置いて、課題の解決に向けた授業実践と評価、ならびに理論と実践を統合した考察を行うことで、研究開発力を基盤とする教育実践力の習熟化を図る。 ②「生徒指導・教育相談」領域では、〔学部新卒学生・現職教員学生〕ともに、生徒指導が必要な児童・生徒理解を深め、生徒指導担当の教員としての実践力を高めることを目的として、連携協力校における生徒指導担当教員の補助、生徒指導をテーマとする研究指定校における研究活動の補助、清水が丘学園京陵中学分校における生徒指導業務の補助、ケース検討会の参加を行う。 ③「学級経営・学校経営」領域では、解決策を提案・試行し、研究者教員及び実務家教員とともにその有効性を検証して、評価することを目的として、〔学部新卒学生〕は、継続して連携協力校で、2年次後期に、授業や学級経営から少し視野を広げて、学校がいかなるダイナミクスのもとで経営されているのか基礎的理解を図る。〔現職教員学生〕は、現任校に導入した問題解決のプログラムを微調整しながら、更なる実践を展開する。院生は随時現任校に出向き、プログラムの進行状況を確認するとともに、指導教員とプログラムの効果の検証方法についての検討を行う。	共同
教育実践研究Ⅲ（養護教諭）	①「授業実践開発」領域では、〔学部新卒学生・現職教員学生〕ともに、「教育実践研究Ⅱ」（４単位）の成果を基盤とし、引き続き、(a) 小・中学校での教科（保健）、(b) 小学校あるいは中学校での道徳教育、(c) 小学校あるいは中学校の保健室での協働的な学びと21世紀型能力形成の中から、大学院生（学部新卒学生および現職教員学生）の興味・関心や学校現場のニーズに応じた課題に重点を置いて、課題の解決に向けた授業実践と評価、ならびに理論と実践を統合した考察を行うことで、研究開発力を基盤とする教育実践力の習熟化を図る。 ②「生徒指導・教育相談」領域では、〔学部新卒学生・現職教員学生〕ともに、生徒指導が必要な児童・生徒理解を深め、生徒指導担当の教員としての実践力を高めることを目的として、連携協力校における生徒指導担当教員の補助、生徒指導をテーマとする研究指定校における研究活動の補助、清水が丘学園高平台小学校分教室と京陵中学分校の保健室における生徒指導業務の補助、ケース検討会の参加を行う。 ③「学級経営・学校経営」領域では、解決策を提案・試行し、研究者教員及び実務家教員とともにその有効性を検証して、評価することを目的として、〔学部新卒学生〕は、継続して連携協力校で、2年次後期に、授業や保健室経営、学級経営から少し視野を広げて、学校がいかなるダイナミクスのもとで経営されているのか基礎的理解を図る。〔現職教員学生〕は、現任校に導入した問題解決のプログラムを微調整しながら、更なる実践を展開する。院生は随時現任校に出向き、プログラムの進行状況を確認するとともに、指導教員とプログラムの効果の検証方法についての検討を行う。	共同

専門科目	全コース共通	共通必修領域	教育研究方法論（幼・小・中・高）	教育研究、教育実践研究、教育臨床研究に必要な方法論の基礎について理解し、この方法論を用いて教育現実を考察し、教育実践を構想する力量を養い、理論と実践を統一して理解できる力量を形成することが授業の目的である。1. 教職大学院に在学する学生全員に、教育研究に必要な方法論を全教員が各領域において必須な教育研究方法論を講義し演習するものであり、必修として位置づける。2. 教育実践研究の方法論について、専門の3領域（授業実践開発、生徒指導・教育相談、学級経営・学校経営）から、それぞれの研究方法論について考察する。実践的省察の方法、臨床研究の方法、実践記録の分析方法、学校と社会の連携方法など、それぞれの教員の専門領域に応じて、研究者教員7名が講義を行い、研究者教員1名と実務家教員7名は共同で参加する。 「生徒指導・教育相談」領域の教育研究方法論について考究する。 「授業実践開発」領域の教育研究方法論について考究する。 「学級経営・学校経営」領域の教育研究方法論について考究する。	共同
			教育研究方法論（養護教諭）	教職大学院に在学する学生全員に、教育研究に必要な方法論を全教員が各領域において必須な教育研究方法論を講義し演習するものであり、必修として位置づける。 2. 教育実践研究の方法論について、専門領域と養護教諭に必要な研究の視点から、それぞれの研究方法論について考察する。実践的省察の方法、臨床研究の方法、実践記録の分析方法、学校と社会の連携方法など、それぞれの教員の専門領域に応じて、研究者教員が講義を担当し、実務家教員は副担当共同として参加する。 3. 教育研究の方法論に通底する「理論と実践の往還」という原則について、実践事例や臨床場面を紹介し、その理論的意味づけを行なう。	共同
			実践課題研究（幼・小・中・高）	大学院の様々な学び（「授業実践開発」「生徒指導・教育相談」「学級経営・学校経営」）の体験を整理し、自らの学びを全大学院生と全教員の共同作業で明瞭化した手法を受け継ぎ、より明瞭化、精緻化し、今後の自らの教育実践に生かすことができるように言語化し、記録として残しておくことを目的とする。大学院の様々な学びの体験によって高められた実践力は、各自が記録として残しておくことで、今後のさらなる教育実践を高めることにつながる。そのためには、3領域の授業、演習、実習などで学んだことを統合して記録しておく必要がある。最終的には、記録として残しておく事を念頭におき、まず、大学院生が自らの学びを発表し、他の大学院生、研究者教員、実務家教員が共同で、一人一人の学びを統合し報告書にまとめていく。各大学院生は前期と後期に2度中間発表を行い、最終的に2月頃まとめの発表をする。4単位（30回） 「授業実践開発」領域について実践課題研究を行う。 「生徒指導・教育相談」領域について実践課題研究を行う。 「学級経営・学校経営」領域について実践課題研究を行う。	共同

専 門 科 目	学 校 教 育 実 践 高 度 化 コー ス ・ 教 科 教 育 実 践 高 度 化 コー ス 共 通	重 点 領 域 A	授 業 実 践 開 発	実践課題研究（養護教諭）	大学院の様々な学びの体験によって高められた実践力は、各自が記録として残しておく事で、今後のさらなる教育実践を高めることにつながる。そのためには、全ての講義、演習、実習等で学んだことを統合して、研究報告書として残しておくことが有効である。報告書作成のために、ゼミでの指導と発表、中間発表等を経て、最終的には2月の報告会で発表できるように、指導を受ける。前期は、第3回から第9回の指導で中間報告会に向けて徐々に進めてゆき、中間報告会でそれまでの指導の成果を報告する。後期は、中間報告会の成果を受け、第17回から第24回までの指導で、最終報告会に向けて徐々に指導を進めてゆく。中間報告会、最終報告会では、他者の報告を聞き、それについて、クリティカルに考えることも、学びに寄与する部分が大きいのので、積極的に議論に参加する。	共同
				学習科学・授業研究方法と授業開発・実践研究	国および県市教育委員会の要請に応じ、児童・生徒の「学力充実」および教員の「新たな学びに対応する授業力向上」に資するため、学習科学の視点から授業を研究する方法を探究し、子どもの学びの基礎力の修得過程に基づいて授業をデザインできるような理論と実践を統合した研究開発力・教育実践力（授業力）の高度化を図る。 授業実践開発に重点を置いた専門科目の本授業の目的は、学校現場での『教育実践研究』に活用・応用できる資質・能力を、理論と実践の往還を通して修得することである。 教材研究・教材開発や学習指導案の構想力、授業を組織し対話を導く展開力、教師の発問に対する子どもの発言への対応力など、理論と実践の統合を図る授業研究方法を修得する。 子どもはいかに学ぶのか（学習科学）、主として認知心理学を理論的な支柱・足場にして、子どもの学びの可能性からみた授業デザインを探究・構想する。 グループ・ダイナミックス（集団力学）を理論的な支柱・足場にして、集団の中での学びの可能性からみた授業デザインを探究・構想する。 小・中学校での優れた授業実践の事例をもとに、子どもが基礎力（言語スキル・数量スキル・情報スキル）を修得していく過程に即した授業デザインの視点と方法を検討・考察する。	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅰ（国語）	教科の特質に応じた見方・考え方を働かせ、資質・能力を育てる授業作りのよりよいあり方について理論的実践的に探究する。これらの授業を開発・実施・改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 教科の授業作りの現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 教科の見方・考え方を働かせ、資質・能力を育てる授業作りに取り組む段階（第4回～第10回） (3) 教科の見方・考え方を働かせ、資質・能力を育てる授業作りを反省する段階（第11回～第15回）	
				教科等の授業開発・実践研究Ⅰ（社会）	教科の特質に応じた見方・考え方を働かせ、資質・能力を育てる授業作りのよりよいあり方について理論的実践的に探究する。これらの授業を開発・実施・改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 教科の授業作りの現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 教科の見方・考え方を働かせ、資質・能力を育てる授業作りに取り組む段階（第4回～第10回） (3) 教科の見方・考え方を働かせ、資質・能力を育てる授業作りを反省する段階（第11回～第15回）	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅰ（数学）	教科の特質に応じた見方・考え方を働かせ、資質・能力を育てる授業作りのよりよいあり方について理論的実践的に探究する。これらの授業を開発・実施・改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 教科の授業作りの現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 教科の見方・考え方を働かせ、資質・能力を育てる授業作りに取り組む段階（Ⅰ準備:第4～6回／Ⅱ構想:第7～10回） (3) 教科の見方・考え方を働かせ、資質・能力を育てる授業作りを反省する段階（第11回～第15回）	
				教科等の授業開発・実践研究Ⅰ（理科）	教科の特質に応じた見方・考え方を働かせ、資質・能力を育てる授業作りのよりよいあり方について理論的実践的に探究する。これらの授業を開発・実施・改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 教科の授業作りの現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 教科の見方・考え方を働かせ、資質・能力を育てる授業作りに取り組む段階（Ⅰ準備:第4～6回／Ⅱ構想:第7～10回） (3) 教科の見方・考え方を働かせ、資質・能力を育てる授業作りを反省する段階（第11回～第15回）	共同

専 門 科 目	学 校 教 育 実 践 高 度 化 コ ー ス ・ 教 科 教 育 実 践 高 度 化 コ ー ス 共 通	重 点 領 域 A	授 業 実 践 開 発	教科等の授業開発・実践研究Ⅰ（音楽）	教科の特質に応じた見方・考え方を働かせ、資質・能力を育てる授業作りのよりよいあり方について理論的実践的に探究する。これらの授業を開発・実施・改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 教科の授業作りの現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 教科の見方・考え方を働かせ、資質・能力を育てる授業作りに取り組む段階（第4回～第10回） (3) 教科の見方・考え方を働かせ、資質・能力を育てる授業作りを反省する段階（第11回～第15回）	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅰ（美術）	教科の特質に応じた見方・考え方を働かせ、資質・能力を育てる授業作りのよりよいあり方について理論的実践的に探究する。これらの授業を開発・実施・改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 教科の授業作りの現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 教科の見方・考え方を働かせ、資質・能力を育てる授業作りに取り組む段階（第4回～第10回） (3) 教科の見方・考え方を働かせ、資質・能力を育てる授業作りを反省する段階（第11回～第15回）	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅰ（保健体育）	教科の特質に応じた見方・考え方を働かせ、資質・能力を育てる授業作りのよりよいあり方について理論的実践的に探究する。これらの授業を開発・実施・改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 教科の授業作りの現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 教科の見方・考え方を働かせ、資質・能力を育てる授業作りに取り組む段階（第4回～第10回） (3) 教科の見方・考え方を働かせ、資質・能力を育てる授業作りを反省する段階（第11回～第15回）	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅰ（技術）	教科の特質に応じた見方・考え方を働かせ、資質・能力を育てる授業作りのよりよいあり方について理論的実践的に探究する。これらの授業を開発・実施・改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 教科の授業作りの現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 教科の見方・考え方を働かせ、資質・能力を育てる授業作りに取り組む段階（第4回～第10回） (3) 教科の見方・考え方を働かせ、資質・能力を育てる授業作りを反省する段階（第11回～第15回）	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅰ（家庭）	教科の特質に応じた見方・考え方を働かせ、資質・能力を育てる授業作りのよりよいあり方について理論的実践的に探究する。これらの授業を開発・実施・改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 教科の授業作りの現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 教科の見方・考え方を働かせ、資質・能力を育てる授業作りに取り組む段階（第4回～第10回） (3) 教科の見方・考え方を働かせ、資質・能力を育てる授業作りを反省する段階（第11回～第15回）	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅰ（英語）	教科の特質に応じた見方・考え方を働かせ、資質・能力を育てる授業作りのよりよいあり方について理論的実践的に探究する。これらの授業を開発・実施・改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 教科の授業作りの現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 教科の見方・考え方を働かせ、資質・能力を育てる授業作りに取り組む段階（第4回～第10回） (3) 教科の見方・考え方を働かせ、資質・能力を育てる授業作りを反省する段階（第11回～第15回）	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅱ（国語）	「教科等の授業開発・実践研究Ⅰ」の学習成果を基盤にして、教科の主教材（教科書等）の特質を理解するとともに、それを活用した授業作りの手法を修得する。これらの授業を開発・実施・改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 主教材（教科書等）を活用した授業作りの現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 主教材（教科書等）を活用した授業作りに取り組む段階（第4回～第10回） (3) 主教材（教科書等）を活用した授業作りを反省する段階（第11回～第15回）	共同

専 門 科 目	学 校 教 育 実 践 高 度 化 コ ー ス ・ 教 科 教 育 実 践 高 度 化 コ ー ス 共 通	重 点 領 域 A	授 業 実 践 開 発	教科等の授業開発・実践研究Ⅱ（社会）	「教科等の授業開発・実践研究Ⅰ」の学習成果を基盤にして、教科の主教材（教科書等）の特質を理解するとともに、それを活用した授業作りの手法を修得する。これらの授業を開発・実施・改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 主教材（教科書等）を活用した授業作りの現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 主教材（教科書等）を活用した授業作りに取り組む段階（第4回～第10回） (3) 主教材（教科書等）を活用した授業作りを反省する段階（第11回～第15回）	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅱ（数学）	「教科等の授業開発・実践研究Ⅰ」の学習成果を基盤にして、教科の主教材（教科書等）の特質を理解するとともに、それを活用した授業作りの手法を修得する。これらの授業を開発・実施・改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 主教材（教科書等）を活用した授業作りの現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 主教材（教科書等）を活用した授業作りに取り組む段階（Ⅰ準備：第4～6回／Ⅱ構想：第7～10回） (3) 主教材（教科書等）を活用した授業作りを反省する段階（第11回～第15回）	
				教科等の授業開発・実践研究Ⅱ（理科）	「教科等の授業開発・実践研究Ⅰ」の学習成果を基盤にして、教科の主教材（教科書等）の特質を理解するとともに、それを活用した授業作りの手法を修得する。これらの授業を開発・実施・改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 主教材（教科書等）を活用した授業作りの現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 主教材（教科書等）を活用した授業作りに取り組む段階（Ⅰ準備：第4～6回／Ⅱ構想：第7～10回） (3) 主教材（教科書等）を活用した授業作りを反省する段階（第11回～第15回）	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅱ（音楽）	「教科等の授業開発・実践研究Ⅰ」の学習成果を基盤にして、教科の主教材（教科書等）の特質を理解するとともに、それを活用した授業作りの手法を修得する。これらの授業を開発・実施・改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 主教材（教科書等）を活用した授業作りの現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 主教材（教科書等）を活用した授業作りに取り組む段階（第4回～第10回） (3) 主教材（教科書等）を活用した授業作りを反省する段階（第11回～第15回）	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅱ（美術）	「教科等の授業開発・実践研究Ⅰ」の学習成果を基盤にして、教科の主教材（教科書等）の特質を理解するとともに、それを活用した授業作りの手法を修得する。これらの授業を開発・実施・改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 主教材（教科書等）を活用した授業作りの現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 主教材（教科書等）を活用した授業作りに取り組む段階（第4回～第10回） (3) 主教材（教科書等）を活用した授業作りを反省する段階（第11回～第15回）	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅱ（保健体育）	「教科等の授業開発・実践研究Ⅰ」の学習成果を基盤にして、教科の主教材（教科書等）の特質を理解するとともに、それを活用した授業作りの手法を修得する。これらの授業を開発・実施・改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 主教材（教科書等）を活用した授業作りの現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 主教材（教科書等）を活用した授業作りに取り組む段階（第4回～第10回） (3) 主教材（教科書等）を活用した授業作りを反省する段階（第11回～第15回）	共同

専 門 科 目	学 校 教 育 実 践 高 度 化 コ ー ス ・ 教 科 教 育 実 践 高 度 化 コ ー ス 共 通	重 点 領 域 A	授 業 実 践 開 発	教科等の授業開発・実践研究Ⅱ（技術）	「教科等の授業開発・実践研究Ⅰ」の学習成果を基盤にして、教科の主教材（教科書等）の特質を理解するとともに、それを活用した授業作りの手法を修得する。これらの授業を開発・実施・改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 主教材（教科書等）を活用した授業作りの現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 主教材（教科書等）を活用した授業作りに取り組む段階（第4回～第10回） (3) 主教材（教科書等）を活用した授業作りを反省する段階（第11回～第15回）	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅱ（家庭）	「教科等の授業開発・実践研究Ⅰ」の学習成果を基盤にして、教科の主教材（教科書等）の特質を理解するとともに、それを活用した授業作りの手法を修得する。これらの授業を開発・実施・改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 主教材（教科書等）を活用した授業作りの現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 主教材（教科書等）を活用した授業作りに取り組む段階（第4回～第10回） (3) 主教材（教科書等）を活用した授業作りを反省する段階（第11回～第15回）	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅱ（英語）	「教科等の授業開発・実践研究Ⅰ」の学習成果を基盤にして、教科の主教材（教科書等）の特質を理解するとともに、それを活用した授業作りの手法を修得する。これらの授業を開発・実施・改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 主教材（教科書等）を活用した授業作りの現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 主教材（教科書等）を活用した授業作りに取り組む段階（第4回～第10回） (3) 主教材（教科書等）を活用した授業作りを反省する段階（第11回～第15回）	共同
				教科と教科外活動の関連的な学習の授業開発・実践研究Ⅰ	教科と教科外活動の特質に応じた見方・考え方を働かせ、資質・能力を育てる授業作りのよりよいあり方について理論的実践的に探究する。これらの授業を開発・実施・改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 小・中・高等学校での教科と教科外活動の関連的な学習の授業づくりの現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 小・中・高等学校での教科と教科外活動の関連的な学習で、汎用的な資質・能力や豊かな人間性を育てる授業づくりに取り組む段階（第4回～第10回） (3) 小・中・高等学校での教科と教科外活動の関連的な学習で、汎用的な資質・能力や豊かな人間性を育てる授業づくりを反省する段階（第11回～第15回）	共同
				教科と教科外活動の関連的な学習の授業開発・実践研究Ⅱ	「教科と教科外活動の関連的な学習の授業開発・実践研究Ⅰ」の学習成果を基盤にして、教科の主教材（教科書等）の特質を理解するとともに、それを活用した授業作りの手法を修得する。これらの授業を開発・実施・改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 小・中・高等学校での教科と教科外活動の関連的な学習の主教材・体験活動等を活用した授業づくり現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 小・中・高等学校での教科と教科外活動の関連的な学習の主教材・体験活動等を活用した授業づくりに取り組む段階（第4回～第10回） (3) 小・中・高等学校での教科と教科外活動の関連的な学習の主教材・体験活動等を活用した授業づくりを反省する段階（第11回～第15回）	共同
				教科と教科外活動の関連的な学習の授業開発・実践研究Ⅲ	「教科と教科外活動の関連的な学習の授業開発・実践研究Ⅰ」「教科と教科外活動の関連的な学習の授業開発・実践研究Ⅱ」の学習成果を基盤にして、学校現場で広く行われている教科の授業開発研究のあり方について理解を深めるとともに、その手法を修得する。教科と教科外活動に関する実践的な授業開発研究の手法を身に付けるために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 小・中・高等学校での教科と教科外活動の関連的な学習に関わる熊本県内外の授業づくりの現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 小・中・高等学校での教科と教科外活動の関連的な学習に関わる先行実践の課題を克服する授業づくりに取り組む段階（第4回～第10回） (3) 小・中・高等学校での教科と教科外活動の関連的な学習に関わる先行実践の課題を克服する授業づくりを反省する段階（第11回～第15回）	共同

専 門 科 目	学 校 教 育 実 践 高 度 化 コ ー ス ・ 教 科 教 育 実 践 高 度 化 コ ー ス 共 通	重 点 領 域 A	授業実践開発	教科と教科外活動の関連的な学習の授業開発・実践研究Ⅳ	「教科と教科外活動の関連的な学習の授業開発・実践研究Ⅰ」「教科と教科外活動の関連的な学習の授業開発・実践研究Ⅱ」「教科と教科外活動の関連的な学習の授業開発・実践研究Ⅲ」の学習成果を基盤にして、学校現場で広く行われている教科の学習評価（発言・記述分析等）のあり方について理解を深めるとともに、その方法を修得する。教科の学習評価を計画・実施し、その結果の分析を踏まえて授業を改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 学習評価の諸理論に基づいて、小・中・高等学校での教科と教科外活動の関連的な学習における学習評価の現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 小・中・高等学校での教科と教科外活動の関連的な学習における学習評価を計画・実施し結果を分析する段階（第4回～第7回） (3) 小・中・高等学校での教科と教科外活動の関連的な学習における評価結果に基づいて授業を改善する段階（第8回～第15回）	共同
			授業実践開発	「豊かな心」を育む授業実践の開発	「豊かな心」を育む授業実践の開発を行う。 「豊かな心」と授業実践というテーマで、「知る、わかる、考える」（知育の側面）と「ものの見方・考え方」（徳育の側面）とを統一的に追求する授業実践について考察する。生活実感と科学的・芸術的概念の交流、共同的・対話的な授業展開の構想などを通して、豊かな心の育成や豊かな感性の涵養や豊かなコミュニケーション能力の形成に資するような授業実践のあり方について考察する。 授業と道德の関係、授業における知育と徳育の統一、理性と感性の統一について、「豊かな心」を育む授業づくりの方法や教材開発の方法や協働的な学びのあり方について、豊かな心を育む授業実践の実際（さまざまな教科に応じて）について考察する。	共同
		重 点 領 域 B	生徒指導・教育相談	生徒指導問題解決方法Ⅰ	生徒指導上の問題を解決するためには、ケース会議を開く事も必要となる。ここでは、まず、ケース会議の開催方法とケース会議によって生徒指導上の問題を解決してゆく手順を学び、実践的演習を通じて、開催方法と手順の基礎を身につける。次に、拠点校や連携校に向き、そこで、生徒指導上の問題を提出してもらい、拠点校、連携校の教諭、院生、大学院の教員でケース会議を開催し、提出された生徒指導上の問題を解決するためのケース会議を経験することで、知識を深めスキルを高める。授業のテーマを実現させるために、ケース会議の開催についての知識を深める。 ケース会議における目標を設定し、その目標を達成するために同会議を主催すればいいかを学ぶ。後半の回では、実際の事例を提出して、ケース会議の主催、運営を大学院生が担当する。 生徒指導、ケース会議とケース会議体験、PCAGIP体験について考究し、全体のまとめを行う。 生徒指導、ケース会議とケース会議体験について考究する。	共同
				道德教育と生徒指導	道德教育と生徒指導の在り方について検討・考察する。 道德教育は、ある教科でとりたてて指導する（教科としての道德）場合と、全教育課程を通して生活の中で指導する場合（生徒指導・生活指導の対象としての道德）とがある。公共・規範・人権などの道德のテーマを典型的に内在させた教材の開発や、葛藤場面・オープンエंडの工夫など「道德の授業づくり」について考察する。また、人間関係の指導、問題行動の克服などを通して「生徒指導と道德教育」の関係のあり方を考察する。 道德教育の原理、人権教育と道德教育、教科指導における道德、生活指導における道德、特別な教科としての道德、道德教育の教材、教育とモラルの関係、人間関係の指導について、さらには、道德教育と生徒指導に関する具体的な問題の解決方法について考察する。	共同
				健康教育の実践研究Ⅰ	健康教育の特質に応じた見方・考え方を働かせ、資質・能力を育てる授業作りのよりよいあり方について理論的実践的に探究する。これらの授業を開発・実施・改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 教育活動全体を通して行う集団を対象とした保健指導の現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 教育活動全体を通して行う集団を対象とした保健指導作りに取り組む段階（第4回～第10回） (3) 教育活動全体を通して行う集団を対象とした保健指導を実施・検討・改善する段階（第11回～第15回）	共同

専 門 科 目	学 校 教 育 実 践 高 度 化 コ ー ス ・ 教 科 教 育 実 践 高 度 化 コ ー ス 共 通	重 点 領 域 B	生 徒 指 導 ・ 教 育 相 談	健康教育の実践研究Ⅱ	「健康教育の実践研究Ⅰ」の学習成果を基盤にして、教科の主教材（教科書等）の特質を理解するとともに、それを活用した授業作りの手法を修得する。これらの授業を開発・実施・改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 教育活動全体を通して学級担任等が行う個別の保健指導の現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 教育活動全体を通して学級担任等が行う個別の保健指導作りに取り組む段階（第4回～第10回） (3) 教育活動全体を通して学級担任等が行う個別の保健指導を実施・検討・改善する段階（第11回～第15回）	共同
				学校保健の理論と実践	授業の到達目標及びテーマ テーマ：本授業のテーマは、チーム学校により学校保健活動を推進していくために、教員として児童生徒等の健康管理や健康教育を行う上で必要な知識や支援の方法について修得することである。 到達目標：児童生徒等の健康管理・健康教育を行う上において必要な知識や支援の方法について理解することができる。 学部新卒学生の到達目標：上記の到達目標を踏まえ、児童生徒の心身の健康管理や健康教育を行う上において必要な知識や支援の方法について修得することができる。 現職教員学生の到達目標：上記の到達目標を踏まえ、これまで自分が取り組んできた児童生徒への心身の健康管理や健康教育について再考し、よりよい対応を探究することができる。 授業の概要：上記の到達目標を達成するために、本授業を次の3つの段階で計画する。 (1) チーム学校で推進する学校保健活動（第1回～第5回） (2) 健康課題の捉え方、健康管理・健康教育の進め方（第6回～第9回） (3) 児童生徒の現代的健康課題に関する事項（第10回～第14回） (4) まとめ・総括（第15回）	共同
			学 校 経 営	学校と家庭・地域の連携構築	親の教育権と教師の教育権の関係分析を通じた親の学校参加権の重要性、現在多くの学校で利用されているコミュニケーション・チャネルの実態の把握、連携が進んでいる学校の事例分析を通じた連携構築の条件の解明、連携構築の重要な手段であるコミュニティ・スクールの実態と課題について考察することと、近年増加している無理難題要求についても取り上げながら、学校-保護者間の関係について考察を加える。これらを通じて、実際の学校においていかなる連携プログラムを構想できるのかを考え、学校改善に結びつけることを目的とする。 はじめに学校経営のあり方に影響を与えた教育改革の動向について、次に学校経営改革の柱として、アカウンタビリティと学校評価について、さらに学校組織の特性と学校マネジメントの理論・手法、学校活性化への方策について講義する。 学校と家庭・地域の連携構築の理論と事例の考察を行う。 学校におけるリーダーシップの理論と管理職・中堅教員のリーダーシップの実践例の検討を行う。	共同
				学校の危機管理の理論と実践	学校は子どもが集団として学習・生活する場であるために、そこには何らかのリスクが伴う。しかしながら、現実としては事件や事故が起こってから事後対応に追われている状況がある。本授業では、学校教育のいかなる場面にリスクが潜んでいるのかを分析的に検討し、学校が策定すべき危機管理の対応マニュアルの作成を試みる。その際には、判例集、統計資料、行政文書などを活用する。また、実際に生じた事件・事故に関する具体例を取り上げながら、事前予防と事後対応の問題点などについて実践的に検討し、汎用的対応力を養う。 学校における危機管理の理論と事例検討を行う。 様々な具体的状況を想定した危機管理マニュアル等の作成を行う。 ロールプレイ等を通じた学校の危機管理の模擬体験を行う。	共同

専門科目	学校教育実践高度化コース・共通	重点領域 B	学校経営	教育コミュニケーションデザイン特論	学級を、管理とコントロールの対象ではなく、絶え間なくコミュニケーションが生成する学びの共同体と位置づけ、そのダイナミックな成長を日々促していくための実践的な方法と課題を検討する。集団力学とコミュニケーション心理学の理論的な知見をベースに、児童生徒との関係や教師間・対保護者コミュニケーションまでを念頭に置いた検討を行う。あわせて実践記録や対話事例を分析し多角的に討議する。大学院学修中に蓄積した院生自身のものを含む対話事例や実践試行例を対象としたケーススタディを実施し、さらに理論的フィードバックを加えながら討議を深めていく。トラブル事例や危険兆候への介入などについても、それぞれの実践的知見を検討する。あわせて、各々の知見を同僚や後輩と共有するための発信方法を検討する。 コミュニケーションの観点から考察を行う。 集団心理療法の観点から考察を行う。 集団力学の観点から考察を行う。	共同
	学校教育実践高度化コース	重点領域 B	生徒指導・教育相談	生徒指導問題解決方法Ⅱ	生徒指導問題解決方法について検討・考察する。 今日の教育現場で日常的に問題になっている事象について、長いスパン・サイクルで指導計画を立て、実践分析を行い、指導方針の修正を行う。1学期からケーススタディや実践分析などの臨床的研究を随時企画して、実践の省察力と実践の構想力を高めていく。この過程において、いじめ、登校、学級崩壊、虐待を受けた子ども、発達障害の子ども、トラブルをくりかえす子、パニックになる子、学校過剰適応の子ども、など生徒指導・生活指導・学級指導上の今日的問題に対応する観点と方法を学ぶ。 生徒指導・生活指導の指導原則、子どもの発達課題への対応方法について考察しつつ、学校現場での実践分析を行う。生徒指導上の問題を解決するためのケーススタディの方法論と臨床研究を行う。教育実践現場からの問題提起を受けながら、その問題解決の方向を探る。	共同
	学校教育実践高度化コース	重点領域 A	授業実践開発	教科等の授業開発・実践研究Ⅲ（国語）	「教科等の授業開発・実践研究Ⅰ」「教科等の授業開発・実践研究Ⅱ」の学習成果を基盤にして、学校現場で広く行われている教科の授業開発研究のあり方について理解を深めるとともに、その手法を修得する。教科に関する実践的な授業開発研究の手法を身に付けるために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 熊本県の授業作りの現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 先行実践の課題を克服する授業作りに取り組む段階（第4回～第10回） (3) 先行実践の課題を克服する授業作りを反省する段階（第11回～第15回）	
				教科等の授業開発・実践研究Ⅲ（社会）	「教科等の授業開発・実践研究Ⅰ」「教科等の授業開発・実践研究Ⅱ」の学習成果を基盤にして、学校現場で広く行われている教科の授業開発研究のあり方について理解を深めるとともに、その手法を修得する。教科に関する実践的な授業開発研究の手法を身に付けるために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 熊本県の授業作りの現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 先行実践の課題を克服する授業作りに取り組む段階（第4回～第10回） (3) 先行実践の課題を克服する授業作りを反省する段階（第11回～第15回）	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅲ（数学）	「教科等の授業開発・実践研究Ⅰ」「教科等の授業開発・実践研究Ⅱ」の学習成果を基盤にして、学校現場で広く行われている教科の授業開発研究のあり方について理解を深めるとともに、その手法を修得する。教科に関する実践的な授業開発研究の手法を身に付けるために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 熊本県の授業作りの現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 先行実践の課題を克服する授業作りに取り組む段階（Ⅰ準備:第4～6回／Ⅱ構想:第7～10回） (3) 先行実践の課題を克服する授業作りを反省する段階（第11回～第15回）	
				教科等の授業開発・実践研究Ⅲ（理科）	「教科等の授業開発・実践研究Ⅰ」「教科等の授業開発・実践研究Ⅱ」の学習成果を基盤にして、学校現場で広く行われている教科の授業開発研究のあり方について理解を深めるとともに、その手法を修得する。教科に関する実践的な授業開発研究の手法を身に付けるために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 熊本県の授業作りの現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 先行実践の課題を克服する授業作りに取り組む段階（Ⅰ準備:第4～6回／Ⅱ構想:第7～10回） (3) 先行実践の課題を克服する授業作りを反省する段階（第11回～第15回）	共同

専 門 科 目	教 科 教 育 実 践 高 度 化 コ ー ス	重 点 領 域 A	授 業 実 践 開 発	教科等の授業開発・実践研究Ⅲ（音楽）	「教科等の授業開発・実践研究Ⅰ」「教科等の授業開発・実践研究Ⅱ」の学習成果を基盤にして、学校現場で広く行われている教科の授業開発研究のあり方について理解を深めるとともに、その手法を修得する。教科に関する実践的な授業開発研究の手法を身に付けるために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 熊本県の授業作りの現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 先行実践の課題を克服する授業作りに取り組む段階（第4回～第10回） (3) 先行実践の課題を克服する授業作りを反省する段階（第11回～第15回）	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅲ（美術）	「教科等の授業開発・実践研究Ⅰ」「教科等の授業開発・実践研究Ⅱ」の学習成果を基盤にして、学校現場で広く行われている教科の授業開発研究のあり方について理解を深めるとともに、その手法を修得する。教科に関する実践的な授業開発研究の手法を身に付けるために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 熊本県の授業作りの現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 先行実践の課題を克服する授業作りに取り組む段階（第4回～第10回） (3) 先行実践の課題を克服する授業作りを反省する段階（第11回～第15回）	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅲ（保健体育）	「教科等の授業開発・実践研究Ⅰ」「教科等の授業開発・実践研究Ⅱ」の学習成果を基盤にして、学校現場で広く行われている教科の授業開発研究のあり方について理解を深めるとともに、その手法を修得する。教科に関する実践的な授業開発研究の手法を身に付けるために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 熊本県の授業作りの現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 先行実践の課題を克服する授業作りに取り組む段階（第4回～第10回） (3) 先行実践の課題を克服する授業作りを反省する段階（第11回～第15回）	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅲ（技術）	「教科等の授業開発・実践研究Ⅰ」「教科等の授業開発・実践研究Ⅱ」の学習成果を基盤にして、学校現場で広く行われている教科の授業開発研究のあり方について理解を深めるとともに、その手法を修得する。教科に関する実践的な授業開発研究の手法を身に付けるために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 熊本県の授業作りの現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 先行実践の課題を克服する授業作りに取り組む段階（第4回～第10回） (3) 先行実践の課題を克服する授業作りを反省する段階（第11回～第15回）	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅲ（家庭）	「教科等の授業開発・実践研究Ⅰ」「教科等の授業開発・実践研究Ⅱ」の学習成果を基盤にして、学校現場で広く行われている教科の授業開発研究のあり方について理解を深めるとともに、その手法を修得する。教科に関する実践的な授業開発研究の手法を身に付けるために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 熊本県の授業作りの現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 先行実践の課題を克服する授業作りに取り組む段階（第4回～第10回） (3) 先行実践の課題を克服する授業作りを反省する段階（第11回～第15回）	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅲ（英語）	「教科等の授業開発・実践研究Ⅰ」「教科等の授業開発・実践研究Ⅱ」の学習成果を基盤にして、学校現場で広く行われている教科の授業開発研究のあり方について理解を深めるとともに、その手法を修得する。教科に関する実践的な授業開発研究の手法を身に付けるために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 熊本県の授業作りの現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 先行実践の課題を克服する授業作りに取り組む段階（第4回～第10回） (3) 先行実践の課題を克服する授業作りを反省する段階（第11回～第15回）	共同

専 門 科 目	教 科 教 育 実 践 高 度 化 コ ー ス	重 点 領 域 A	授 業 実 践 開 発	教科等の授業開発・実践研究Ⅳ（国語）	「教科等の授業開発・実践研究Ⅰ」「教科等の授業開発・実践研究Ⅱ」「教科等の授業開発・実践研究Ⅲ」の学習成果を基盤にして、学校現場で広く行われている教科の学習評価（発言・記述分析等）のあり方について理解を深めるとともに、その方法を修得する。教科の学習評価を計画・実施し、その結果の分析を踏まえて授業を改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 学習評価の諸理論に基づいて学習評価の現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 教科における学習評価を計画・実施し結果を分析する段階（第4回～第7回） (3) 評価結果に基づいて授業を改善する段階（第8回～第15回）	
				教科等の授業開発・実践研究Ⅳ（社会）	「教科等の授業開発・実践研究Ⅰ」「教科等の授業開発・実践研究Ⅱ」「教科等の授業開発・実践研究Ⅲ」の学習成果を基盤にして、学校現場で広く行われている教科の学習評価（発言・記述分析等）のあり方について理解を深めるとともに、その方法を修得する。教科の学習評価を計画・実施し、その結果の分析を踏まえて授業を改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 学習評価の諸理論に基づいて学習評価の現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 社会科における学習評価を計画・実施し結果を分析する段階（第4回～第7回） (3) 評価結果に基づいて授業を改善する段階（第8回～第15回）	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅳ（数学）	「教科等の授業開発・実践研究Ⅰ」「教科等の授業開発・実践研究Ⅱ」「教科等の授業開発・実践研究Ⅲ」の学習成果を基盤にして、学校現場で広く行われている教科の学習評価（発言・記述分析等）のあり方について理解を深めるとともに、その方法を修得する。教科の学習評価を計画・実施し、その結果の分析を踏まえて授業を改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 学習評価の諸理論に基づいて学習評価の現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 数学における学習評価を計画・実施し結果を分析する段階（第4回～第7回） (3) 評価結果に基づいて授業を改善する段階（第8回～第15回）	
				教科等の授業開発・実践研究Ⅳ（理科）	「教科等の授業開発・実践研究Ⅰ」「教科等の授業開発・実践研究Ⅱ」「教科等の授業開発・実践研究Ⅲ」の学習成果を基盤にして、学校現場で広く行われている教科の学習評価（発言・記述分析等）のあり方について理解を深めるとともに、その方法を修得する。教科の学習評価を計画・実施し、その結果の分析を踏まえて授業を改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 学習評価の諸理論に基づいて学習評価の現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 理科における学習評価を計画・実施し結果を分析する段階（第4回～第7回） (3) 評価結果に基づいて授業を改善する段階（第8回～第15回）	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅳ（音楽）	「教科等の授業開発・実践研究Ⅰ」「教科等の授業開発・実践研究Ⅱ」「教科等の授業開発・実践研究Ⅲ」の学習成果を基盤にして、学校現場で広く行われている教科の学習評価（発言・記述分析等）のあり方について理解を深めるとともに、その方法を修得する。教科の学習評価を計画・実施し、その結果の分析を踏まえて授業を改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 学習評価の諸理論に基づいて学習評価の現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 教科における学習評価を計画・実施し結果を分析する段階（第4回～第7回） (3) 評価結果に基づいて授業を改善する段階（第8回～第15回）	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅳ（美術）	「教科等の授業開発・実践研究Ⅰ」「教科等の授業開発・実践研究Ⅱ」「教科等の授業開発・実践研究Ⅲ」の学習成果を基盤にして、学校現場で広く行われている教科の学習評価（発言・記述分析等）のあり方について理解を深めるとともに、その方法を修得する。教科の学習評価を計画・実施し、その結果の分析を踏まえて授業を改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 学習評価の諸理論に基づいて学習評価の現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 各教科における学習評価を計画・実施し結果を分析する段階（第4回～第7回） (3) 評価結果に基づいて授業を改善する段階（第8回～第15回）	共同

専 門 科 目	教科教育実践高度化コース	重点領域 A	授業実践開発	教科等の授業開発・実践研究Ⅳ（保健体育）	「教科等の授業開発・実践研究Ⅰ」「教科等の授業開発・実践研究Ⅱ」「教科等の授業開発・実践研究Ⅲ」の学習成果を基盤にして、学校現場で広く行われている教科の学習評価（発言・記述分析等）のあり方について理解を深めるとともに、その方法を修得する。教科の学習評価を計画・実施し、その結果の分析を踏まえて授業を改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 学習評価の諸理論に基づいて学習評価の現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 各教科における学習評価を計画・実施し結果を分析する段階（第4回～第7回） (3) 評価結果に基づいて授業を改善する段階（第8回～第15回）	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅳ（技術）	「教科等の授業開発・実践研究Ⅰ」「教科等の授業開発・実践研究Ⅱ」「教科等の授業開発・実践研究Ⅲ」の学習成果を基盤にして、学校現場で広く行われている教科の学習評価（発言・記述分析等）のあり方について理解を深めるとともに、その方法を修得する。教科の学習評価を計画・実施し、その結果の分析を踏まえて授業を改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 学習評価の諸理論に基づいて学習評価の現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 教科における学習評価を計画・実施し結果を分析する段階（第4回～第7回） (3) 評価結果に基づいて授業を改善する段階（第8回～第15回）	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅳ（家庭）	「教科等の授業開発・実践研究Ⅰ」「教科等の授業開発・実践研究Ⅱ」「教科等の授業開発・実践研究Ⅲ」の学習成果を基盤にして、学校現場で広く行われている教科の学習評価（発言・記述分析等）のあり方について理解を深めるとともに、その方法を修得する。教科の学習評価を計画・実施し、その結果の分析を踏まえて授業を改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 学習評価の諸理論に基づいて学習評価の現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 家庭科における学習評価を計画・実施し結果を分析する段階（第4回～第7回） (3) 評価結果に基づいて授業を改善する段階（第8回～第15回）	共同
				教科等の授業開発・実践研究Ⅳ（英語）	「教科等の授業開発・実践研究Ⅰ」「教科等の授業開発・実践研究Ⅱ」「教科等の授業開発・実践研究Ⅲ」の学習成果を基盤にして、学校現場で広く行われている教科の学習評価（発言・記述分析等）のあり方について理解を深めるとともに、その方法を修得する。教科の学習評価を計画・実施し、その結果の分析を踏まえて授業を改善できる力を育むために、本講義を次のような3つの段階で実施する。 (1) 学習評価の諸理論に基づいて学習評価の現状と課題を考察する段階（第1回～第3回） (2) 教科における学習評価を計画・実施し結果を分析する段階（第4回～第7回） (3) 評価結果に基づいて授業を改善する段階（第8回～第15回）	共同
	特別支援教育実践高度化コース	教育実践研究科目		特別支援教育実践研究Ⅰ	「特別支援教育実践研究Ⅰ」は、特別支援教育領域における (a) 子ども理解・アセスメント力、(b) 指導力、(c) コーディネーター力について、附属学校・連携協力校・関連専門施設等での参与観察・支援計画の立案・指導記録の分析を行うことで、特別支援教育の実践力の高度化を図る。	共同
				特別支援教育実践研究Ⅱ	「特別支援教育実践研究Ⅱ」は、「特別支援教育実践研究Ⅰ」を受けて、各個人の課題を省察し、自身の実践的課題を明らかにさせる。次いで「実践課題研究」におけるテーマを追求するために、附属学校・連携協力校・関連専門施設等における実習の具体的な活動を計画し、授業実践や指導事例、コーディネーター介入実践等を通して実践研究を遂行させる。	共同
		重点領域 C	特別支援教育システムと障害理解	特別支援教育論	特別支援教育の実践においては、多様な立場にある関係者との円滑な関係性を構築する力が求められる。本科目では、関係者との連携を円滑に行うための方策を身につけることを目指す。保護者、福祉関係者、医療関係者、障害当事者それぞれの考え方の背景を理解し、その立場を尊重しながら討議を深める過程を通して、関係性構築力を高める演習を行う。	
				発達障害児の理解と支援	通常の学級に多く在籍する発達障害児（自閉症スペクトラム、ADHD、LD等）について、心理社会的発達の視点から障害特性を深く学び、教育・発達支援現場における具体的な支援方法について考究する。授業では、各種の発達障害に関する最新の研究知見を省察し、それらを踏まえた学校教育及び発達支援の実践的課題と関連づけながら議論する。それぞれの受講生には、自身の体験や指導・支援上の課題と関連づけ理解することが求められる。	

専 門 科 目	特別支援教育実践高度化コース	重点領域C	解	特別支援教育システムと障害理解	コミュニケーション障害児の理解と支援	聴覚・言語障害のある児童生徒の個々の特別な教育的ニーズに対応した授業づくり演習を行う。受講者は、ICTを用いた情報保障支援、構音指導の実践を含む特別支援学級・通級指導教室における模擬授業の演習を行う。さらに、通常学級で聴覚・言語障害児に配慮した授業のあり方を検討し、指文字・吃音紹介等の障害理解をはかる模擬授業の演習を行うことで、総合的に当該分野の授業力の向上を目指す。	
				特別支援教育システムと障害理解	重度・重複障害児の理解と支援	重度・重複障害の実態の多様性について知り、その指導・支援目標や教育上の配慮、具体的な方法について理論と事例を通して理解する。また、重複障害者等に関する教育課程の取扱いを踏まえ、キャリアとの関連を考えながら重度・重複障害児者における社会に開かれた教育課程について実際の教育課程に触れながら考究し議論する。	
		重点領域D	特別支援教育指導法	特別支援学校カリキュラム・マネジメント論	特別支援学校における教育課程の編成について、特に知的障害特別支援学校におけるカリキュラム・マネジメントについて、知的障害児の心理社会的発達の視点から障害特性と具体的な支援方法を踏まえて考究する。授業では、学校教育及び発達支援の実践的課題と関連づけながら議論する。それぞれの受講生には、自身の体験や指導・支援上の課題と関連づけて理解することが求められる。	共同	
				特別支援教育教科指導演習	小中学校等と特別支援学校（知的障害）の教科内容の連続性を踏まえて、特別な支援が必要な児童生徒の実態に応じた「教科別の指導」や「各教科等を合わせた指導」の授業づくりに関する演習を行う。受講者は、年間指導計画や学習指導案の作成、模擬授業の実施をとおして、特別支援教育の教科指導における実践的課題の解決を目指す。	共同	
				自立活動指導演習	障害に基づく種々の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養うことを目的とした自立活動における、実態把握、課題設定、教材作成、活動の展開、評価について理論的、実践的に学ぶ。知的障害、発達障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、重度・重複障害の児童生徒を指導・支援対象とし、自立活動の在り方について幅広く考える。	共同	
				心理教育アセスメントの理論と実践	特別支援教育コーディネーターに必須のリテラシーである心理教育アセスメントの理論と実践的スキルについて、各種の認知・発達・知能検査の概要や実施技能、及び解釈について、事例演習を行っていく。取り上げる検査については、現在教育・発達支援の現場で最も用いられるWISC-IVを中心に、それらを補完する諸検査についても幅広く取り上げることで、多角的な側面から幼児・児童・生徒をアセスメントし、指導・支援計画への反映について議論する。	共同	
				教育支援計画作成演習	本授業では、個別的教育支援計画の作成が必要とされる背景や、欧米における障がいのある人を中心とした支援計画の動向についても調べる。その知見を踏まえて、実際に個別的教育支援計画を作成するための演習を実施することによって、個別的教育支援計画に必要な様式や運用の在り方について協議をする。その協議結果を踏まえて、実際に特別支援学校での活用の在り方を検討する。	共同	
				通級指導教室・特別支援学級の運営演習	本授業では、個々の児童生徒の実態把握について理解し、実態把握から個別の指導計画の作成を行い、その指導計画に基づいた指導を行う。合わせて、通級指導教室と特別支援学校での教育課程の編成の在り方や校内での支援体制の一つとしての役割についても協議し、実施上の課題について検討する。	共同	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

熊本大学 設置申請に係わる組織の移行表

2019年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	2020年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
熊本大学				熊本大学				
文学部				文学部				
総合人間学科	55	-	220	総合人間学科	55	-	220	
歴史学科	35	-	140	歴史学科	35	-	140	
文学科	50	-	200	文学科	50	-	200	
コミュニケーション情報学科	30	-	120	コミュニケーション情報学科	30	-	120	
	3年次				3年次			
(学部共通)	-	10	20	(学部共通)	-	10	20	
教育学部				教育学部				
小学校教員養成課程	110	-	440	小学校教員養成課程	110	-	440	
中学校教員養成課程	70	-	280	中学校教員養成課程	70	-	280	
特別支援教育教員養成課程	20	-	80	特別支援教育教員養成課程	20	-	80	
養護教諭養成課程	30	-	120	養護教諭養成課程	30	-	120	
地域共生社会課程	0	-	0		0	-	0	平成29年4月学生募集停止
生涯スポーツ福祉課程	0	-	0		0	-	0	平成29年4月学生募集停止
法学部				法学部				
	3年次				3年次			
法学科	210	10	860	法学科	210	10	860	
理学部				理学部				
理学科	200	-	800	理学科	200	-	800	
医学部				医学部				
医学科(6年制)	115	-	690	医学科(6年制)	110	-	660	定員変更(△5)
	3年次				3年次			
保健学科	144	16	608	保健学科	144	16	608	
薬学部				薬学部				
薬学科(6年制)	55	-	330	薬学科(6年制)	55	-	330	
創薬・生命薬科学科	35	-	140	創薬・生命薬科学科	35	-	140	
工学部				工学部				
	3年次				3年次			
土木建築学科	124	10	516	土木建築学科	124	10	516	
機械数理工学科	109	10	456	機械数理工学科	109	10	456	
情報電気工学科	149	20	636	情報電気工学科	149	20	636	
材料・応用化学科	131	5	534	材料・応用化学科	131	5	534	
物質生命化学科	0	-	0		0	-	0	平成30年4月学生募集停止
マテリアル工学科	0	-	0		0	-	0	平成30年4月学生募集停止
機械システム工学科	0	-	0		0	-	0	平成30年4月学生募集停止
社会環境工学科	0	-	0		0	-	0	平成30年4月学生募集停止
建築学科	0	-	0		0	-	0	平成30年4月学生募集停止
情報電気電子工学科	0	-	0		0	-	0	平成30年4月学生募集停止
数理工学科	0	-	0		0	-	0	平成30年4月学生募集停止
	3年次				3年次			
計	1,672	81	7,190	計	1,667	81	7,160	

熊本大学大学院				熊本大学大学院			
教育学研究科				教育学研究科			
学校教育実践専攻(M)	7	-	14	<u>0</u>	-	<u>0</u>	平成32年4月学生募集停止
教科教育実践専攻(M)	23	-	46	<u>0</u>	-	<u>0</u>	平成32年4月学生募集停止
教職実践開発専攻(P)	15	-	30	<u>教職実践開発専攻(P)</u>	<u>30</u>	-	<u>60</u> 研究科の専攻の設置(事前伺い)
社会文化科学教育部				社会文化科学教育部			
法政・紛争解決学専攻(M)	25	-	44	法政・紛争解決学専攻(M)	25	-	44
公共政策学専攻(M)	0	-	0		0	-	0 平成31年4月学生募集停止
法学専攻(M)	0	-	0		0	-	0 平成31年4月学生募集停止
現代社会人間学専攻(M)	18	-	36	現代社会人間学専攻(M)	18	-	36
文化学専攻(M)	18	-	36	文化学専攻(M)	18	-	36
教授システム学専攻(M)	15	-	30	教授システム学専攻(M)	15	-	30
人間・社会科学専攻(D)	6	-	18	人間・社会科学専攻(D)	6	-	18
文化学専攻(D)	6	-	18	文化学専攻(D)	6	-	18
教授システム学専攻(D)	3	-	9	教授システム学専攻(D)	3	-	9
自然科学教育部				自然科学教育部			
理学専攻(M)	110	-	220	理学専攻(M)	110	-	220
土木建築学専攻(M)	75	-	150	土木建築学専攻(M)	75	-	150
機械数理工学専攻(M)	65	-	130	機械数理工学専攻(M)	65	-	130
情報電気工学専攻(M)	103	-	206	情報電気工学専攻(M)	103	-	206
材料・応用化学専攻(M)	90	-	180	材料・応用化学専攻(M)	90	-	180
理学専攻(D)	12	-	36	理学専攻(D)	12	-	36
工学専攻(D)	46	-	138	工学専攻(D)	46	-	138
自然科学研究科				自然科学研究科			
理学専攻(M)	0	-	0		0	-	0 平成30年4月学生募集停止
数学専攻(M)	0	-	0		0	-	0 平成30年4月学生募集停止
機械システム工学専攻(M)	0	-	0		0	-	0 平成30年4月学生募集停止
情報電気電子工学専攻(M)	0	-	0		0	-	0 平成30年4月学生募集停止
社会環境工学専攻(M)	0	-	0		0	-	0 平成30年4月学生募集停止
建築学専攻(M)	0	-	0		0	-	0 平成30年4月学生募集停止
理学専攻(D)	0	-	0		0	-	0 平成30年4月学生募集停止
複合新領域科学専攻(D)	0	-	0		0	-	0 平成30年4月学生募集停止
産業創造工学専攻(D)	0	-	0		0	-	0 平成30年4月学生募集停止
情報電気電子工学専攻(D)	0	-	0		0	-	0 平成30年4月学生募集停止
環境共生工学専攻(D)	0	-	0		0	-	0 平成30年4月学生募集停止
医学教育部				医学教育部			
医科学専攻(M)	20	-	40	医科学専攻(M)	20	-	40
医学専攻(4年制D)	88	-	352	医学専攻(4年制D)	88	-	352
保健学教育部				保健学教育部			
保健学専攻(M)	24	-	48	保健学専攻(M)	24	-	48
保健学専攻(D)	6	-	18	保健学専攻(D)	6	-	18
薬学教育部				薬学教育部			
創薬・生命薬科学専攻(M)	35	-	70	創薬・生命薬科学専攻(M)	35	-	70
創薬・生命薬科学専攻(D)	10	-	30	創薬・生命薬科学専攻(D)	10	-	30
医療薬学専攻(4年制D)	8	-	32	医療薬学専攻(4年制D)	8	-	32
計	828	-	1,931	計	<u>813</u>	-	<u>1,901</u>